

2011-15 年度
多文化社会人材養成プロジェクト報告書

東京外国語大学
多言語・多文化教育研究センター

はじめに

多言語・多文化教育研究センター長
青山 亨

多言語・多文化教育研究センターが実施してきた「多文化社会人材養成プロジェクト」は 2015 年度をもって 5 年間のプロジェクトを終了することになる。プロジェクトの全体像を記録し、将来の事業へつないでいくために、ここにプロジェクトの 5 年間の振り返り報告書を刊行することとした。プロジェクトの中で実施された個別の事業については、このあとにより詳しく報告されているので、ここではまずプロジェクトの背景と概要を説明し、その主要な成果と課題を明らかにしておきたい。

「多文化社会人材養成プロジェクト」は、2006～2010 年度に実施された「多言語・多文化教育研究プロジェクト」の後継プロジェクトとして 2011 年度に始まった。ここでは後者を第 1 期、前者を第 2 期と呼ぶことにする。

2 期 10 年間のプロジェクトに共通しているのは、日本社会の少子高齢化にともなう労働力の不足が顕在化する一方で、日本に定住する外国人の数が人口の 2 パーセントを超えているという現状を踏まえ、多言語・多文化化する日本社会の諸問題に対応できる人材を大学として育てる必要があるという認識である。

この認識を踏まえ、第 1 期では多文化共生研究と多文化教育コンテンツの研究開発に取り組んできた。とくに後者では、学部生を対象にした基礎的な多文化教育と現場の社会人を対象にした実践的なリカレント教育の開発が進められた。その成果の具体的な結実が、外国語学部における Add-on Program 「多言語・多文化総合プログラム」であり、2010 年度に本学のオープンアカデミーの枠組みで開設された「多言語・多文化社会

専門人材養成講座」（「多文化社会コーディネーター」と「コミュニティ通訳」の 2 コースで構成される）であった。

これらの成果に基づき、第 2 期は、少子高齢化やグローバル化によって進展する外国人受入れに関わる諸課題の解決に必要な人材を養成するとともに、多言語・多文化社会に関わる諸課題の協働実践型研究を進め、その成果をリカレント教育等の社会連携事業に活用することを目的として、人材養成によりフォーカスした形で実施された。

教育分野では、2012 年度に本学の外国語学部が言語文化学部と国際社会学部に改編されたのを受けて、「多言語・多文化総合プログラム」は、両学部共通の世界教養プログラムおよび言語文化学部のグローバルコミュニケーションコースの専修プログラムにおいて開講されることになった。専修プログラムにおいては、専任教員による「多文化社会コーディネーション」と「コミュニティ通訳」の教育が開始された。

また、外国につながる子どもたちの学習支援や国際理解教育に関する学生ボランティア活動を支援すべく 2004 年に開設された多文化コミュニティ教育支援室は、2006 年からセンターの一部門になっていたが、2012 年度には「ボランティア活動スペース」(VOLAS) に改称され、本学の学生ボランティア活動全般を支援する大学の組織に改組された。

社会連携分野では、多言語・多文化社会専門人材養成講座を実施することで、多文化社会コーディネーターとコミュニティ通訳の両コースで

毎年一定数の修了生を輩出してきた。さらに、コミュニティ通訳修了生については、その中から希望者を募ってコミュニティ通訳紹介制度を立ち上げ、弁護士会の外国人法律相談会で実践経験を積む機会を提供した。

研究分野では、これらの多文化社会コーディネーターやコミュニティ通訳を専門職として確立するための要件および制度の可能性について検討がおこなわれ、一定の成果を収めることができた。

以上、第2期を振り返ってみるならば、第1期を基礎とした発展期であったということができよう。とりわけ教育分野では、センターがおこなってきた中核的な事業は、成功裡に大学本体のカリキュラムおよび活動に移し替えられていった。加えて大学院の博士前期課程では、すでにコミュニティ通訳の教育が始まっており、さらに2016年度からは、新しく導入されるキャリア・プログラムの一つとして「多文化コーディネーター養成プログラム」が開設される予定である。言うなれば、センターがまいた種から芽が生えて一本立ちしていった、ということになる。

社会連携分野では、第2期開始時に想定されていた地域・子ども日本語教育指導者（コーディネーター）は独立したコースとして開設するには至らなかったが、多文化社会コーディネーターと

コミュニティ通訳については、十分な数の修了生を輩出することができたし、彼らのネットワークも形成されたと見えよう。

研究分野では、これらの職種の専門職としての確立に向けて「倫理綱領」の策定や認定の試行が実施された。これらは専門職としての確立を実現するための大事な布石となったが、この課題自体は今後も継続して検討されるべきものとして残されている。

プロジェクト終了後のセンターは、本学の社会・国際貢献基盤の枠組みの中であって、大学の多言語・多文化に関する社会貢献事業を進めていくことが決定されている。センターの新たな出発と取り組みに期待される場所である。

最後に、プロジェクトの成果の一端として、このプロジェクト無くしては生まれなかった出版物をあげて、「はじめに」の締めくくりとしたい。

(1) は第2期プロジェクトの構想の背景にある外国人の社会統合についての論考、(2) は世界と日本の多文化社会を理解するためのグローバルな視点を提供する大学教養レベルの読本、(3) は多文化社会コーディネーターとコミュニティ通訳に必須の基礎知識をまとめたハンドブック、(4) は職業としてのコミュニティ通訳の全体像を明らかにした概説、そして、(5) および (6) は多文化社会コーディネーターを専門職として確立するための実践と研究の記録である。

- 1) 北脇保之編著『「開かれた日本」の構想—移民受け入れと社会統合』（ココ出版、2011年）
- 2) 長谷部美佳・受田宏之・青山亨編『多文化社会読本—多様な世界、多様な日本』（東京外国語大学出版会、2016年）
- 3) 杉澤経子・関聡介・阿部裕監修『これだけは知っておきたい！外国人相談の基礎知識』（松柏社、2015年）
- 4) 水野真木子・内藤稔著『コミュニティ通訳—多文化共生社会のコミュニケーション』（みすず書房、2015年）
- 5) 『シリーズ多言語多文化協働実践研究』全17巻（多言語・多文化教育研究センター、2008～2013年）
- 6) 杉澤経子編著『多文化社会コーディネーターの専門職の知と専門性評価—認定制度の構築に向けて』（科学研究費助成事業報告書、2016年）

目次

はじめに	2
◆ 多文化社会人材養成プロジェクト（2011 - 15 年度）	
活動概要	
教育	10
研究	12
社会連携	14
活動実績評価	15
◆ データでみる活動実績	
【2015 年度事業】	
I. 教育	
多言語・多文化総合プログラム	
-1 2015 年度授業内容	18
II. 研究	
協働実践型研究プログラム	
-1 研究会構成	28
-2 研究活動	28
多文化社会実践研究・全国フォーラム	
-3 多文化社会実践研究・全国フォーラム（第 9 回）	30
研究成果の発信（刊行物）	
-4 研究誌『多言語多文化—実践と研究』vol.7	32
III. 社会連携	
多文化社会専門人材養成講座—多文化社会論基礎	
-1 講座概要	33
-2 日程・時間割	33
-3 運営	33
-4 受講者	33
コミュニティ通訳活動	
-5 活動実績	34
-6 登録者数	35
言語ボランティア活動	
-7 リレー専門家相談会参加実績	36
-8 登録者数	36

後援・共催	
-9 後援・共催事業	37
外国につながる子どもたちのための教材	
-10 各教材ダウンロード数	38
佐賀県受託協働実践研究	
-11 佐賀県多文化共生施策推進のための調査研究	42
IV. 広報活動	
-1 メールマガジン発行状況	43
-2 新聞・雑誌等掲載関連記事一覧	43
V. センターの運営	
-1 センター会議開催状況	44
-2 運営メンバー	44
【多文化社会人材養成プロジェクト（2011-15年度）】	
VI. 教育	
多言語・多文化総合プログラム	
-1 開講科目一覧	46
-2 授業内容（2011 - 15年度）	47
-3 履修登録者数	72
VII. 研究	
協働実践型研究プログラム	
-1 研究会構成	73
-2 研究活動	74
-3 研究会メンバー	75
-4 研究成果の発信	78
多文化社会実践研究・全国フォーラム	
-5 多文化社会実践研究・全国フォーラム（第5-9回）	79
新進研究者・実践者支援／センターフェロー制度	
-6 センターフェロー（第7-8期）	81
研究成果の発信	
-7 研究誌『多言語多文化—実践と研究』（4-7号）	82
学内連携の推進	
-8 研究フォーラム「シリーズ 多文化社会で働くということ」	84

Ⅷ. 社会連携

多文化社会専門人材養成講座

-1 講座概要	85
-2 応募状況	86
-3 講座日程・時間割（2011－15年度）	87
-4 運営	92
-5 受講者	92

コミュニティ通訳活動

-6 活動実績	94
-7 登録者数	96
-8 研修会の実施	96

言語ボランティア活動

-9 リレー専門家相談会参加実績（2011－15年度）	97
-10 翻訳協力	98
-11 研修会の実施	98
-12 登録者	99

後援・共催

-13 後援・共催事業	100
-------------	-----

外国につながる子どもたちのための教材開発

-14 開発教材	101
-15 各教材ダウンロード数	101
-16 教材見本の作成・配布	102

佐賀県受託協働実践研究

-17 佐賀県多文化共生施策推進のための調査研究	103
--------------------------	-----

多文化コミュニティ教育支援室／ボランティア活動スペース（VOLAS）

-18 登録学生数	104
-19 外国につながる子どもへの学習支援活動	104
-20 国際理解教育活動	104
-21 講座・研修の実施	105
-22 高校生のための国際理解セミナー	106
-23 オープンキャンパスにおける活動紹介	106
-24 その他	106

東日本大震災支援活動・その他

-25 「東日本大震災 多言語翻訳・情報提供」活動報告	107
-26 学生震災ボランティア活動の推進	113
-27 新しい在留管理制度に関する情報の翻訳	114

IX. 広報活動

- 1 メールマガジン発行状況115
- 2 新聞・雑誌等掲載関連記事一覧116
- 3 テレビ・ラジオ出演117

X. センターの運営

- 1 多言語・多文化教育研究センター運営メンバー118

刊行物一覧120

◆ 資料

規程等

- 1. 多言語・多文化教育研究センター規程 124
- 2. 事業共催・後援取扱要綱 127
- 3. 研究誌 128
- 4. 多文化社会コーディネーター倫理綱領 134
- 5. 相談通訳の倫理綱領 136
- 6. 事業計画書（2011-15年度） 138

多文化社会人材養成プロジェクト (2011-15年度)

活 動 概 要

活 動 実 績 評 価

活動概要

教育

多言語・多文化を深く学び、社会とのつながりを図る

東京外国語大学が2012年度から言語文化学部と国際社会学部の2学部体制に改編されたことを受け、本センターでは、多言語・多文化化する日本社会のいまを多面的に学ぶ教育プログラム「多言語・多文化総合プログラム」を、両学部にまたがる「世界教養プログラム」及び言語文化学部「グローバルコミュニケーションコース」において開講した。また本プロジェクト終了後には「キャリア・プログラム」の一環として、多文化コーディネーター養成に向けた教育が大学院レベルにおいても開講される予定と成っている。

<多言語・多文化総合プログラム>

【世界教養プログラム】

世界教養プログラムでは、本学の卒業生ならばだれでも知っておいてほしい「多言語・多文化社会」の教養を身につける世界教養科目群を提供した。日本の多文化化に関する基礎的知識を学ぶ「多言語・多文化社会論：入門」、本学の教員がそれぞれの専門地域の多文化状況について、リレーで講義をする「多言語・多文化社会論：歴史と現在」、多文化社会の現状を理論的な背景から把握できるようにするための「多言語・多文化社会論：理論と視角」、そして学んだ知識を元に、地域の外国籍市民への貢献をするための「多言語・多文化社会論：実習」を開講した。

【グローバルコミュニケーションコース】

一方、グローバルコミュニケーションコースでは、多文化共生社会の構築に向けた専門知識の基礎を学ぶ専門科目群を開講した。日本の多言語・多文化化に対応した「子ども・地域日本語教育」の観点を持つ授業にくわえ、多言語・多文化領域として「多文化社会コーディネーション」、「コミュニティ通訳」の2つの専門課程が位置づけられ、導入から概論、そして専門レベルに至るまで、多岐に亘る科目を提供した。

(導入科目)

「多文化社会コーディネーション」、「コミュニティ通訳」の両分野に共通する基礎知識の体得にあたっては、導入科目として、当初はグローバルコミュ

ニケーションコースの通訳・翻訳領域担当教員とともに「言語文化コミュニケーション入門」が開講された。またその後はこれに代わる形で、グローバルコミュニケーションコースの各専門領域（通訳・翻訳、英語教育学、日本語教育学など）の担当教員との輪講「言語教育とコミュニケーション」が開講され、主に1年生を対象に、多言語・多文化領域での学びを深めていくうえで必要となる基本的知識を講義した。

(概論科目)

主として2年生を対象とする概論科目としては、科目名「多言語・多文化社会実践概論」において「多文化社会コーディネーション概論」、「コミュニティ通訳概論」をそれぞれ題目名とする授業が提供された。

多文化社会コーディネーション概論は、コーディネーションを文化や価値観の異なる人と、課題解決のために一つの作業を進めていくための必要な力と位置づけ、異なる文化の人と活動する際に必要な考え方の概念を理解することを目的としている。例えば聴く力や異文化間能力、偏見や自民族中心主義、協働などの考え方を学び、実践を行う上での基礎知識を理解するような授業を実施した。

一方、コミュニティ通訳概論は、国内の多言語・多文化化により生ずる課題が、今後さらに複雑化していくと考えられるなか、コミュニティ通訳の主な専門領域である相談、司法、行政、教育、医療などの各現場における事例を基に、考察を深めていくことをねらいとした。本授業では、学期前半では、通訳の歴史や理論、および技術や訓練法などへの基本的な理解を深めることとし、また学期後半にかけては、会議通訳などとの比較を通じて、今後コミュニティ通訳が果たすべき役割や専門性のあり方について議論し、問題意識を高める授業を目指した。

(専門科目)

3年次以降の学生を対象とする専門科目では、多文化社会コーディネーション、コミュニティ通訳両分野に共通する科目として「インターンシップ」が開講された。この授業では、学生が主体的に社会に

溶け込み、多言語・多文化の問題を肌で感じることができるよう、さまざまな外部機関との連携において開かれたものである。たとえば横浜市のいちょう団地にある多文化まちづくり工房においてコミュニティ通訳研修の開催に携わったり、本学が位置する府中市の市役所や国際交流サロンと協働でワールドカフェを実施したり、また防災や子育て支援のテーマをもとに、地域に暮らす外国人向けに生活便利帳を作成、公開することとなった。

多文化社会コーディネーションに特化した専門科目としては、科目名「コミュニケーション論」と、科目名「多文化社会コーディネーター論研究」が実施されている。「コミュニケーション論」では「多文化社会コーディネーション概論」で学んだ概念を実践的に学び直せるような授業展開をしている。具体的には、異文化理解や聴く力についての概念を整理したうえで、各回学生同士のペアワークを実施したり、また外部から府中市の市民と外国人市民に来ていただいて、他者の話を「聴く」ことや質問をすることを通して、立場や価値観の異なる人とのコミュニケーションに必要なスキルを実感できるような授業を展開した。また、「多文化社会コーディネーター論研究」においては、日本の多文化化に対して、自分たちが企画を考えることを最終目標に、日本の多文化化についての状況を、概念と事例を通して学び、また既存の取り組みについての資料を読みながら、課題をそこから抽出するような作業も行った。また、いわゆるゼミに当たる「多文化社会コーディネーター論」の専門演習では、日本の多文化化だけにとどまらず、多文化に関する様々な書籍を輪読し、より学生の関心に近い分野での深い理解を得られるように、ゼミ内で議論を行った。またこうしたゼミでの知識を基礎とし、「卒業論文」では自分の関心分野についての資料を集め、それぞれの問題の背景にあるものを考え、提案型の論文を書くもの、あるいは新たな見方を提示するような論文を書くことができるようにした。

一方、コミュニティ通訳に特化した専門科目としては、題目名「コミュニティ通訳の実践（英語）」において「実践英語」が開講され、多言語・多文化社会におけるコミュニティ通訳の役割について理解を深めつつ、実際に通訳にあたるうえで必要な日本社会の制度面を中心とした背景知識、およびサイトト

ランスレーションや逐次通訳などの通訳技法の基礎を習得することを目指した授業が行われた。またいわゆるゼミにあたる「コミュニティ通訳研究」、「卒業論文演習」では、3年次から4年次にかけて、コミュニティ通訳の役割や専門性について段階的に学び、議論し、また最終的には個々人の興味・関心を卒業論文や卒業研究の形にまとめ、研究成果を発表するものである。その過程においては、主として文献講読などを通じて、コミュニティ通訳における諸問題を考察し、各専門領域に関する背景知識を深め、さらに自律的に調査を行う力を向上させることに主眼が置かれた。

<キャリア・プログラム>

上述した多言語・多文化総合プログラムおよびグローバルコミュニケーションコースで開講される科目群は、主として本学の学部生を対象としたものである。しかし第2期プロジェクトが終了した次の年度である2016年度になされる博士前期課程改編により、今後は大学院において、キャリア形成につながる複数のプログラムである「キャリア・プログラム」の一つとして「多文化コーディネーター養成プログラム」が開始され、多文化コーディネーター養成に向けた科目群が大学院レベルにおいても開講される予定である。また他のキャリア・プログラムと同様、多文化コーディネーター養成プログラムの修了者には修了書が授与されることになっている。

(大学院総合国際学研究院講師 内藤 稔、
世界言語社会教育センター特任講師 長谷部美佳)

研究

多言語・多文化教育研究センターの研究活動

[協働実践型研究プログラム]

多文化社会コーディネーター研究

本研究は、2007年度から多文化社会の問題解決を目的に実施されている。2010年度までに、その役割と専門性に関する研究が行われ、同時並行で養成プログラムの開発、さらに2008年度からは現場の実践者を対象に多文化社会コーディネーター養成講座が開講されている。

こうした、第1期プロジェクトの成果を発展させる形で、第2期における本研究では、認定制度の確立を目標に、2011・2012年度には、政策および地域日本語教育の分野に焦点をあてて分野固有の専門性との連環が探究され、2013-2015年度には、科学研究費助成事業において、「多文化社会コーディネーターの知と専門性評価の枠組み～認定制度の確立に向けて」をテーマに研究を行った。その成果を基に倫理綱領の策定と実際に認定試験の試行、その検証を通して実用可能な認定制度を提案した。

現場の問題解決に貢献する「実践研究」のあり方として、今後認定制度をどう実現化するかが大きな課題として残った。

(多言語・多文化教育研究センター

プロジェクトコーディネーター 杉澤経子)

コミュニティ通訳研究

本プロジェクトでは、日本社会におけるコミュニティ通訳に対する認識と地位の向上をめざし「コミュニティ通訳協働実践型研究会」を立ち上げ、主に専門職としての視座において求められる役割や専門性について研究を行った。

研究会は、2010年度から2013年度にかけて開講された「多言語・多文化社会専門人材養成講座」のコミュニティ通訳コース修了生を対象メンバーとし、特に相談通訳の観点からコミュニティ通訳の専門職化に必要な要件について議論・検討を重ねた。またそのなかで、他の専門職と同様、相談通訳においても「倫理綱領」を策定し、地位向上に向けた取り組みを行うことの重要性が確認された。

研究会では、相談通訳の倫理綱領のうち、まず前文と定義を定めたいと、その後、倫理基準の検討を行った。具体的には、まず「コミュニティ通訳の専門分野である司法・行政・教育・医療の分野において、言語・文化的マイノリティを通訳・翻訳面か

ら支援し、ホスト社会につなげる「橋渡し役」を務める専門職である」と定義される相談通訳が業務を遂行するにあたり順守する倫理基準を「知識」「技術」「態度／マナー」の3つの大項目に分類した。さらに倫理綱領では、実際の相談現場での内実に沿った形で細かな項目を設け、今後相談通訳が行動指針とするべき基準を示すこととなった。

また本倫理綱領は本プロジェクトのコミュニティ通訳研究における最終成果であり、その成果をインターネット上で広く公開したほか、特に倫理基準で示した各項目が抽出された背景や理由づけなどの詳細について、本センターが刊行する研究誌『多言語多文化一実践と研究』や「多文化社会実践研究・全国フォーラム」を通して公表された。

これに並行し、本プロジェクトのコミュニティ通訳研究を支える基軸として、科学研究費助成事業若手研究(B)において、「多文化社会に対応した実践型コミュニティ通訳養成教材の研究と開発」が採択され、相談通訳のニーズ調査及びそれにもとづく多言語教材作成がなされた。教材の対象となったのは、外国人相談の基礎知識として必要となる専門用語とその概説であり、英語、中国語、インドネシア語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語の計6言語へと多言語翻訳がなされた。研究成果はインターネットを通じ、本センターのみならず、コミュニティ通訳分野における他の専門機関などのウェブサイトにおいても広く公開、今後さらなる多文化化が進むであろう日本社会において、広く活用されることが期待される。

(大学院総合国際学研究院講師 内藤 稔)

[全国フォーラム]

多文化社会実践研究・全国フォーラムは、本センターが実施する協働実践型研究活動の成果を公開するとともに、多文化社会の課題に取り組む全国の研究者および実践者が一堂に会して研究成果の共有や意見交換を行う場を提供することによって、全国的なネットワークづくりを推進することを趣旨として開催されてきた。第1期プロジェクト期間中の2007年に始まり、第2期プロジェクトにも引き継がれて、2015年の第9回まで毎年開催された。

第2期プロジェクト期間中の各回のテーマは、第

5 回「多文化社会に求められる専門人材像—東日本大震災から学ぶ」、第 6 回「社会参加のあり方を問う—言語・文化の差異を超えて」、第 7 回「多文化社会人材の専門職化—人材養成の取り組みから可能性を探る」、第 8 回「多様性があたりまえの社会をめざして」、第 9 回「これが多文化社会専門人材だ！—国内のグローバル化と大学の役割」であった。

東日本大震災の衝撃が強く刻印された第 5 回、リーマンショックと震災以後の多数の外国人帰国を背景として、外国人の日本社会への参加に焦点をあてた第 6 回、多言語・多文化社会専門人材養成講座の修了生の活動が軌道に乗り始めたことを受けた第 7 回、ヘイトスピーチの社会問題化を意識した第 8 回、そして第 2 期プロジェクトの総括をおこなった第 9 回と、いずれも社会情勢とセンターのプロジェクトの進展を反映したものとなった。

(多言語・多文化教育研究センター長 青山 亨)

【研究誌「多言語・多文化—実践と研究」】

多言語・多文化化する社会における課題を直視し解決策を考える研究者と実践者による投稿論文集として 2008 年に創刊され、第 1 期プロジェクト期間中に 3 巻が刊行された研究誌『多言語多文化—実践と研究』は、第 2 期プロジェクトにおいても引き続き刊行された。事業の引き継ぎと東日本大震災の影響が重なって刊行できなかったプロジェクト初年度を除いて毎年刊行され、2015 年度に第 7 巻が刊行された。「研究論文」と「実践型研究論文」という二つのカテゴリーを持つことが本研究誌の特色である。後者については、第 2 期に始まった多文化社会専門人材養成講座の多文化社会コーディネーター・コース修了生が研究成果を発表する窓口としての役割も果たした。

(青山 亨)

社会連携

多文化社会の問題解決に向けて

—多文化社会専門人材養成の取り組みと今後の可能性—

社会に対する貢献は、大学にとって、教育、研究に並んで欠かすことのできない大きな活動の柱となってきた。本学においては、ほとんどをセンターが担ってきたと言っても過言ではないだろう。

【東日本大震災での活動】

27の専攻語を擁する本学だからこそ、最も印象に残る活動は、第2期プロジェクト開始直前に起こった2011年3月11日の東日本大震災への対応である。詳細はデータでみる活動実績をご覧いただきたいが、本学教職員および卒業生、多文化社会専門人材養成講座修了者等が参加して行った、仙台市の災害情報、放射線被爆に関する情報、入管情報の22言語への翻訳後方支援と日弁連が実施した被災外国人のための電話相談での通訳、さらに本学が実施した災害地での学生ボランティア活動の推進については、センターが研修会の企画、学生の現地送り出しのコーディネーションにおいて協力をおこなった。

【多文化社会専門人材の養成と社会連携活動】

センターの第2期プロジェクトは、「多文化社会人材養成プロジェクト」として、目標が人材養成におかれた。このことから、2010年度から現場の実践者を対象に実施していた「多文化社会専門人材養成講座」はさらに内容の充実を図るとともに、専門人材養成講座の前半部分である「基礎科目」を「多文化社会論基礎」として、専門職までは目指さないものの多文化社会の問題を包括的に学びたいという実践者も参加できるようにした。いずれも毎年定員を大幅に上回る応募があり、また、受講者からのアンケートでは、内容についても高い評価を得ることができた。さらに、専門人材養成講座のコミュニティ通訳コース修了者については、現場での実践経験を積むことにより専門的力量的形成が期待できるため、希望者に登録を促し「コミュニティ通訳紹介制度」を立ち上げた。紹介する対象は弁護士会が開設する法律事務所に限定したが、需要はうなぎ上りの状況になってきている。こうした社会的ニーズにどう応えていくのかは今後の大きな課題である。

【弁護士会等との協働実践研究活動】

こうした課題に対して、弁護士会もしくは弁護士グループと連携・協働して行ったのが、2つの「協

働実践研究」である。関東弁護士会連合会とは、「遠隔通訳協働実践研究会」を2年間にわたり実施し、トリオフォンやスカイプを活用した少数言語通訳者の対応の仕組みを検討した。また、外国人事件に関わる弁護士グループとは、日弁連法務研究財団の助成によって「外国人法律相談における通訳人の認定制度に関する研究」をこちらも2年間にわたって実施し、認定試験試行を踏まえて認定制度の検討を行った。今後は、現実的な認定制度実施に向けて弁護士会および多機関とのさらなる連携・協働を推進していく必要がある。

【言語ボランティア活動の推進】

2006年のセンター設立時に立ち上げたのが言語ボランティア登録制度である。現在の登録者は本学卒業生を中心に183人(24言語)、主に都内リレー専門家相談会など公的機関における活動への参加をコーディネートしている。専門家相談会での通訳は言語能力があるだけでは難しいため、年1回の研修会等は実施してきたが、「相談通訳」の養成までには至らなかった。今後は、登録者を増やし、2020年のオリンピックを視野に多言語人材の社会活動を推進し、それを入り口に日本の多文化社会に貢献できる人材養成を目指す方向が期待される。

【外国につながる子どもたちの教材作成】

この事業もセンター設立当初から続いてきた事業である。第2期において、ベトナム語、タイ語版を作成し、これをもって作成事業は完結した。その後は、教材の周知活動を行ってきたが、現在では日本のみならず海外諸都市でも広く活用されるようになった。WEB上から無料でダウンロードできることで大きな社会貢献となっている。

その他、2012年の新しい在留管理制度の導入にあたっては、法務省からの委託事業としてリーフレットを25言語に翻訳した。3.11への対応も含めて、本センターは、日本における多文化化の問題解決に即応できるだけの人材を蓄積してきている。今後、多言語・多文化人材のさらなる活躍が期待される。

(多言語・多文化教育研究センター

プロジェクトコーディネーター 杉澤経子)

活動実績評価

◆ 教育

本プロジェクトは教育、研究、社会連携の3つの活動を柱に、多文化社会を担う専門人材の養成に取り組むことを目的としてきた。そうした理由から「多文化社会人材養成プロジェクト」と銘打ったわけだが、その名にふさわしく、3本の柱の中でもっとも飛躍的な発展を遂げたのが教育分野だったと言ってよいだろう。

第1期の「多言語・多文化教育研究プロジェクト」(2006年度～2010年度)では教養教育としての「Add-on Program 多言語・多文化社会」の開講に成功したが、今期は2012年度に行なわれた学部改編に伴い、それを引き継ぐ形で世界教養プログラムにおいて、本学の卒業生には必須の多言語・多文化社会に関する教養を身に着ける科目群を開講したほか、言語文化学部のグローバルコミュニケーションコースにおいて、学部レベルの多文化社会人材養成のための専門教育を開始することができた。これにより、多文化共生社会の構築に向けた専門知識の基礎を修得することを目的として、導入科目、概論科目、専門科目から成る体系化された学部教育の専門課程が、多文化社会コーディネーションとコミュニティ通訳のいずれの分野においても設置された。これによって、コミュニティ通訳や多文化共生の分野で入門から卒業論文執筆までの教育課程が完成したわけである。

このカリキュラムで特筆すべきことは、その両分野に共通する科目として開講されている「インターンシップ」で、学生が正規の授業の中で、国内の外国人が集住する地域において研修を行ったり、近隣の国際交流現場において協働実践にあたりたりするなど、国内の多言語・多文化化に直に触れながら学ぶ機会を得たことである。

さらには今期の最終年度には、来年度に行なわれる大学院改編に伴って、大学院教育においても、多文化コーディネーター養成に向けて、キャリア・プログラム「多文化コーディネーター養成プログラム」が実施される運びとなった。

もともと本プロジェクトの教育分野での目的は、学部レベルの教育の開始だけであった。しかし結果として、学部のみならず大学院においても、正規の課程の中で多文化社会人材養成プログラムを導入でき

たわけで、このことは、「多文化社会人材養成プロジェクト」は当初の目的を達成したばかりでなく、それ以上の成果をあげたこととなり、そのことはきわめて高く評価されてよいだろう。

◆ 研究

研究においては、多言語・多文化社会の課題について研究者と実践者による協働実践研究を推進し、専門人材養成のためのカリキュラム開発や認定制度の確立を目的としてきた。専門人材として念頭に置かれたのは、多文化社会コーディネーター、コミュニティ通訳、子ども・地域日本語教育指導者である多文化社会コーディネーターとコミュニティ通訳については、研究者と実践者による協働実践型研究会が設けられて、その役割と専門性に関する研究が推進された。そのいずれの分野においても、本センターの研究が科学研究費助成事業となったことは特筆すべきことであろう。多文化社会コーディネーターおよびコミュニティ通訳の両方で倫理綱領が策定され、本センターのサイトでも広く公開されている。

カリキュラムの策定については、多文化社会コーディネーターでは、オープンアカデミーで開講した「多文化社会人材養成講座」で内容の充実をさらに図ることで、またコミュニティ通訳においては学部教育の専門課程で実施した。

だが、本プロジェクトの研究分野における目的をすべて達成したとは言い難いところがあるのも事実である。まず当初あげていた3つの専門人材のうち子ども・地域日本語教育指導者については、本プロジェクトではほとんど手をつけることができなかった。また他の2つの多文化社会コーディネーターとコミュニティ通訳においても、認定制度の確立という目的については、認定試験が試行にまで至ったことは評価できるが、実施の是非も含めてまだ検討の余地が残っているというのが実情である。

◆ 社会連携

社会連携活動では、教育・研究の成果を活用して、社会人リカレント教育や外国人支援等の社会貢献事業を推進することが本プロジェクトの目標であった。

まず外国人支援において本センターは、大きな成果をあげ、ほとんどすべての活動において今後に大きな道を拓いた。とりわけ東日本大震災での災害情報等の 22 言語への翻訳後方支援は、自然災害大国日本が社会の多言語多文化化に対して取り組むべき課題を提示するなど、本学のみならず日本にとって貴重な経験となった。

また本学は 2010 年度より現場の実践者を対象に「多文化社会専門人材養成講座」を実施してきたが、今期のプロジェクトではそのコミュニティ通訳コースが輩出した人材を、弁護士会や弁護士グループと連携して、必要としている現場に送り届けるシステムを構築することに成功した。このこと自体は大きく評価されてよいことであるが、今後はその質保証についても仕組みを作っていくことが課題となろう。

もうひとつ今後につながる大きな成果は、主として本学の卒業生を対象とした言語ボランティア登録制度の導入である。本学が誇る強みはなんといっても 27 言語を研究・教授する多言語性である。その力を組織化し、適材適所で活用できる体制を整えることは、今後ますます多言語・多文化化する日本にとっても意義深いことであろう。

(多言語・多文化教育研究センター副センター長
武田千香)

データでみる活動実績

2015 年度事業

- I. 教 育
- II. 研 究
- III. 社会連携
- IV. 広報活動
- V. センターの運営

多文化社会人材養成プロジェクト（2011-15 年度）

- I. 教 育
- II. 研 究
- III. 社会連携
- IV. 広報活動
- V. センターの運営

2015 年度事業

【 I . 教育】

多言語・多文化総合プログラム

I-1. 2015 年度授業内容

<春学期>

■多言語・多文化社会論入門

金曜日 2 限 101 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	多言語・多文化化する日本の現状	
3	オールドカマーとは	
4	日本とのつながりのあるニューカマーたち (帰国者)	
5	日本とのつながりのあるニューカマーたち (日系人)	
6	日本人とのつながりのあるニューカマーたち (国際結婚の女性)	
7	日本に住む難民	
8	アクティブラーニング 1	
9	制度のはざままで生きる人たち	
10	日本で働く?研修生	
11	日本で学ぶ、働く (高度人材と留学生)	
12	コミュニティ通訳とは	
13	多文化社会に生きる日本人として	
14	多文化社会コーディネーターとは	
15	アクティブラーニング 2	

履修者実績 : 317 人

■多言語・多文化社会論 (歴史と現在)

木曜日 2 限 227 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション (ガイダンス)	長谷部美佳 (本学)
2	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (沖縄・アイヌ)	米谷 匡史 (本学)
3	アメリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	金井光太郎 (本学)
4	中国における多言語・多文化社会の歴史と現在	橋本 雄一 (本学)
5	インドネシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 亨 (本学)
6	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (奄美、在日)	前田 達朗 (本学)
7	ドイツにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	相馬 保夫 (本学)
8	東欧における多言語・多文化社会の現在	篠原 琢 (本学)
9	アフリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 弘之 (本学)
10	オーストラリアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	坂井真紀子 (本学)
11	朝鮮半島における多言語・多文化社会の歴史と現在	山内百合子 (本学)
12	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (現在の日本の多文化)	金 富子 (本学)
13	授業内総括試験	前田 達朗 (本学)
14	アクティブラーニング 1 (資料検索)	長谷部美佳 (本学)
15	アクティブラーニング 2 (ワークショップ)	長谷部美佳 (本学)

履修者実績 : 120 人

■多言語・多文化社会論研究

木曜日 4限 213 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	外国人／日本人とは誰か	
3	国民国家と境界	
4	国民国家を支える物語	
5	言葉の壁とは	
6	制度の壁とは	
7	ワークショップ	
8	外国人の存在を認める論理①—入国管理政策	
9	外国人の存在を認める論理②—人手不足	
10	外国人の存在を認める論理③—市民社会の役割	
11	外国人の存在を認める方法①—同化	
12	外国人の存在を認める方法②—社会的包摂	
13	社会の多様性と社会統合	
14	日本の多文化共生とは	
15	ワークショップ	

履修者実績：42人

■多言語・多文化社会論 (実習)

金曜日 5限 326 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション—ボランティアとは	長谷部美佳 (本学)
2	受入れ先からの説明会	
3	フィールド実習①	
4	フィールド実習②	
5	フィールド実習③	
6	フィールド実習④	
7	フィールド実習⑤	
8	中間報告	
9	フィールド実習⑥	
10	フィールド実習⑦	
11	フィールド実習⑧	
12	フィールド実習⑨	
13	フィールド実習⑩	
14	最終プレゼンテーション①	
15	最終プレゼンテーション②	

履修者：3人

■多文化社会コーディネーション論

火曜日 2限 114 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	コーディネーションとコミュニケーション	
3	人の話を聞くこととは (アクティブ・リスニングとロジカル・リスニング)	
4	人の話を聞いてみよう	
5	「人の話を聞く」振り返り	
6	異文化間で課題を発見する(事例)	

7	「課題発見」 振り返り	長谷部美佳 (本学)
8	異文化間で信頼獲得する(事例)	
9	「信頼獲得」 振り返り	
10	異文化間で合意形成する (事例)	
11	「合意形成」 振り返り	
12	問題解決のための企画とコミュニケーション	
13	グループ発表	
14	グループ発表	
15	アクティブラーニング(ワークショップによる総括)	

履修者：61人

■多文化社会コーディネーション演習

火曜日 4限 745 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化①)	
3	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化②)	
4	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化③)	
5	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化④)	
6	多文化社会論関係文献購読 (フィールドについて①)	
7	アクティブラーニング (フィールドワーク等)	
8	多文化社会論関係文献購読 (フィールドについて③)	
9	多文化社会論ワークショップ (フィールドについて④)	
10	多文化社会論関係文献購読 (方法論①)	
11	多文化社会論ワークショップ (海外事例②)	
12	多文化社会論関係文献購読 (海外事例③)	
13	個人発表 (1)	
14	個人発表 (2)	
15	アクティブラーニング (フィールドワーク等)	

履修者：13人

■多文化社会コーディネーション インターンシップ

金曜日 3限 322 教室

回	テーマ	講師
1	オリエンテーション	長谷部美佳 (本学)
2	インターンシップとは (1) ワークショップ	
3	インターンシップとは (2) ワークショップ	
4	インターンシップとは (3) ワークショップ	
5	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場) (1)	
6	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場) (2)	
7	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場) (3)	
8	異文化理解についての予備知識 (1)	
9	異文化理解についての予備知識 (2)	
10	フィールドワーク	
11	グループ発表	
12	グループ発表	
13	グループ発表	
14	グループ発表	
15	アクティブラーニング (ワークショップ)	

履修者：7人

■卒業論文研究

火曜日 5 限 711 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	論文の書き方	
3	論文の書き方	
4	文献の探し方	
5	文献の探し方	
6	個人発表	
7	個人発表	
8	ワークショップ	
9	個別論文指導	
10	個別論文指導	
11	個別論文指導	
12	個人発表	
13	個人発表	
14	個人発表	
15	ワークショップによる総括	

履修者：11 人

■コミュニティ通訳の実践 A

金曜日 2 限 204 同時通訳室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	通訳の技術	
3	Public Speaking	
4	ノートテイキング	
5	アクティブラーニング 1	
6	英日サイトトランスレーション①	
7	英日サイトトランスレーション②	
8	日英サイトトランスレーション①	
9	日英サイトトランスレーション②	
10	アクティブラーニング 2	
11	英日逐次通訳①	
12	英日逐次通訳②	
13	日英逐次通訳①	
14	日英逐次通訳②	
15	最終課題の発表	

履修者：15 人

■コミュニティ通訳研究 1

月曜日 4 限 830 教室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	相談通訳の役割	
3	相談通訳の専門性	
4	相談通訳の展望	
5	アクティブラーニング 1	
6	相談通訳の調査	
7	相談通訳の調査の発表	
8	カウンセリング	

9	司法通訳の役割	内藤 稔 (本学)
10	司法通訳の専門性	
11	司法通訳の展望	
12	アクティブラーニング 2	
13	司法通訳の調査	
14	司法通訳の調査の発表	
15	まとめ	

履修者実績：11人

■インターンシップA

金曜日 3限 204 同時通訳室

回	テーマ	講師
1	オリエンテーション	内藤 稔 (本学)
2	インターンシップとは：ワークショップ①	
3	インターンシップとは：ワークショップ②	
4	インターンシップとは：ワークショップ③	
5	アクティブラーニング 1	
6	コミュニティ通訳の現場についての予備知識①	
7	コミュニティ通訳の現場についての予備知識②	
8	アクティブラーニング 2	
9	異文化理解についての予備知識①	
10	異文化理解についての予備知識②	
11	受講生による発表①	
12	受講生による発表②	
13	受講生による発表③	
14	フォローアップのためのディスカッション	
15	まとめ	

履修者：9人

■コミュニティ通訳研究卒論演習 1

月曜日 5限 研究室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 1 講読第 1 回	
3	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 1 講読第 2 回	
4	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 1 講読第 3 回	
5	アクティブラーニング 1	
6	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 2 講読第 1 回	
7	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 2 講読第 2 回	
8	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 2 講読第 3 回	
9	アクティブラーニング 2	
10	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 3 講読第 1 回	
11	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 3 講読第 2 回	
12	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション 3 講読第 3 回	
13	各自の研究テーマの発表と検討 1	
14	各自の研究テーマの発表と検討 2	
15	まとめとカウンセリング	

履修者：8人

<秋学期>

■多言語・多文化社会論（理論と視角）

木曜日 2限 109 教室

回	テーマ	講師
1	ガイドンスー人の移動はなぜ起こるのか？	長谷部美佳（本学）
2	世界的な人の移動、国際移動の分類	
3	人の国際移動に関する理論（1）ネオリベラル、世界システム論など	
4	人の国際移動に関する理論（2）世界戦略論、ネットワーク論など	
5	移民の女性化はなぜ起こるのか？—国際分業と移民	
6	移民の女性化はなぜ起こるのか？—再生産労働の国際分業	
7	移民を引き起こす要因としての移民政策	
8	アクティブラーニング 1（資料の読み方）	
9	同化政策とは	
10	多文化主義とは	
11	移民の統合とは何か？	
12	移民コミュニティの役割	
13	授業内最終総括	
14	アクティブラーニング 1（ワークショップ 1）	
15	アクティブラーニング 2（ワークショップ 2）	

履修者実績：124人

■多言語・多文化社会論研究 B

木曜日 4限 213 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳（本学）
2	外国人が日本で守られるには①—憲法、国際人権法	
3	外国人が日本で守られるには②—少子高齢化と外国人	
4	国籍と永住権	
5	非正規労働者はどうやって守られるのか	
6	移民の社会統合とは何か？	
7	ワークショップ	
8	外国人の日本語学習	
9	外国人の子どもの教育	
10	外国人と医療、社会保障	
11	集住地域と散在地域（国際結婚）	
12	集住地域と散在地域（オールドカマーの集住地域大阪、川崎）	
13	集住地域と散在地域（ニューカマーの集住地域、浜松など）	
14	映像資料を見る	
15	ワークショップによる総括	

履修者：54人

■多文化社会コーディネーション概論

火曜日 3限 308 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳（本学）
2	「コーディネーション論」とは何か？	
3	積極的傾聴（Active Listening）	
4	異文化コミュニケーションの障害（ステレオタイプ、自民族中心主義）	
5	異文化間能力とは何か？	
6	インターパーソナルコミュニケーションとは？	
7	モティベーションと説得	

8	コミットメントとは？	長谷部美佳（本学）
9	ソーシャルキャピタルとは？	
10	協働するとは？	
11	問題を発見しよう	
12	グループ発表	
13	グループ発表	
14	アクティブラーニング 1（ワークショップ）	
15	アクティブラーニング 2（フィールドワーク）	

履修者：12人

■多文化社会コーディネーション演習

火曜日 4限 222 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳（本学）
2	多文化社会論関係文献購読（日本の多文化①）	
3	多文化社会論関係文献購読（日本の多文化②）	
4	多文化社会論関係文献購読（日本の多文化③）	
5	多文化社会論関係文献購読（日本の多文化④）	
6	多文化社会論関係文献購読（フィールドについて①）	
7	フィールドワーク	
8	多文化社会論関係文献購読（フィールドについて②）	
9	多文化社会論ワークショップ（フィールドについて③）	
10	多文化社会論関係文献購読(方法論①)	
11	多文化社会論ワークショップ(海外事例②)	
12	多文化社会論関係文献購読(海外事例③)	
13	個人発表（1）	
14	個人発表（2）	
15	フィールドワーク	

履修者：18人

■多文化社会コーディネーション インターンシップ

金曜日 3限 322 教室

回	テーマ	講師
1	オリエンテーション	長谷部美佳（本学）
2	インターンシップについて	
3	インターンシップ実習①	
4	インターンシップ実習②	
5	インターンシップ実習③	
6	インターンシップ実習④	
7	インターンシップ実習⑤	
8	アクティブラーニング 1（ワークショップ）	
9	インターンシップ実習⑥	
10	インターンシップ実習⑦	
11	インターンシップ実習⑧	
12	インターンシップ実習⑨	
13	インターンシップ実習⑩	
14	最終発表	
15	アクティブラーニング 2（フィールドワーク）	

履修者：9人

■卒業論文研究

火曜日 5限 222 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	論文の書き方	
3	論文の書き方	
4	文献の探し方	
5	文献の探し方	
6	個人発表	
7	個人発表	
8	ワークショップ	
9	個別論文指導	
10	個別論文指導	
11	個別論文指導	
12	個人発表	
13	個人発表	
14	個人発表	
15	ワークショップによる総括	

履修者：11人

■コミュニティ通訳概論

月曜日 3限 103 教室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	通訳の歴史	
3	通訳の理論と技術	
4	相談通訳の仕組み	
5	医療通訳における課題と現状	
6	司法通訳と法廷通訳	
7	アクティブラーニング 1	
8	外国につながる子どもたちと教育	
9	行政・自治体における通訳の現状	
10	アクティブラーニング 2	
11	ユーザーの立場についての考察	
12	通訳訓練法	
13	グループによる通訳プレゼンテーション①	
14	グループによる通訳プレゼンテーション②	
15	まとめ—コミュニティ通訳における専門性	

履修者：38人

■コミュニティ通訳の実践 B

金曜日 2限 204 同時通訳室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	オーラリゼーションとは	
3	日英サイトトランスレーション①	
4	日英サイトトランスレーション②	
5	アクティブラーニング 1	
6	日英逐次通訳①	
7	日英逐次通訳②	
8	英日サイトトランスレーション①	

9	英日サイトトランスレーション②	内藤 稔 (本学)
10	英日逐次通訳①	
11	英日逐次通訳②	
12	アクティブラーニング 2	
13	ウイスパリング通訳の方略	
14	ウイスパリング通訳の実践	
15	最終課題の発表	

履修者：11人

■コミュニティ通訳 インターンシップB

金曜日 3限 204 同時通訳室

回	テーマ	講師
1	オリエンテーション	内藤 稔 (本学)
2	インターンシップを再考する	
3	インターンシップ実習①	
4	インターンシップ実習②	
5	アクティブラーニング 1	
6	インターンシップ実習③	
7	インターンシップ実習④	
8	アクティブラーニング 2	
9	インターンシップ実習⑤	
10	インターンシップ実習⑥	
11	インターンシップ実習⑦	
12	インターンシップ実習⑧	
13	インターンシップ実習⑨	
14	最終発表①	
15	最終発表②	

履修者：5人

■コミュニティ通訳研究 2

月曜日 4限 830 教室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	医療通訳の役割	
3	医療通訳の専門性	
4	医療通訳の展望	
5	アクティブラーニング 1	
6	医療通訳の調査	
7	医療通訳の調査の発表	
8	カウンセリング	
9	教育・行政通訳の役割	
10	教育・行政通訳の専門性	
11	教育・行政通訳の展望	
12	アクティブラーニング 2	
13	教育・行政通訳の調査	
14	教育・行政通訳の調査の発表	
15	まとめ	

履修者：10人

■コミュニティ通訳研究卒論演習 2

月曜日 5限 研究室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	卒業論文進捗報告とそれに対する指導 1	
3	Part 2 Practical Applications 講読第 1 回	
4	Part 2 Practical Applications 講読第 2 回	
5	Part 2 Practical Applications 講読第 3 回	
6	アクティブラーニング 1	
7	Part 3 Research into Community Interpreting 購読第 1 回	
8	Part 3 Research into Community Interpreting 購読第 2 回	
9	Part 3 Research into Community Interpreting 購読第 3 回	
10	アクティブラーニング 2	
11	卒業論文進捗報告とそれに対する指導 2	
12	卒業論文進捗報告とそれに対する指導 3	
13	卒業論文発表 1	
14	卒業論文発表 2	
15	まとめとカウンセリング	

履修者：6人

【Ⅱ. 研究】

協働実践型研究プログラム

Ⅱ-1. 研究会構成

多文化社会コーディネーター研究会 ※科学研究費助成事業（2013-15年度）として実施

研究テーマ		多文化社会における専門職の知と専門性評価に関する研究
メ 研 究 バ ー 	チーフ (研究代表)	杉澤経子 (本センタープロジェクトコーディネーター)
	特任研究員	山西優二 (早稲田大学文学学術院教授)
	研究協力者	小山紳一郎 (《公財》ラボ国際交流センター常勤理事)

コミュニティ通訳研究会

研究テーマ		相談通訳における倫理綱領の策定		
研 究 会 メ ン バ ー	チーフ	内藤 稔 (本学大学院総合国際学研究院講師)		
	推進会議 メンバー	杉澤経子 (本センタープロジェクトコーディネーター)		
	コ ミ ュ ニ テ ィ 通 訳 コ ー ス 修 了 者	1期	宮城京子 (英語) 佐藤エバートン文雄 (ポルトガル語) 山浦育子 三木紅虹 (中国語) 鷲頭小弓 (ベトナム語)	
		2期	高口真由美 (英語) 岩田久美 名倉貴之 (スペイン語)	
		3期	相田純子 泉川知子 ヒョン・ジョンソン 横幕美矢子 (英語) 境 潤子 (中国語)	
4期		亀井玲子 (スペイン語) 李 銀淑 (朝鮮語)		

Ⅱ-2. 研究活動

研究会開催日程

	多文化社会コーディネーター研究会			コミュニティ通訳 研究会
	制度研究会	事例研究論文検討会	認定試験試行	
4月			27日/意見交換会 30日/協力者募集開始	
5月		24日/第1回		
6月				13日/第1回
7月			6日/募集締切り 8日/書類審査 27日/論文審査 28日/一次選考結果発表	
8月				
9月			28日/プレゼン・面接審査	
10月	26日/第1回		2日/基準合格者(5名)発表 26日/振り返りの会	
11月				
12月		12日/第2回		
1月				
2月				
3月			25日/意見交換会	

成果の発表

多文化社会コーディネーター研究会

1. 「多文化社会コーディネーター倫理綱領」策定、HPでの公開（2015年7月）
2. 多文化社会実践研究・全国フォーラム第9回特定課題セッションにおける発表
 - ・ 多文化社会コーディネーターの倫理綱領／多文化社会コーディネーター認定制度の確立に向けて（2015年12月12日）
3. 報告書の発行
科学研究費助成事業（基盤C）研究「多文化社会における専門職の知と専門性評価に関する研究」報告書「多文化社会コーディネーターの専門職の知と専門性評価—認定制度の構築にむけて」（2016年3月22日）

コミュニティ通訳研究会

1. 「相談通訳の倫理綱領」策定、HPでの公開（2015年7月）
2. 多文化社会実践研究・全国フォーラム第9回特定課題セッションにおける発表
 - ・ 相談通訳の倫理綱領策定の試み／相談通訳認定試験の試行（2015年12月12日）
3. 研究誌「多言語多文化—実践と研究」vol.7 研究報告掲載
 - ・ 外国人のリーガルアクセスを保障する遠隔通訳のあり方
—関東弁護士会連合会と東京外国語大学による協働実践研究を中心に
 - ・ 「相談通訳・倫理綱領」策定に関する協働実践研究
(2015年12月10日)
4. 科学研究費助成事業若手研究(B)「多文化社会に対応した実践型コミュニティ通訳養成教材の研究と開発」相談通訳のニーズ調査及びそれにもとづく多言語教材（英語、中国語、インドネシア語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語）の作成・HPでの公開（2016年3月）

基礎研究活動

多言語・多文化総合プログラムの「多言語・多文化社会論（歴史と現在）」における授業内容をまとめた「多文化社会読本—多様な世界、多様な日本」（東京外国語大学出版会）刊行予定。

多文化社会実践研究・全国フォーラム

Ⅱ-3. 多文化社会実践研究・全国フォーラム（第9回）

テーマ：これが多文化社会専門人材だ！—国内のグローバル化と大学の役割

実施日：2015年12月12日（土）

会場：東京外国語大学 研究講義棟2階

参加者数：250人

セッション名	テーマ	参加人数
基調講演	多文化社会の課題解決に大学はどう貢献できるのか 佐藤郡衛（目白大学学長）	165
【個人発表】 研究発表セッション	多言語・多文化共生社会における「ドキュメンタリー演劇」の意義と可能性 —参加者のセルフナラティブに焦点をあてて 松井かおり（朝日大学経営学部准教授）	92 *延べ
	多文化を学ぶ実践コミュニティの形成へ、大学の外国語教育ができること —日本・カナダ大学間オンライン交流を事例として 赤井佐和子（カナダ・ヒューロン大学人文社会学部講師）	
	多文化社会に求められる市民型言語教育—日本語教師が果たせる役割 萬浪絵理（千葉市国際交流協会委嘱コーディネーター）	
	韓国の「多文化家庭支援センター」と「多文化教育院」の役割と課題 金 漢植（韓国外国語大学通訳翻訳大学院日本語科教授）	
【グループ発表】 研究発表セッション	豊橋市における「特別の教育課程」による日本語指導の取り組みについて 築樋博子（豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員） 松波良宏（豊橋市立岩田小学校国際教室主任教諭） 大谷喜久代（豊橋市立岩田小学校国際教室担当教諭） 鈴木美香（豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員） 五十嵐恵美（豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員）	86 *延べ
	外国人相談事業の課題—連携と相談員の専門性に関して 石川秀樹（清瀬市議会議員） 杉田理恵（東村山市役所相談員） 宮内博史（東京パブリック法律事務所弁護士） 李 原翔（かながわあーすぷらざ相談サポーター）	
	学部融合型カリキュラムによる人材育成の試み —多文化共生の地域づくりプログラム 北村広美（京都産業大学法学部非常勤講師/多文化共生センターひょうご代表） 須賀博志（京都産業大学法学部教授） 今西利之（京都産業大学外国語学部准教授） 佐藤育巳（京都産業大学法学部助教）	

<p>特定課題セッション</p>	<p>コミュニティ通訳研究報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談通訳の倫理綱領策定の試み ・ 相談通訳認定試験の試行 <p><報告者></p> <p>内藤 稔（本学大学院総合国際学研究院講師） 岩田久美 三木紅虹 亀井玲子 宮城京子 名倉貴之（以上コミュニティ通訳研究会メンバー） 指宿昭一（弁護士） 広津佳子（弁護士）</p>	<p>70</p>
	<p>多文化社会コーディネーター研究報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多文化社会コーディネーターの倫理綱領 ・ 多文化社会コーディネーター認定制度の確立に向けて <p><報告者></p> <p>奈良雅美（《特活》アジア女性自立プロジェクト代表理事） 小山紳一郎（ラボ国際交流センター常勤理事） 山西優二（本学特任研究員、早稲田大学文学学術院教授） 杉澤経子（本センタープロジェクトコーディネーター／研究代表者）</p>	<p>67</p>
<p>パネルディスカッション</p>	<p>外国人受け入れの新たな展開と専門人材養成のあり方</p> <p><パネリスト></p> <p>指宿昭一（弁護士） 須田 潔（社会福祉法人不二健育会 ケアポート板橋 施設長） 村上隆宏（社会福祉法人不二健育会 ケアポート板橋 人事総務室長） 松岡真理恵（多文化社会コーディネーター養成講座 1期修了者） 青山 亨（本センター長）</p>	<p>102</p>
<p>懇親会</p>		<p>38</p>

研究成果の発信（刊行物）

Ⅱ-4. 研究誌『多言語多文化—実践と研究』vol.7

投稿論文数	受理論文数	査読者数 (延べ)	査読(1回目) 合格論文数	再投稿論文数	掲載論文数	刊行日
13	13	18	2	4	8 (実践型4、研究論文1、研究ノート1、研究報告2)	2015年 12月10日
内容	<p>【実践型研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学前子育ての場における多文化社会コーディネーターの必要性と役割（安藤陽子） ・ 「参加」者から「創造」者へ —外国人住民の社会参画を促すためのコーディネーターの役割（猪狩英美） ・ 多言語情報提供における多文化社会コーディネーターの必要性 —多言語防災ビデオ制作の省察から（菊池哲佳） ・ ボランティア研修の実践からみる日本語教育コーディネーターの役割 —「聴くこと」でつなぐ2つのことばの教育（萬浪絵理） <p>【研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「多文化社会型居場所感尺度」の開発と活用 —多文化共生を目的とする地域日本語教室の活動改善に向けて (石塚昌保、杉澤経子、阿部 裕、山西優二、河北祐子、山辺真理子) <p>【研究ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニューカマー外国人の子どもたちをめぐる環境の変遷 —経済危機後の変動期に焦点化して（山野上麻衣） <p>【協働実践型研究報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人のリーガルアクセスを保障する遠隔通訳のあり方 —関東弁護士会連合会と東京外国語大学による協働実践研究を中心に (杉澤経子、指宿昭一) ・ 「相談通訳・倫理綱領」策定に関する協働実践研究 (内藤 稔、杉澤経子、岩田久美、三木紅虹、亀井玲子、宮城京子、名倉 貴之) 					

【Ⅲ. 社会連携】

多文化社会専門人材養成講座—多文化社会論基礎

Ⅲ-1. 講座概要

内容	多言語・多文化に関する知識理解および課題の把握を目的に4つの分野から学ぶ
場所	東京外国語大学 府中キャンパス
日程	2015年7月23日(木)～26日(日)
対象者	多文化に関する業務や活動を行っている方

Ⅲ-2. 日程・時間割

7月	9:00-10:40	11:00-12:40	13:40-15:20	15:40-17:30
23日 (木)		(10:00-11:40) ・開講あいさつ ・オリエンテーション ・多言語・多文化社会における 専門人材とは 青山 亨	(12:40-14:20) 言語と文化1 多文化社会における文化とは 栗田博之	(14:40-) 多文化社会専門人材論2 異文化理解とは、自己紹介か 振り返り
24日 (金)	言語と文化2 多文化社会における 言語とは 藤井 毅	多言語・多文化社会論1 国・自治体における外国 人住民との共生政策 植村 哲	多言語・多文化社会実践論1 在留管理制度と外国人の人権 駒井知会	多文化社会専門人材論3 コミュニティ通訳とは 内藤 稔 振り返り
25日 (土)	言語と文化3 多文化社会における 宗教とは 青山 亨	多言語・多文化社会論2 地域日本語教育 伊東祐郎	多言語・多文化社会実践論2 ボランティア・協働・ ネットワーク 後藤麻理子	多文化社会専門人材論4 多文化社会コーディネーターとは 杉澤経子 振り返り
26日 (日)	言語と文化4 外国こつながる子どもの教育 小林幸江	多言語・多文化社会論3 異文化ストレスと 日本の医療システム 村内重夫	多言語・多文化社会実践論3 福祉・ソーシャルワーク 高田友佳子	多文化社会専門人材論5 まとめ 杉澤経子 全体振り返り

Ⅲ-3. 運営

会議開催状況

6月2日	本センター会議室
6月12日(選考会議)	

Ⅲ-4. 受講者

応募状況 (単位:人)

定員	40
応募者数	63
合格者数	45
受講者数	43
修了者数	41

受講者属性

(単位:人)

自治体	10	国・外郭団体	6
国際交流協会	11	ボランティア	3
学校教育	5	その他	2
大学	6		
計			43

コミュニティ通訳活動

Ⅲ-5. 活動実績 (2015年4月1日～2016年1月31日)

通訳	依頼件数	活動形態		参加人数	言語数	言語内訳
	110	法律相談会	6			
				107 (延べ)	15	英語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ベンガル語、*ペルシア語、*ネパール語、*ルーマニア語
翻訳	依頼件数	依頼元		参加人数	言語数	言語内訳
	31	法律事務所	28			
				43 (延べ)	14	英語、*フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ベンガル語、*ペルシア語
計	141件			150人	15	

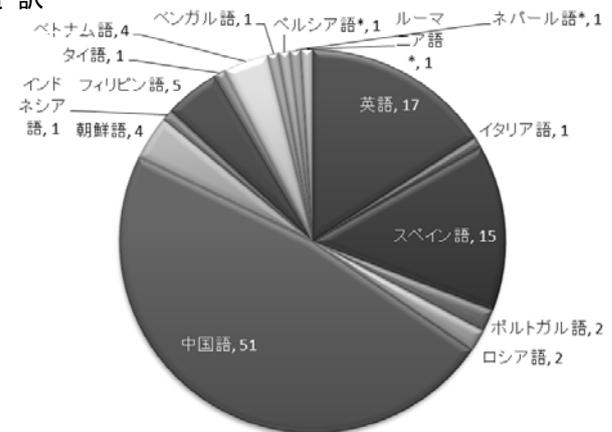
*本学関係者が参加

言語別参加人数

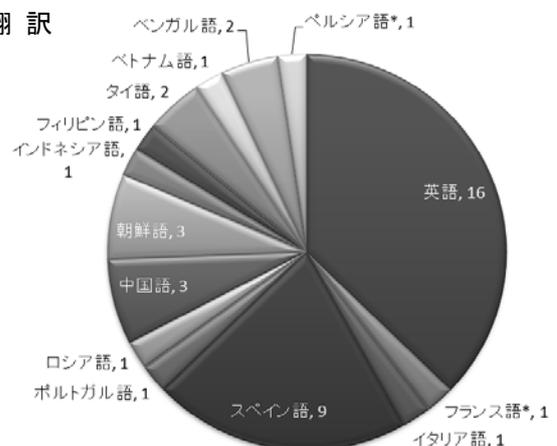
	通訳	翻訳
英語	17	16
フランス語*	—	1
イタリア語	1	1
スペイン語	15	9
ポルトガル語	2	1
ロシア語	2	1
中国語	51	3
朝鮮語	4	3
インドネシア語	1	1
フィリピン語	5	1
タイ語	1	2
ベトナム語	4	1
ベンガル語	1	2
トルコ語*	—	—
ペルシア語*	1	1
ネパール語*	1	—
ルーマニア語*	1	—

*本学関係者が参加

通訳

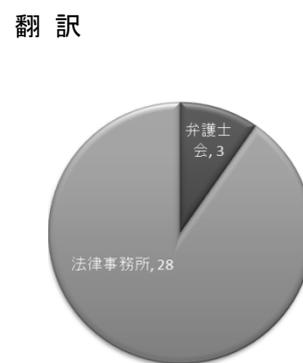
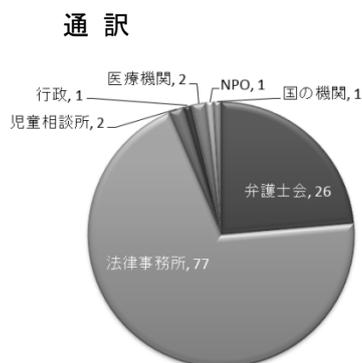


翻訳



依頼者属性

	通訳	翻訳	計
弁護士会	26	3	29
法律事務所	77	28	105
児童相談所	2	0	2
行政	1	0	1
医療機関	2	0	2
NPO	1	0	1
国の機関	1	0	1



Ⅲ-6. 登録者数 (2016年1月31日現在)

登録者総数： 13言語 80人 (コミュニティ通訳コース修了者 64人、言語ボランティア有志 16人)

言語内訳：

英語	26	ロシア語	2	韓国・朝鮮語	4	ベトナム語	2
イタリア語	1	モンゴル語	3	インドネシア語	2	ベンガル語	2
スペイン語	11	中国語	15	フィリピン語	1		
ポルトガル語	11	※台湾語含む		タイ語	3	合計(延べ)	83人

言語ボランティア活動

Ⅲ-7. リレー専門家相談会 参加実績

相談会への参加回数：6回

参加人数：延べ26人

通訳言語数：9言語（英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語）

実施日	場所/主催	参加人数	言語
4月12日（日）	新宿多文化共生プラザ会議室 / NPO 法人国際活動市民中心（CINGA）	1	ロシア語
6月6日（土）	すみだリバーサイドホールアトリウム / 墨田区区民活動推進部文化振興課・墨田区 国際化推進クラブ	1	フィリピン語
6月7日（日）	東村山市立中央公民館2階 / 東村山地球市民クラブ・東村山市	6	英語、スペイン語、中国語、フィリ ピン語
10月3日（土）	弁護士会館12階講堂 / 関東弁護士会連合会・東京三弁護士会	8	英語、イタリア語、スペイン語、中 国語、フィリピン語
11月15日（日）	新宿多文化共生プラザ会議室 / NPO 法人国際活動市民中心（CINGA）	1	タイ語
12月13日（日）	品川区役所第三庁舎3階区民相談室 / 品川区国際友好協会	9	英語、フランス語、スペイン語、中 国語、ベトナム語

Ⅲ-8. 登録者数（2016年1月31日現在）

登録者総数：24言語 183人

属性	教員	職員	大学院生
	11	2	42
卒業生	124	元職員	4
		計	183人

言語別	英語	朝鮮語	カンボジア語
	59	11	1
	ドイツ語	モンゴル語	ビルマ語
	10	3	4
	フランス語	インドネシア語	ヒンディー語
	10	9	2
	イタリア語	マレー語	ペルシア語
	3	3	5
	スペイン語	フィリピン語	トルコ語
	25	5	7
	ポルトガル語	タイ語	ルーマニア語
	12	6	1
	ロシア語	ラオス語	ネパール語
	4	3	3
	中国語	ベトナム語	ベンガル語
	33	5	1
合計		225人	

※複数言語登録者あり

後援・共催

Ⅲ-9. 後援・共催事業

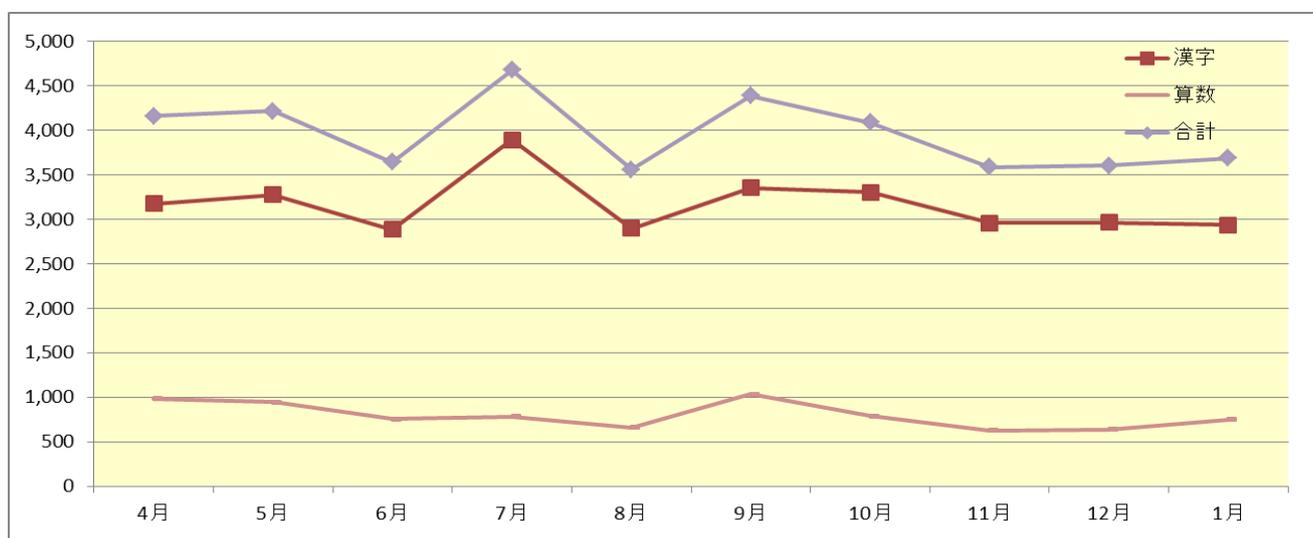
	事業の名称	実施団体	開催日時	開催場所
後援	MIA 夏期教員ワークショップ	(公財)武蔵野市国際交流協会	2015年 7月29日(水)・30日 (木)	スイング11F レインボーサロン
共催	外国人コミュニティ全国会議	一般財団法人自治体国際化協会	2015年12月12日(土)	研究講義棟 2階226教室
	ポルトガル語劇 ブラジル人コミュニティ公演	東京外国語大学 ポルトガル語専攻	2015年12月23日(祝・ 水)	太田市藪塚本町文化ホールカルトピア

外国につながる子どもたちのための教材

Ⅲ-10. 各教材ダウンロード数 (月別、2016年1月末現在)

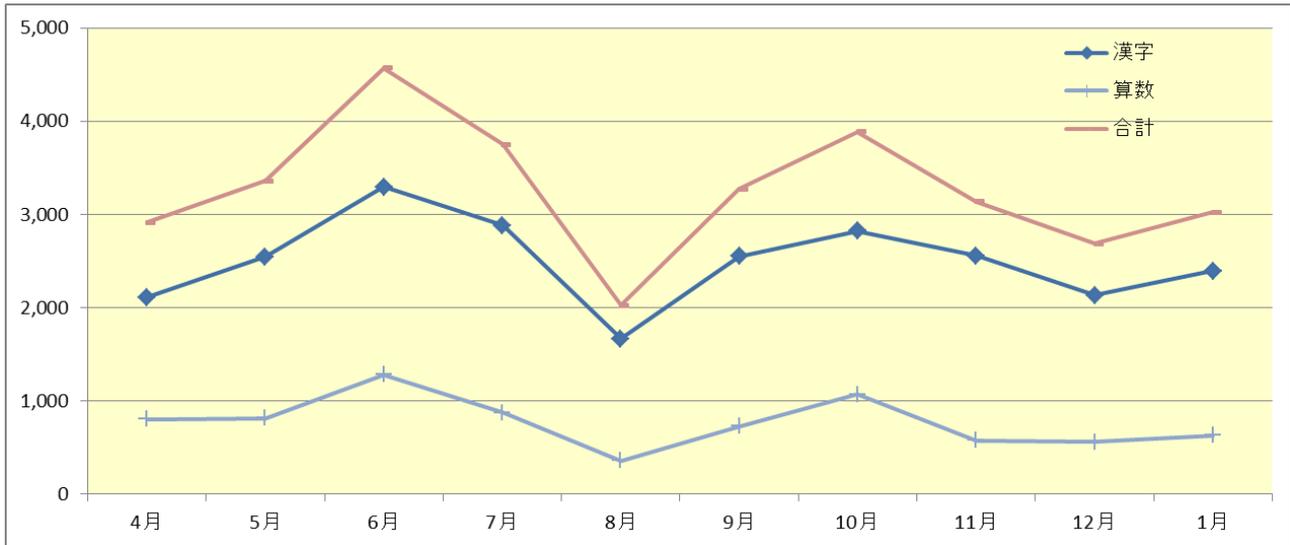
【在日ブラジル人児童のための教材】

	2015年4月	5月	6月	7月	8月	9月
漢字	3,177	3,274	2,886	3,895	2,896	3,356
算数	983	942	755	784	661	1,032
合計	4,160	4,216	3,641	4,679	3,557	4,388
	10月	11月	12月	1月	年間合計	
漢字	3,304	2,961	2,961	2,938	31,653	
算数	787	625	625	752	7,961	
合計	4,091	3,586	3,586	3,690	39,614	



【在日フィリピン児童のための教材】

	2015年4月	5月	6月	7月	8月	9月
漢字	2,111	2,546	3,292	2,880	1,667	2,548
算数	801	813	1,279	870	355	725
合計	2,912	3,359	4,571	3,750	2,022	3,273
	10月	11月	12月	1月	年間合計	
漢字	2,819	2,558	2,131	2,395	24,974	
算数	1,069	576	557	628	7,637	
合計	3,888	3,134	2,688	3,023	32,620	



【南米スペイン語圏出身児童のための教材】

	2015年4月	5月	6月	7月	8月	9月
漢字	3,373	3,932	3,712	4,480	3,357	3,914
算数	983	942	755	784	661	1,032
合計	4,160	4,216	3,641	4,679	3,557	4,388
	10月	11月	12月	1月	年間合計	
漢字	3,176	3,726	3,285	3,475	36,430	
算数	787	467	268	235	3,648	
合計	4,091	4,193	3,553	3,710	40,078	



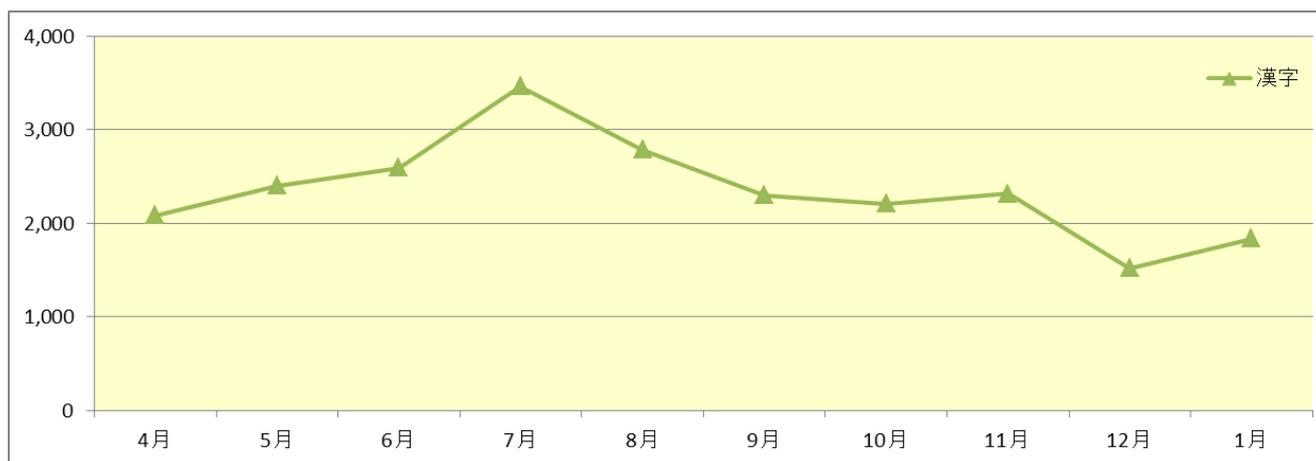
【ブラジル人向け自習用漢字教材】

	2015年4月	5月	6月	7月	8月	9月
漢字	2,084	2,402	2,591	3,461	2,786	2,299
	10月	11月	12月	1月	年間合計	
漢字	2,207	1,663	1,934	2,301	18,894	



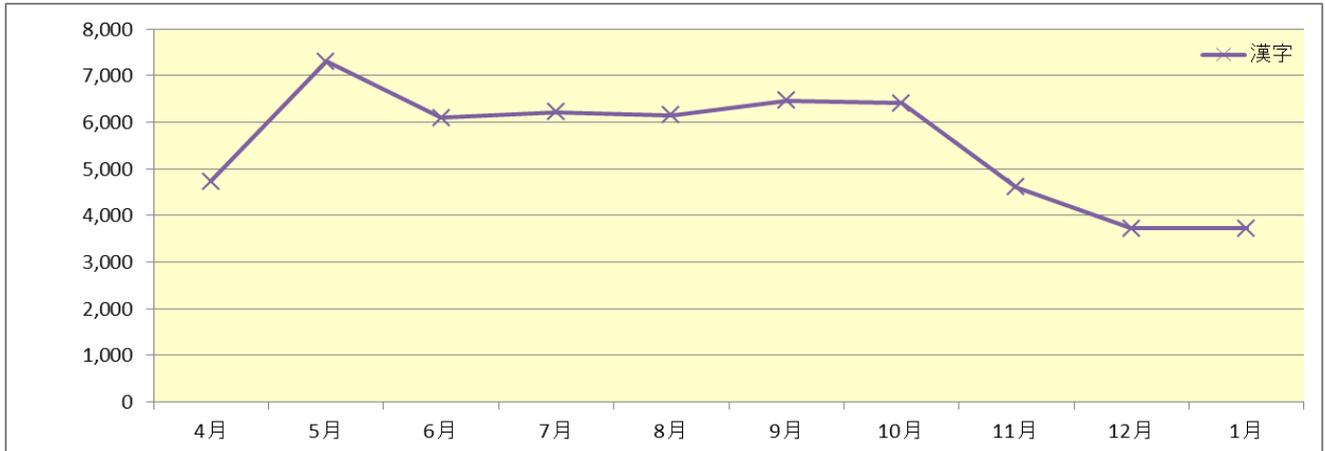
【ベトナム出身児童のための教材】

	2015年4月	5月	6月	7月	8月	9月
漢字	2,084	2,402	2,591	3,461	2,786	2,299
	10月	11月	12月	1月	年間合計	
漢字	2,207	2,316	1,522	1,836	23,504	



【在日タイ語圏児童のための教材】

	2015年4月	5月	6月	7月	8月	9月
漢字	4,730	7,306	6,099	6,224	6,155	6,470
	10月	11月	12月	1月	年間合計	
漢字	6,415	4,604	3,727	3,721	55,451	



ダウンロード数 推移

期間：2007年4月20日から2016年1月末日まで

		2007年度		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	合計
		07年4月20日～5月31日	07年6月1日～08年3月31日	08年4月1日～08年3月31日	09年4月1日～10年3月31日	10年4月1日～11年3月31日	11年4月1日～12年3月31日	12年4月1日～13年3月31日	13年4月1日～14年3月31日	14年4月1日～15年3月31日	15年4月1日～16年1月31日	
在日ブラジル人児童のための教材	漢字	9,989	52,885	110,013	97,940	69,466	56,431	38,238	37,946	36,840	31,653	541,401
	算数		21,924	71,887	64,671	60,897	43,089	10,417	10,273	8,578	7,961	299,697
	小計		84,798	181,900	162,611	130,363	99,520	48,655	48,219	45,418	39,614	841,098
在日フィリピン人児童のための教材	漢字				1,344	30,715	31,897	22,729	22,187	25,443	24,947	159,262
	算数			12,795	21,654	29,415	26,301	8,008	7,229	8,395	7,673	121,470
	小計			12,795	22,998	60,130	58,198	30,737	29,416	33,838	32,620	280,732
南米スペイン語圏出身児童のための教材	漢字				1,845	29,131	27,541	16,859	25,669	39,140	36,430	176,615
	算数					10,116	27,249	4,403	5,545	5,028	3,648	55,989
	小計				1,845	39,247	54,790	21,262	31,214	44,168	40,078	232,604
ベトナム出身児童のための教材	漢字						557	4,952	15,020	25,003	23,504	69,036
在日タイ語圏児童のための教材	漢字								33,876	60,955	55,451	150,282
ブラジル人向け 自習用漢字教材	漢字						8,724	7,425	10,393	19,817	18,894	65,253
合計		84,798	194,695	187,454	229,740	221,789	113,031	168,138	229,199	210,161	1,639,005	

*2007年4月、5月分は教材毎の区別がされていない。

**2011年12月公開のため、2011年12月からの集計となっている。

佐賀県受託協働実践研究

Ⅲ-11. 佐賀県多文化共生施策推進のための調査研究

調査研究メンバー

全体統括	杉澤経子（本センタープロジェクトコーディネーター）
佐賀市住民意識調査チーム	
研究員（リーダー） 研究員 アドバイザー	奈良雅美（《特活》アジア女性自立プロジェクト代表理事/関西学院大学非常勤講師） 高柳香代（多文化共生ネット・九州主宰） 小山紳一郎（《公財》ラボ国際交流センター常勤理事/明治大学大学院兼任講師）
留学生実態調査チーム	
研究員（リーダー） 研究員 アドバイザー	菊池哲佳（《公財》仙台観光国際協会 国際化事業部国際化推進課企画係主任） 北村祐人（名古屋大学とよた日本語学習支援システムシステムコーディネーター） 伊東祐郎（東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授）
技能実習生調査チーム	
研究員（リーダー） 研究員 アドバイザー	大久保和夫（毎日新聞記者/《特活》国際活動市民中心副代表） 指宿昭一（関東弁護士会連合会外国人の人権救済委員会委員/弁護士） 杉澤経子（本センタープロジェクトコーディネーター）

委託内容

佐賀市における多文化共生に関する住民意識調査
県内で一番多く外国人が在住する佐賀市を中心に各種調査を実施し、その結果から具体的施策を導き出す
佐賀県内における留学生の生活実態および意識調査
佐賀大学を中心にアンケートを実施し、その結果から具体的施策を導き出す
佐賀県内における技能実習生に関する生活実態調査および雇用者側の意識調査
県内に在住する外国人人口の中で多い技能実習生および実習生制度を活用している企業にヒアリング調査を行い、その結果から具体的施策を導き出す

上記調査のうえ、報告書提出

【IV. 広報活動】

IV-1. メールマガジン発行状況

※登録者数：1,817件（2016年1月末日現在）

No	発行日	No	発行日	No	発行日
60	2015年4月24日	64	9月24日	臨時	12月22日
61	5月22日	65	10月20日	68	12月28日
62	7月2日	66	11月13日		
63	8月27日	67	12月1日		

IV-2. 新聞・雑誌等掲載関連記事一覧

掲載日	媒体名	見出し
2015年4月1日	「むさしの FRIENDs」 102号	創造的な活動をどうコーディネートするか
5月7日	東京外国語大学 HP TUFs TODAY	地方自治体でのインターンシップ
5月17日	日本経済新聞	多言語への意識希薄な日本社会
6月15日	松柏社	これだけは知っておきたい!外国人相談の基礎知識
8月26日	文教速報	東京外大で多文化社会専門人材養成講座
2016年1月27日	文教速報	東京外大が多文化社会実践研究・全国フォーラム

【V. センターの運営】

V-1. センター会議 開催状況

	開催日		開催日
第1回	2015年4月29日	第6回	11月19日
第2回	5月27日	第7回	12月25日
第3回	7月1日	第8回	2016年1月29日
第4回	9月25日	第9回	2月24日
第5回	10月28日	第10回	3月23日予定

※会場はいずれもセンター会議室

V-2. 運営メンバー

● 運営委員会

岩崎 稔	理事
青山 亨	センター長
岩崎 務	大学院総合国際学研究所長
武田 千香	言語文化学部長／副センター長
吉田 ゆり子	国際社会学部長
佐野 洋	学長特別補佐
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
池田 三喜男	学務部長
米谷 匡史	大学院総合国際学研究所教授
吉富 朝子	言語文化学部副学部長
金井 光太郎	国際社会学部副学部長

● センター会議

青山 亨	センター長 (大学院総合国際学研究所教授)
武田 千香	副センター長 (大学院総合国際学研究所教授)
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター (センター研究員)
内藤 稔	大学院総合国際学研究所講師
長谷部美佳	世界言語社会教育センター特任講師

多文化社会人材養成プロジェクト（2011-15年度）

【VI. 教育】

多言語・多文化総合プログラム

VI-1. 開講科目一覧

科目名	学期/単位数	内容
多言語・多文化社会論 入門Ⅰ	1学期 2単位	日本の多言語・多文化化を考えるための基礎的知識を学ぶ。
多言語・多文化社会論 入門Ⅱ	2学期 2単位	日本の多言語・多文化化の現状を現場の実践者から学ぶ。
多言語・多文化社会論 入門(2014～)	1学期 2単位	日本の多言語・多文化化を考えるための基礎的知識を学ぶ。
多言語・多文化社会論 歴史と現在	1学期 2単位	日本と世界の多言語・多文化化の歴史と現在を学ぶ。
多言語・多文化社会論 政策と法	2学期 2単位	日本国内の外国人にかかわる政策と法を学ぶ。
多言語・多文化社会論 理論と視角(2012～) (旧多言語・多文化社会論 社会・文化)	1学期/ 2学期 2単位	多言語・多文化社会にかかわる理論と視角を学ぶ。
多言語・多文化社会論 実習1	1学期 2単位	学んだことを社会の現場で活かし、ボランティア活動を行う。
多言語・多文化社会論 言語技能入門Ⅱ	2学期 2単位	コミュニティ通訳における実践的基礎技能を学ぶ。
多言語・多文化社会論 実践	1学期 2単位	学んだことを社会の現場で活かし、ボランティア活動を行う。
多言語・多文化社会論研究	1学期 2単位	現在の日本の「在留外国人」のあり方を理解するための、基本的な考え方を学ぶ。
多言語・多文化社会論研究B	2学期 2単位	多言語・多文化化する日本を支える制度、仕組み、また地域差などを理解し、自分の意見を簡易な論述形式で述べられるようにする。
多言語・多文化社会実践概論	2学期 2単位	多言語・多文化化が進む日本社会におけるコミュニティ通訳に対する理解を深める。
多文化社会コーディネーション インターンシップ	1学期 2単位	インターンに行く上での予備的な知識、および異文化理解について、ワークショップ形式、グループ発表などを通して学びながら、身につける。
多文化社会コーディネーション インターンシップ	2学期 2単位	春学期で学んだ知識や技能を活用し、多文化社会のコーディネーションを行う現場においてインターンシップを行う。
多文化社会コーディネーション演習	1学期/2学期 2単位	多文化化する日本社会について、多角的な視点から考察し、関連するテーマで多文化社会での問題を解決するための企画を実践する。
多文化社会コーディネーション概論	2学期 2単位	ある一つの事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループ内で話し合い、発表する作業を行う。
多文化社会コーディネーション論	1学期 2単位	言語や社会的文化的背景が異なる人と何かを成し遂げていく際に、必要となる理論的考え方、そしてその応用的方法を、実際の事例から身につける。
卒業論文研究	1学期/ 2学期 2単位	論文の書き方指導、文献の探し方指導、文献提示、参加者による論文の読み合わせなどを行い、最終的に卒論を仕上げられるようにする。
コミュニティ通訳 インターンシップA	1学期 2単位	コミュニティ通訳の現場で必要とされるマナーや心構えを含む基本的な予備知識、および異文化理解の際に求められる背景知識について、講義やワークショップ、ならびに受講生による発表などを通じて主体的に学ぶ。
コミュニティ通訳 インターンシップB	2学期 2単位	春学期に学んだ知識をもとにコミュニティ通訳の各現場でインターンシップに従事する。
コミュニティ通訳の基礎知識・マナー	1学期 2単位	コミュニティ通訳に必要な基礎知識を学ぶ。
コミュニティ通訳の実践(英語)	1学期/ 2学期 2単位	多言語・多文化社会におけるコミュニティ通訳の役割について理解を深めつつ、実際に通訳にあたるうえで必要な日本社会の制度面を中心とした背景知識、および基本的な通訳技法の習得を目指す。
コミュニティ通訳概論	2学期 2単位	国内の多言語・多文化化により生ずる課題が、今後さらに複雑化していくと考えられるなか、コミュニティ通訳の主な専門領域である(相談、司法、医療、行政、教育)の現場における事例をもとに、考察を深めていく。
コミュニティ通訳研究1・2	1学期/2学期 2単位	相談、司法、教育、行政、医療などを題材とした、コミュニティ通訳に関する知識を深め、自律的に調査を行う力を向上させる。
コミュニティ通訳研究卒論演習1・2	1学期/2学期 2単位	卒論執筆に向け、執筆計画を立て、それに合わせた個人報告と参考文献の検討、それを基にした議論を通じ、卒論完成を目指す。

※2015年度より 1学期→春学期、2学期→秋学期 に変更

VI-2. 授業内容 (2011～15年度)

2011年度

<1学期>

■多言語・多文化社会論入門Ⅰ

責任者：青山 亨 火曜日4限 113教室

実施日	テーマ	講師
4月12日	ガイダンス	青山 亨 (本学)
4月19日	ワークショップ活動。グループ分け。	木下理仁 (本学)
4月26日	留学生との交流活動(1)	岡田昭人 (本学)
5月10日	留学生との交流活動(2)	岡田昭人 (本学)
5月17日	異文化コミュニケーション	宮城徹 (本学)
5月24日	オールドカマーとニューカマー(1)	金富子 (本学)
5月31日	オールドカマーとニューカマー(2)	金富子 (本学)
6月7日	中間総括・グループワーク	青山 亨 (本学)
6月14日	外国人受け入れ政策(1)	鈴木江理子 (国土館大学)
6月21日	外国人受け入れ政策(2)	鈴木江理子 (国土館大学)
6月28日	受け入れ支援(1)	杉澤経子 (本学)
7月5日	受け入れ支援(2)	薦田庸子 (武蔵野市国際交流協会)
7月12日	プレゼンテーションのポイント 初級編	青山亨 (本学)
7月19日	学生グループ・プレゼンテーション(1)	青山亨 (本学)
7月26日	学生グループ・プレゼンテーション(2)	青山亨 (本学)

■コミュニティ通訳の基礎知識・マナー

責任者：受田宏之 月曜日2限 108教室

実施日	テーマ	講師
4月11日	ガイダンス	受田宏之 (本学)
4月18日	多言語・多文化社会とコミュニティ通訳	杉澤経子 (本学)
4月25日	コミュニティ通訳者に求められる心得・マナー	前田節子 (心理カウンセラー)
5月9日	外国人住民と行政	佐藤則義 (鶴見国際交流ラウンジ)
5月16日	外国人相談の現場における通訳実践	藤谷純子 (武蔵野市国際交流協会)
5月23日	外国人住民から見た法律制度	金秀玄 (弁護士)
5月30日	司法現場での通訳実践	内藤稔 (本学)
6月6日	グループ・ワーク	前田節子 (心理カウンセラー)
6月13日	外国人にとっての医療制度	松野勝民 (済生会神奈川県院ソーシャルワーカー)
6月20日	医療現場での通訳実践(1)	佐藤ペティ (MICかながわ)
6月27日	医療現場での通訳実践(2)	田中ネリ (臨床心理士)
7月4日	外国につながる子どもたちと教育	李原翔 (都立富士森高等学校)
7月11日	コミュニティ通訳のあり方を考える	内藤稔 (本学)
7月26日	まとめ	受田宏之 (本学)

※震災の影響で当初計画より授業回数が短縮された。

■多言語・多文化社会論 (歴史と現在)

責任者：篠原琢 木曜日1限 226教室

実施日	テーマ	講師
4月15日	ガイダンス	篠原琢 (本学)
4月22日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在(1)	米谷匡史 (本学)
5月6日	アメリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	佐々木孝弘 (本学)
5月13日	中国における多言語・多文化社会の歴史と現在	橋本雄一 (本学)
5月20日	マレーシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	左右田直規 (本学)

5月27日	インドネシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 亨 (本学)
6月3日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在(2)	前田達朗 (本学)
6月10日	グループ・ディスカッション	篠原琢 (本学)
6月17日	中南米における多言語・多文化社会の歴史と現在	受田宏之 (本学)
6月24日	ビルマにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	土佐桂子 (本学)
7月1日	ドイツにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	相馬保夫 (本学)
7月8日	東欧における多言語・多文化社会の歴史と現在	篠原琢 (本学)
7月15日	中南米における多言語・多文化社会の歴史と現在 (2)	鈴木茂 (本学)
7月22日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在(3)	李孝徳 (本学)
7月29日	まとめ	篠原琢 (本学)

■多言語・多文化社会論 (実習1)

*Add-on Program で学んだことを社会の現場で活かし、ボランティア活動を行います(「社会論入門Ⅰ」と「社会論入門Ⅱ」の両方の単位をすでに取得していることが履修条件です)。

責任者：武田千香 火曜日1限 220教室 履修者：4名

<2学期>

■多言語・多文化社会論入門Ⅱ

責任者：青山 亨 火曜日4限 113教室

実施日	テーマ	講師・ゲスト
10月4日	ガイダンス	青山 亨 (本学)
10月11日	日本における多言語・多文化社会 (1学期のまとめ)	青山 亨 (本学)
10月18日	ワークショップ。グループ分け。	木下理仁 (本学)
10月25日	川崎から(1)	湯川緑 (川崎市市民・こども局人権・男女共同参画室)
11月1日	川崎から(2)	金 迅野 (川崎市ふれあい館)
11月8日	浜松から	松岡真理恵 (財団法人浜松国際交流協会 (HICE)・浜松市多文化共生センター)
11月15日	上田から)	保科隆夫 (上田市市民生活部・市民課長)
11月29日	グループディスカッション：地域から	長谷部美佳 (本学)
12月6日	医療の現場から	山本裕子 (SHARE 国内保健事業部)
12月13日	法律の現場から	山口元一 (弁護士)
12月20日	行政の現場から	ヨコヤマ・マルコス (静岡県)
1月17日	日本語教育の現場から	北村祐人 (名古屋大学留学生センター、とよた日本語教育学習システム)
1月24日	グループディスカッション：現場から	長谷部美佳 (本学)
1月31日	学生グループ・プレゼンテーション(1)	青山 亨 (本学)
2月7日	学生グループ・プレゼンテーション(2)	青山 亨 (本学)

■多言語・多文化社会論 (社会・文化)

責任者：大川正彦 月曜日2限 107教室

実施日	テーマ	講師
10月17日	ガイダンス	大川正彦 (本学)
10月24日	多言語・多文化主義の歴史的背景	大川正彦 (本学)
10月31日	多言語・多文化主義とエスニシティ	大川正彦 (本学)
11月7日	ネイションとエスニシティ	大川正彦 (本学)
11月14日	アイデンティティとエスニシティ	大川正彦 (本学)
11月21日	レイシズム	大川正彦 (本学)
11月28日	マジョリティを相対化する(1) ろう文化	市田泰弘 (国立障害者リハビリテーションセンター)
12月5日	マジョリティを相対化する(2)アイヌ	大川正彦 (本学)

12月12日	マジョリティを相対化する(3) 部落	友常勉 (本学)
12月19日	日本における他者性の歴史	大川正彦 (本学)
12月26日	討議	大川正彦 (本学)
1月16日	多言語・多文化社会における不安・恐怖・暴力	大川正彦 (本学)
1月23日	アジアのなかの日本、日本の中のアジア (1)	金優綺 (在日本朝鮮人人権協会)
1月30日	アジアのなかの日本、日本の中のアジア (2)	熊谷伸一郎 (岩波書店『世界』編集部)
2月6日	総括—全体を振り返って	大川正彦 (本学)

■多言語・多文化社会論 (政策と法)

責任者：受田宏之 金曜日 2限 226 教室

実施日	テーマ	講師
10月7日	ガイダンス	受田宏之 (本学)
10月14日	世界の人の移動と移民政策	橋本直子 (国際移住機関)
10月21日	日本の外国人・移民政策への視点	渡戸一郎 (明星大学)
10月28日	外国人住民の生活をめぐる問題(1)外国につながる子どもの教育	佐久間 孝正 (立教大学名誉教授)
11月4日	日本の難民政策をめぐる問題	寺中誠 (東京経済大学客員教授)
11月11日	先住民族政策をめぐる問題	上村英明 (恵泉女学園大学)
11月25日	外国人が直面する法律問題	関 聡介 (弁護士)
12月2日	外国人住民の生活をめぐる問題(2) 言語政策	野山広 (国立国語研究所)
12月9日	外国人住民の生活をめぐる問題(3) 労働・社会保障	鳥井一平 (全統一労働組合)
12月17日	多言語・多文化社会と犯罪	太田達也 (慶応義塾大学)
1月20日	外国人住民の生活をめぐる問題(4) 自治体の視点から	北脇保之 (浜松海の星高等学校)
1月27日	外国人市民の政治参加と市民権(2) 国際比較	近藤敦 (名城大学)
2月3日	外国人市民の政治参加と市民権(1) 日本の歴史と現状	田中宏 (一橋大学)

■多言語・多文化社会論 (言語技能入門Ⅱ)

講義科目名	講師	曜日・時限	教室	履修者数
多言語・多文化社会論 (コミュニティ通訳実践：英語)	前田節子	金曜 2限	112	17
多言語・多文化社会論 (コミュニティ通訳実践：朝鮮語)	宣 元錫	月曜 1限	111	21
多言語・多文化社会論 (コミュニティ通訳実践：スペイン語)	イングリッド・ロベルト・カリスト	月曜 4限	112	11
多言語・多文化社会論 (コミュニティ通訳実践：中国語)	小藺瑞恵	水曜 3限	305	16
多言語・多文化社会論 (コミュニティ通訳実践：ポルトガル語)	岸和田明子	木曜 5限	212	4
多言語・多文化社会論 (コミュニティ通訳実践：フィリピン語)	高野邦夫	金曜 5限	110	5
多言語・多文化社会論 (コミュニティ通訳実践：インドネシア語)	スリナリ・ネスタリ → 竹下	木曜 5限	408	7
多言語・多文化社会論 (コミュニティ通訳実践：ベトナム語)	秋葉亜子	水曜 4限	106	12

■わたしの多言語・多文化社会論 (プレゼンテーション)

責任者：岡田昭人 木曜日 2限 106 教室

2012 年度

<1 学期>

■多言語・多文化社会論入門 I

責任者：長谷部美佳 火曜日 4 限 115 教室

実施日	テーマ	講師
4月17日	ガイダンス	長谷部美佳 (本学)
4月24日	日本で働く外国人の人とのディスカッション	ブライアン・バーバー チョウチョウソー
5月8日	日本で働く、日本で学ぶ外国人とは？	長谷部美佳 (本学)
5月15日	留学生とディスカッション	長谷部美佳 (本学)
5月22日	オールドカマーとは	長谷部美佳 (本学)
5月29日	ニューカマーとは(1)	長谷部美佳 (本学)
6月5日	制度のはざまに生きる人々	長谷部美佳 (本学)
6月12日	日系人と研修生	長谷部美佳 (本学)
6月19日	中間総括—日本人って誰？	長谷部美佳 (本学)
6月26日	コミュニティ通訳とは	内藤稔 (本学)
7月5日	外国人を支えるとは	長谷部美佳 (本学)
7月12日	ゲストから聞く外国人を支える活動	可部州彦 (明治学院大学)
7月19日	まとめ	長谷部美佳 (本学)

■コミュニティ通訳の基礎知識・マナー

責任者：内藤稔 月曜日 2 限 209 教室

実施日	テーマ	講師
4月16日	ガイダンス	内藤稔 (本学)
4月23日	コミュニティ通訳者に求められる基礎知識・マナー	内藤稔 (本学)
5月7日	コミュニティ通訳者としての文化の翻訳	前田節子 (心理カウンセラー)
5月14日	司法現場での通訳実践	内藤稔 (本学)
5月21日	外国人住民から見た法律制度	金秀玄 (弁護士)
5月28日	裁判の通訳や捜査の通訳	関沢紘一 (米海軍横須賀基地司令部法務部法律顧問)
6月4日	難民支援現場における通訳・翻訳の在り方	金児真依 (UNHCR 駐日事務所)
6月11日	外国につながる子どもたちと教育	李原翔 (都立富士森高等学校)
6月18日	行政現場における通訳、相談通訳	内藤稔 (本学)
6月25日	外国人の医療の現状	松野勝民 (済生会神奈川県病院ソーシャルワーカー)
7月2日	通訳の実践①	内藤稔 (本学)
7月9日	通訳の実践②	内藤稔 (本学)
7月23日	コミュニティ通訳のあり方を考える	内藤稔 (本学)

■多言語・多文化社会論 (歴史と現在)

責任者：長谷部美佳 木曜日 1 限 226 教室

実施日	テーマ	講師
4月12日	ガイダンス	長谷部美佳 (本学)
4月19日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在(1)	米谷匡史 (本学)
4月26日	アメリカ (ハワイ) における多言語・多文化社会の歴史と現在	長谷部美佳 (本学)
5月10日	中国における多言語・多文化社会の歴史と現在	橋本雄一 (本学)
5月17日	インドネシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 亨 (本学)
5月24日	マレーシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	左右田直規 (本学)
5月31日	ビルマにおける多言語・多文化社会の歴史と現在(2)	土佐桂子 (本学)
6月7日	ブラジルにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	鈴木 学 (本学)
6月14日	メキシコにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	受田宏之 (本学)
6月21日	東欧における多言語・多文化社会の歴史と現在	篠原 琢 (本学)

6月28日	ドイツにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	相馬保夫 (本学)
7月5日	アフリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	坂井真紀子 (本学)
7月12日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在(3)	前田達朗 (本学)
7月19日	まとめ	長谷部美佳 (本学)

■多言語・多文化社会論 (理論と視角)

責任者：長谷部美佳 月曜日2限 108教室

実施日	テーマ	講師
4月16日	ガイダンス	長谷部美佳 (本学)
4月23日	世界の移民の現況	
5月7日	移民の類型と国際移動の理論 (新古典派、世界システム)	
5月14日	ロールプレイ (人はどうやって移動する?)	
5月21日	国際移動の理論 (移民ネットワーク論、世帯戦略論)	
5月28日	移民の女性化はなぜ起こるか	
6月4日	国際分業と移民女性	
6月11日	移動を促進する移民政策	
6月18日	外国人の受け入れを考える	
6月25日	移民の定住とは何か	
7月2日	同化、統合、編入とは何か	
7月9日	レビュー	
7月16日	総括	

■多言語・多文化社会論 (実践)

*多言語・多文化総合プログラムで学んだことを社会の現場で活かし、ボランティア活動を行います(「社会論入門Ⅰ」と「社会論入門Ⅱ」の両方の単位をすでに取得していることが履修条件です)。

責任者：長谷部美佳 火曜日1限 114教室 履修者：4人

<2学期>

■多言語・多文化社会論入門Ⅱ

責任者：青山 亨 火曜日4限 115教室

実施日	テーマ	講師・ゲスト
10月2日	ガイダンス	長谷部美佳 (本学)
10月9日	外国人住む権利とは	
10月16日	非正規滞在者が住む権利とは	
10月23日	市民権と永住権	
10月30日	非正規滞在と在留特別許可	
11月6日	不就学と教育	
11月13日	外国人の日本語教育	
11月27日	外国人の住まいとは	
12月4日	外国人の医療問題	
12月11日	国際結婚の諸問題	
12月18日	資料を読む (オールドカマーの特長)	
1月15日	資料を読む (日系ブラジル人とは)	
1月22日	資料を読む (移民二世とは)	
1月29日	レビュー	
2月5日	まとめ	

■多言語・多文化社会論（政策と法）

責任者：受田宏之、長谷部美佳 金曜日 2限 104 教室

実施日	テーマ	講師
10月5日	ガイダンス	受田宏之、長谷部美佳（本学）
10月12日	移民政策と入管法の概要	
10月19日	外国人労働者の政策的位置づけと NGO・自治体の役割	
10月26日	外国人住民の生活をめぐる問題(1)外国につながる子どもの教育	
11月2日	市民権と在留特別許可について	
11月9日	メキシコの先住民民族をめぐる問題	
11月16日	難民受け入れ政策の国際比較	
11月30日	日本の外国人と「地域」の重要性	
12月7日	集住地域の特徴とその課題について	
12月14日	散住地域の特徴とその課題について	
12月21日	グループディスカッション	
1月11日	集住地域の人の話を聞く	富本潤子（NPO 法人 ABC ジャパン）
1月18日	グループ発表	受田宏之、長谷部美佳（本学）
1月25日	グループ発表	
2月1日	総括ディスカッション	

■多言語・多文化社会論（言語技能入門Ⅱ）

講義科目名	講師	曜日・時限	教室	履修者数
コミュニティ通訳の実践（英語）	前田節子	金曜 2 限	103	8
コミュニティ通訳の実践（スペイン語）	中西智恵美	月曜 4 限	224	13
コミュニティ通訳の実践（中国語）	小菌瑞恵	金曜 5 限	318	6
コミュニティ通訳の実践（ポルトガル語）	岸和田明子	木曜 5 限	329	6
コミュニティ通訳の実践（フィリピン語）	高野邦夫	水曜 4 限	307	11
コミュニティ通訳の実践（インドネシア語）	スリ・ブディ・ネスタリ	金曜 5 限	330	2
コミュニティ通訳の実践（ベトナム語）	秋葉亜子	水曜 3 限	109	7

2013 年度

<1 学期>

■多言語・多文化社会論入門Ⅰ

金曜日 2 限 アゴラグローバル プロメテウスホール

実施日	テーマ	講師
4月12日	ガイダンス	長谷部美佳（本学）
4月19日	日本に住む外国人住民の概要(1)	
4月26日	日本に住む外国人住民の概要(2)	
5月10日	多文化化する日本の歴史	
5月17日	カテゴリーから見た外国人住民	
5月24日	オールドカマーとは	
5月31日	人道的配慮による入国（難民）	
6月7日	日本人の家族（国際結婚）	
6月14日	日本とのつながり（日系人）	
6月21日	制度のはざまに落ちる人たち（オーバーステイ）	
6月28日	コミュニティ通訳とは	
7月5日	外国人を支える人たち	長谷部美佳（本学）
7月12日	日本で働く外国人	

7月19日	ゲスト講師	石田光 (夢道 s 代表取締役)
7月26日	まとめ	長谷部美佳 (本学)

■多言語・多文化社会論 (歴史と現在)

木曜日 2限 227 教室

実施日	テーマ	講師
4月11日	ガイダンス	長谷部美佳 (本学)
4月18日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在(1)	米谷匡史 (本学)
4月25日	アメリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	長谷部美佳 (本学)
5月9日	中国における多言語・多文化社会の歴史と現在	橋本雄一 (本学)
5月16日	台湾における多言語・多文化社会の歴史と現在	長谷部美佳 (本学)
5月23日	マレーシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	左右田直規 (本学)
5月30日	インドネシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 亨 (本学)
6月6日	メキシコにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	受田宏之 (本学)
6月13日	東欧における多言語・多文化社会の歴史と現在	篠原 琢 (本学)
6月20日	ドイツにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	相馬保夫 (本学)
6月27日	オーストラリアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	山内百合子 (本学)
7月4日	アフリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	坂井真紀子 (本学)
7月11日	難民の人の話を聞く	長谷部美佳 (本学)
7月18日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在(2)	前田達朗 (本学)
7月25日	まとめ	長谷部美佳 (本学)

■多言語・多文化社会論 (実践)

*多言語・多文化総合プログラムで学んだことを社会の現場で活かし、ボランティア活動を行います(「社会論入門Ⅰ」と「社会論入門Ⅱ」の両方の単位をすでに取得していることが履修条件です)。

責任者:長谷部美佳 金曜日 5限 114 教室 履修者:10人

<2学期>

■多言語・多文化社会論入門Ⅱ

金曜日 2限 102 教室

実施日	テーマ	講師・ゲスト
10月4日	ガイダンス	長谷部美佳 (本学)
10月11日	外国人住む権利とは	
10月18日	非正規滞在者が住む権利とは	
10月25日	市民権と永住権	
11月1日	非正規滞在と在留特別許可	
11月8日	非正規滞在者とその社会的背景	
11月15日	外国人の住まいとは	
11月29日	移民の子どもの教育	
12月6日	移民の日本語習得	
12月13日	外国人の医療問題	
12月20日	国際結婚の諸問題	
1月10日	外国人の集住地域とは	
1月17日	外国人はどこに住んでいる?	
1月24日	レビュー	
1月31日	まとめ	

■多言語・多文化社会論（理論と視角）

月曜日 2限 114 教室

実施日	テーマ	講師
10月7日	ガイダンス	長谷部美佳（本学）
10月16日	世界の移民の現況	
10月21日	移民の類型と国際移動の理論（新古典派、世界システム）	
10月28日	ロールプレイ（人はどうやって移動する？）	
11月7日	国際移動の理論（移民ネットワーク論、世帯戦略論）	
11月11日	移民の女性化はなぜ起こるか	
11月18日	再生産の国際分業と女性	
12月2日	移動を促進する移民政策	
12月9日	同化とは何か	
12月16日	同化、編入、統合とは何か	
12月24日	多文化主義とは何か	
1月20日	移民の定住過程	
1月27日	移民の社会統合とは何か	
2月3日	まとめ	

■多言語・多文化社会実践概論（コミュニティ通訳概論）

月曜日 3限 113 教室

実施日	テーマ	講師
10月7日	ガイダンス	内藤稔（本学）
10月16日	通訳の歴史	
10月21日	通訳の理論と求められる技法	
10月28日	相談通訳の仕組み	
11月7日	遠隔通訳の取り組み	
11月11日	医療通訳における課題と現状	
11月18日	外国人の医療と現状	松野勝民（MIC かながわ理事長）
12月2日	司法通訳と法廷通訳	内藤稔（本学）
12月9日	学校現場における通訳の担い手	
12月16日	外国につながる子どもたちと教育	李原翔（都立富士森高等学校）
12月24日	行政・自治体における通訳の現状	内藤稔（本学）
1月20日	ユーザーの立場についての考察	
1月27日	通訳演習発表①	
2月3日	通訳演習発表②	
2月10日	総括ーコミュニティ通訳の役割と専門性を考える	

■コミュニティ通訳の実践（英語）

金曜日 2限 204 教室

実施日	テーマ	講師
10月4日	ガイダンス	内藤稔（本学）
10月11日	通訳の歴史	
10月18日	相談通訳の仕組み	
10月26日	遠隔通訳の取り組み	
11月1日	通訳訓練法	
11月8日	司法通訳の世界	
11月15日	司法通訳演習	
11月29日	行政現場における通訳	
12月6日	行政通訳演習	
12月13日	医療通訳における課題	
12月20日	医療通訳演習	

1月10日	外国につながる子どもたち	内藤稔 (本学)
1月24日	教育通訳演習	
1月31日	まとめ	
2月7日	課題の発表と提出	

2014年度

<1学期>

■多言語・多文化社会論入門

金曜日 2限 101 教室

実施日	テーマ	講師
4月11日	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
4月18日	多言語・多文化化する日本の現状	
4月25日	オールドカマーとは	
5月9日	日本とのつながりのあるニューカマーたち (帰国者)	
5月16日	日本とのつながりのあるニューカマーたち (日系人)	
5月23日	日本人とのつながりのあるニューカマーたち (国際結婚の女性)	
5月30日	日本に住む難民	
6月6日	日本人とは誰なのか?	
6月13日	制度のはざままで生きる人たち	
6月20日	日本で働く?研修生	
6月27日	日本で学ぶ、働く (高度人材と留学生)	
7月4日	コミュニティ通訳とは	
7月11日	多文化社会に生きる日本人として	
7月18日	多文化社会コーディネーターとは	
7月25日	まとめ	

■多言語・多文化社会論 (歴史と現在)

木曜日 2限 227 教室

実施日	テーマ	講師
4月10日	イントロダクション (ガイダンス)	長谷部美佳 (本学)
4月17日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (1)	米谷 匡史 (本学)
4月24日	アメリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	金井光太郎 (本学)
5月1日	中国における多言語・多文化社会の歴史と現在	橋本 雄一 (本学)
5月15日	インドネシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 亨 (本学)
5月22日	中欧における多言語・多文化社会の歴史と現在	篠原 琢 (本学)
5月29日	ドイツにおける多言語・多文化社会の現在	相馬 保夫 (本学)
6月5日	南米における多言語・多文化社会の歴史と現在	宮地 隆広 (本学)
6月12日	中東における多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 弘之 (本学)
6月19日	アフリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	坂井真紀子 (本学)
6月26日	オーストラリアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	山内百合子 (本学)
7月3日	朝鮮半島における多言語・多文化社会の歴史と現在	金 富子 (本学)
7月10日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (2)	前田 達朗 (本学)
7月17日	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (3)	長谷部美佳 (本学)
7月24日	まとめ	長谷部美佳 (本学)

■多言語・多文化社会論研究

水曜日 2限 227 教室

実施日	テーマ	講師
4月9日	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
4月16日	外国人/日本人とは誰か	
4月23日	国民国家と境界	
4月30日	国民国家を支える物語	
5月7日	言葉の壁とは	
5月14日	制度の壁とは	
5月21日	心の壁とは	
6月4日	外国人の存在を認める論理①—入国管理政策	
6月11日	外国人の存在を認める論理②—人手不足	
6月18日	外国人の存在を認める論理③—市民社会の役割	
6月25日	外国人の存在を認める方法①—同化	
7月2日	外国人の存在を認める方法②—社会的包摂	
7月9日	社会の多様性と社会統合	
7月16日	日本の多文化共生とは	
7月23日	まとめ	

■多言語・多文化社会論 (実習)

金曜日 5限 317 教室

実施日	テーマ	講師
4月11日	イントロダクション—ボランティアとは	長谷部美佳 (本学)
4月18日	受入れ先からの説明会	
4月25日	フィールド実習①	
5月9日	フィールド実習②	
5月16日	フィールド実習③	
5月23日	フィールド実習④	
5月30日	フィールド実習⑤	
6月6日	中間報告	
6月13日	フィールド実習⑥	
6月20日	フィールド実習⑦	
6月27日	フィールド実習⑧	
7月4日	フィールド実習⑨	
7月11日	フィールド実習⑩	
7月18日	最終プレゼンテーション①	
7月25日	最終プレゼンテーション②	

■多文化社会コーディネーション論

火曜日 2限 331 教室

実施日	テーマ	講師
4月8日	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
4月15日	コーディネーションとコミュニケーション	
4月22日	人の話を聞くこととは (アクティブ・リスニングとロジカル・リスニング)	
5月13日	人の話を聞いてみよう	
5月20日	「人の話を聞く」振り返り	
5月27日	異文化間で課題を発見する(事例)	
6月3日	「課題発見」振り返り	
6月6日	異文化間で信頼獲得する(事例)	
6月10日	「信頼獲得」振り返り	

6月17日	異文化間で合意形成する(事例)	長谷部美佳(本学)
6月24日	「合意形成」振り返り	
7月1日	問題解決のための企画とコミュニケーション	
7月8日	グループ発表	
7月15日	グループ発表	
7月22日	最終総括	

■多文化社会コーディネーション演習

火曜日4限 745教室

実施日	テーマ	講師
4月8日	イントロダクション	長谷部美佳(本学)
4月15日	多文化社会論関係文献購読(日本の多文化①)	
4月22日	多文化社会論関係文献購読(日本の多文化②)	
5月13日	多文化社会論関係文献購読(日本の多文化③)	
5月20日	多文化社会論関係文献購読(日本の多文化④)	
5月27日	多文化社会論関係文献購読(フィールドについて①)	
6月3日	多文化社会論ワークショップ(フィールドについて②)	
6月6日	多文化社会論関係文献購読(フィールドについて③)	
6月10日	多文化社会論ワークショップ(フィールドについて④)	
6月17日	多文化社会論関係文献購読(方法論①)	
6月24日	多文化社会論ワークショップ(海外事例②)	
7月1日	多文化社会論関係文献購読(海外事例③)	
7月8日	個人発表(1)	
7月15日	個人発表(2)	
7月22日	まとめ	

■多文化社会コーディネーション インターンシップ

金曜日1限 318教室

実施日	テーマ	講師
4月11日	オリエンテーション	長谷部美佳(本学)
4月18日	インターンシップとは(1)ワークショップ	
4月25日	インターンシップとは(2)ワークショップ	
5月9日	インターンシップとは(3)ワークショップ	
5月16日	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場)(1)	
5月23日	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場)(2)	
5月30日	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場)(3)	
6月6日	異文化理解についての予備知識(1)	
6月13日	異文化理解についての予備知識(2)	
6月20日	異文化理解についての予備知識(3)	
6月27日	グループ発表	
7月4日	グループ発表	
7月11日	グループ発表	
7月18日	グループ発表	
7月25日	フォローアップ	

■コミュニティ通訳の実践A

金曜日 2限 204 同時通訳室

実施日	テーマ	講師
4月11日	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
4月18日	通訳の技術	
4月25日	通訳訓練法	
5月9日	Public Speaking	
5月16日	ノートテイキング	
5月23日	通訳におけるピア・レビューのあり方	
5月30日	英日サイトトランスレーション①	
6月6日	英日サイトトランスレーション②	
6月13日	日英サイトトランスレーション①	
6月20日	日英サイトトランスレーション②	
6月27日	英日逐次通訳①	
7月4日	英日逐次通訳②	
7月11日	日英逐次通訳①	
7月18日	日英逐次通訳②	
7月25日	最終課題の発表	

■コミュニティ通訳 インターンシップA

金曜日 1限 204 同時通訳室

実施日	テーマ	講師
4月11日	オリエンテーション	内藤 稔 (本学)
4月18日	インターンシップとは：ワークショップ①	
4月25日	インターンシップとは：ワークショップ②	
5月9日	インターンシップとは：ワークショップ③	
5月16日	コミュニティ通訳の現場についての予備知識①	
5月23日	コミュニティ通訳の現場についての予備知識②	
5月30日	コミュニティ通訳の現場についての予備知識③	
6月6日	異文化理解についての予備知識①	
6月13日	異文化理解についての予備知識②	
6月20日	異文化理解についての予備知識③	
6月27日	受講生による発表①	
7月4日	受講生による発表②	
7月11日	受講生による発表③	
7月18日	フォローアップのためのディスカッション	
7月25日	まとめ	

■コミュニティ通訳研究1

月曜日 4限 830 教室

実施日	テーマ	講師
4月14日	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
4月21日	相談通訳の事例	
4月28日	相談通訳の役割	
5月8日	相談通訳の専門性	
5月12日	相談通訳の展望	
5月19日	相談通訳の調査	
5月26日	相談通訳の調査の発表	
6月2日	カウンセリング	
6月9日	司法通訳の事例	
6月16日	司法通訳の役割	

6月23日	司法通訳の専門性	内藤 稔 (本学)
6月30日	司法通訳の展望	
7月7日	司法通訳の調査	
7月14日	司法通訳の調査の発表	
7月28日	まとめ	

<2学期>

■多言語・多文化社会論 (理論と視角)

月曜日2限 プロメテウス・ホール

実施日	テーマ	講師
10月6日	ガイダンス—人の移動はなぜ起こるのか?	長谷部美佳 (本学)
10月20日	世界的な人の移動、国際移動の分類	
10月27日	人の国際移動に関する理論 (1) ネオリベラル、世界システム論など	
11月10日	人の国際移動に関する理論 (2) 世界戦略論、ネットワーク論など	
11月17日	移民の女性化はなぜ起こるのか?—国際分業と移民	
11月26日	移民の女性化はなぜ起こるのか?—再生産労働の国際分業	
12月1日	移民を引き起こす要因としての移民政策	
12月8日	中間総括	
12月15日	同化政策とは	
12月22日	多文化主義とは	
1月15日	移民の統合とは何か?	
1月19日	移民コミュニティの役割	
1月26日	世界の多文化の事例から (1)	
2月2日	世界の多文化の事例から (2)	
2月2日	最終総括	

■多言語・多文化社会論研究B

水曜日2限 308教室

実施日	テーマ	講師
10月1日	ガイダンス	長谷部美佳 (本学)
10月8日	日本の出入国管理政策	
10月15日	外国人が直面する問題を洗い出す	
10月22日	多文化共生政策とは何か?	
10月29日	外国人の受け入れと人権	
11月5日	社会統合とは?	
11月12日	自分の住む町の外国人について (ブレイクストーミング)	
12月3日	地域と外国人と多文化共生 (集住地域)	
12月10日	地域と外国人と多文化共生 (散在地域)	
12月17日	エスニック・コミュニティとホスト社会の役割	
12月24日	多文化の条例を作る?	
1月14日	多文化の条例実践する?	
1月21日	自分の住む町の外国人についてのグループ発表①	
1月28日	自分の住む町の外国人についてのグループ発表②	
2月4日	レポート	

■多文化社会コーディネーション概論

火曜日3限 227教室

実施日	テーマ	講師
10月7日	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
10月14日	「コーディネーション論」とは何か?	

10月21日	積極的傾聴 (Active Listening)	長谷部美佳 (本学)
10月28日	異文化コミュニケーションの障害 (ステレオタイプ、自民族中心主義)	
11月4日	異文化間能力とは何か?	
11月11日	インターパーソナルコミュニケーションとは?	
11月18日	モチベーションと説得	
12月2日	コミットメントとは?	
12月9日	ソーシャルキャピタルとは?	
12月16日	協働するとは?	
1月13日	問題を発見しよう	
1月20日	課題を共有しよう	
1月27日	グループ発表	
2月3日	グループ発表	
2月10日	まとめ	

■多文化社会コーディネーション演習

火曜日 4限 745 教室

実施日	テーマ	講師
10月7日	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
10月14日	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化①)	
10月21日	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化②)	
10月28日	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化③)	
11月4日	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化④)	
11月11日	多文化社会論関係文献購読 (フィールドについて①)	
11月18日	多文化社会論ワークショップ (フィールドについて②)	
12月2日	多文化社会論関係文献購読 (フィールドについて③)	
12月9日	多文化社会論ワークショップ (フィールドについて④)	
12月16日	多文化社会論関係文献購読(方法論①)	
1月13日	多文化社会論ワークショップ(海外事例②)	
1月20日	多文化社会論関係文献購読(海外事例③)	
1月27日	個人発表 (1)	
2月3日	個人発表 (2)	
2月10日	まとめ	

■多文化社会コーディネーション インターンシップ

金曜日 1限 318 教室

実施日	テーマ	講師
10月3日	オリエンテーション	長谷部美佳 (本学)
10月10日	インターンシップについて	
10月17日	インターンシップ実習①	
10月24日	インターンシップ実習②	
10月31日	インターンシップ実習③	
11月7日	インターンシップ実習④	
11月14日	インターンシップ実習⑤	
11月28日	中間報告	
12月5日	インターンシップ実習⑥	
12月12日	インターンシップ実習⑦	
12月19日	インターンシップ実習⑧	
12月26日	インターンシップ実習⑨	
1月23日	インターンシップ実習⑩	

1月30日	最終発表①	長谷部美佳 (本学)
2月6日	最終発表②	

■コミュニティ通訳概論

月曜日3限 103教室

実施日	テーマ	講師
10月6日	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
10月20日	通訳の歴史	
10月27日	通訳の理論と求められる技法	
11月10日	相談通訳の仕組み	
11月17日	難民支援現場における通訳	
11月26日	医療通訳における課題と現状	
12月1日	外国人の医療と現状	
12月8日	司法通訳と法廷通訳	
12月15日	学校現場における通訳の担い手	
12月22日	外国につながる子どもたちと教育	
1月15日	行政・自治体における通訳の現状	
1月19日	ユーザーの立場についての考察	
1月26日	グループによる通訳プレゼンテーション①	
2月2日	グループによる通訳プレゼンテーション②	
2月2日	まとめーコミュニティ通訳における専門性	

■コミュニティ通訳の実践

金曜日2限 204同時通訳室

実施日	テーマ	講師
10月3日	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
10月10日	通訳訓練法のあり方を考える	
10月17日	オーラリゼーションとは	
10月24日	日英サイトトランスレーション①	
10月31日	日英サイトトランスレーション②	
11月7日	日英逐次通訳①	
11月14日	日英逐次通訳②	
11月28日	英日サイトトランスレーション①	
12月5日	英日サイトトランスレーション②	
12月12日	英日逐次通訳①	
12月19日	英日逐次通訳②	
12月26日	コミュニティ通訳の意義	
1月23日	ウィスパリング通訳の方略	
1月30日	ウィスパリング通訳の実践	
2月6日	最終課題の発表	

■コミュニティ通訳 インターンシップ

金曜日1限 204同時通訳室

実施日	テーマ	講師
10月3日	オリエンテーション	内藤 稔 (本学)
10月10日	インターンシップを再考する	
10月17日	インターンシップ実習①	
10月24日	インターンシップ実習②	
10月31日	インターンシップ実習③	
11月7日	インターンシップ実習④	
11月14日	インターンシップ実習⑤	

11月28日	中間報告	内藤 稔 (本学)
12月5日	インターンシップ実習⑥	
12月12日	インターンシップ実習⑦	
12月19日	インターンシップ実習⑧	
12月26日	インターンシップ実習⑨	
1月23日	インターンシップ実習⑩	
1月30日	最終発表①	
2月6日	最終発表②	

■コミュニティ通訳研究2

月曜日 4限 830 教室

実施日	テーマ	講師
10月6日	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
10月20日	医療通訳の事例	
10月27日	医療通訳の役割	
11月10日	医療通訳の専門性	
11月17日	医療通訳の展望	
11月26日	医療通訳の調査	
12月1日	医療通訳の調査の発表	
12月8日	カウンセリング	
12月15日	教育・行政通訳の事例	
12月22日	教育・行政通訳の役割	
1月15日	教育・行政通訳の専門性	
1月19日	教育・行政通訳の展望	
1月26日	教育・行政通訳の調査	
2月2日	教育・行政通訳の調査の発表	
2月2日	最終総括	

2015年度

<春学期>

■多言語・多文化社会論入門

金曜日 2限 101 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	多言語・多文化化する日本の現状	
3	オールドカマーとは	
4	日本とのつながりのあるニューカマーたち (帰国者)	
5	日本とのつながりのあるニューカマーたち (日系人)	
6	日本人とのつながりのあるニューカマーたち (国際結婚の女性)	
7	日本に住む難民	
8	アクティブラーニング 1	
9	制度のはざまで生きる人たち	
10	日本で働く?研修生	
11	日本で学ぶ、働く (高度人材と留学生)	
12	コミュニティ通訳とは	
13	多文化社会に生きる日本人として	
14	多文化社会コーディネーターとは	
15	アクティブラーニング 2	

履修者実績 : 317人

■多言語・多文化社会論（歴史と現在）

木曜日 2限 227 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション (ガイダンス)	長谷部美佳 (本学)
2	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (沖縄・アイヌ)	米谷 匡史 (本学)
3	アメリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	金井光太郎 (本学)
4	中国における多言語・多文化社会の歴史と現在	橋本 雄一 (本学)
5	インドネシアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 亨 (本学)
6	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (奄美、在日)	前田 達朗 (本学)
7	ドイツにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	相馬 保夫 (本学)
8	東欧における多言語・多文化社会の現在	篠原 琢 (本学)
9	アフリカにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	青山 弘之 (本学)
10	オーストラリアにおける多言語・多文化社会の歴史と現在	坂井真紀子 (本学)
11	朝鮮半島における多言語・多文化社会の歴史と現在	山内百合子 (本学)
12	日本における多言語・多文化社会の歴史と現在 (現在の日本の多文化)	金 富子 (本学)
13	授業内総括試験	前田 達朗 (本学)
14	アクティブラーニング 1 (資料検索)	長谷部美佳 (本学)
15	アクティブラーニング 2 (ワークショップ)	長谷部美佳 (本学)

履修者実績：120人

■多言語・多文化社会論研究

木曜日 4限 213 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	外国人／日本人とは誰か	
3	国民国家と境界	
4	国民国家を支える物語	
5	言葉の壁とは	
6	制度の壁とは	
7	ワークショップ	
8	外国人の存在を認める論理①—入国管理政策	
9	外国人の存在を認める論理②—人手不足	
10	外国人の存在を認める論理③—市民社会の役割	
11	外国人の存在を認める方法①—同化	
12	外国人の存在を認める方法②—社会的包摂	
13	社会の多様性と社会統合	
14	日本の多文化共生とは	
15	ワークショップ	

履修者実績：42人

■多言語・多文化社会論（実習）

金曜日 5限 326 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション—ボランティアとは	長谷部美佳 (本学)
2	受入れ先からの説明会	
3	フィールド実習①	
4	フィールド実習②	

5	フィールド実習③	長谷部美佳 (本学)
6	フィールド実習④	
7	フィールド実習⑤	
8	中間報告	
9	フィールド実習⑥	
10	フィールド実習⑦	
11	フィールド実習⑧	
12	フィールド実習⑨	
13	フィールド実習⑩	
14	最終プレゼンテーション①	
15	最終プレゼンテーション②	

履修者：3人

■多文化社会コーディネーション論

火曜日 2限 114 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	コーディネーションとコミュニケーション	
3	人の話を聞くこととは (アクティブ・リスニングとロジカル・リスニング)	
4	人の話を聞いてみよう	
5	「人の話を聞く」振り返り	
6	異文化間で課題を発見する(事例)	
7	「課題発見」振り返り	
8	異文化間で信頼獲得する(事例)	
9	「信頼獲得」振り返り	
10	異文化間で合意形成する (事例)	
11	「合意形成」振り返り	
12	問題解決のための企画とコミュニケーション	
13	グループ発表	
14	グループ発表	
15	アクティブラーニング(ワークショップによる総括)	

履修者：61人

■多文化社会コーディネーション演習

火曜日 4限 745 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化①)	
3	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化②)	
4	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化③)	
5	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化④)	
6	多文化社会論関係文献購読 (フィールドについて①)	
7	アクティブラーニング (フィールドワーク等)	
8	多文化社会論関係文献購読 (フィールドについて③)	
9	多文化社会論ワークショップ (フィールドについて④)	
10	多文化社会論関係文献購読 (方法論①)	
11	多文化社会論ワークショップ (海外事例②)	
12	多文化社会論関係文献購読 (海外事例③)	
13	個人発表 (1)	
14	個人発表 (2)	
15	アクティブラーニング (フィールドワーク等)	

履修者：13人

■多文化社会コーディネーション インターンシップ

金曜日 3限 322 教室

回	テーマ	講師
1	オリエンテーション	長谷部美佳 (本学)
2	インターンシップとは (1) ワークショップ	
3	インターンシップとは (2) ワークショップ	
4	インターンシップとは (3) ワークショップ	
5	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場) (1)	
6	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場) (2)	
7	多言語多文化社会で働くための予備知識 (コーディネーションの現場) (3)	
8	異文化理解についての予備知識 (1)	
9	異文化理解についての予備知識 (2)	
10	フィールドワーク	
11	グループ発表	
12	グループ発表	
13	グループ発表	
14	グループ発表	
15	アクティブラーニング (ワークショップ)	

履修者：7人

■卒業論文研究

火曜日 5限 711 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	論文の書き方	
3	論文の書き方	
4	文献の探し方	
5	文献の探し方	
6	個人発表	
7	個人発表	
8	ワークショップ	
9	個別論文指導	
10	個別論文指導	
11	個別論文指導	
12	個人発表	
13	個人発表	
14	個人発表	
15	ワークショップによる総括	

履修者：11人

■コミュニティ通訳の実践A

金曜日 2限 204 同時通訳室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	通訳の技術	
3	Public Speaking	
4	ノートテイキング	
5	アクティブラーニング 1	
6	英日サイトトランスレーション①	
7	英日サイトトランスレーション②	
8	日英サイトトランスレーション①	

9	日英サイトトランスレーション②	内藤 稔 (本学)
10	アクティブラーニング 2	
11	英日逐次通訳①	
12	英日逐次通訳②	
13	日英逐次通訳①	
14	日英逐次通訳②	
15	最終課題の発表	

履修者：15人

■コミュニティ通訳研究 1

月曜日 4限 830 教室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	相談通訳の役割	
3	相談通訳の専門性	
4	相談通訳の展望	
5	アクティブラーニング 1	
6	相談通訳の調査	
7	相談通訳の調査の発表	
8	カウンセリング	
9	司法通訳の役割	
10	司法通訳の専門性	
11	司法通訳の展望	
12	アクティブラーニング 2	
13	司法通訳の調査	
14	司法通訳の調査の発表	
15	まとめ	

履修者実績：11人

■インターンシップ A

金曜日 3限 204 同時通訳室

回	テーマ	講師
1	オリエンテーション	内藤 稔 (本学)
2	インターンシップとは：ワークショップ①	
3	インターンシップとは：ワークショップ②	
4	インターンシップとは：ワークショップ③	
5	アクティブラーニング 1	
6	コミュニティ通訳の現場についての予備知識①	
7	コミュニティ通訳の現場についての予備知識②	
8	アクティブラーニング 2	
9	異文化理解についての予備知識①	
10	異文化理解についての予備知識②	
11	受講生による発表①	
12	受講生による発表②	
13	受講生による発表③	
14	フォローアップのためのディスカッション	
15	まとめ	

履修者：9人

■コミュニティ通訳研究卒論演習 1

月曜日 5限 研究室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション1 講読第1回	
3	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション1 講読第2回	
4	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション1 講読第3回	
5	アクティブラーニング 1	
6	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション2 講読第1回	
7	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション2 講読第2回	
8	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション2 講読第3回	
9	アクティブラーニング 2	
10	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション3 講読第1回	
11	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション3 講読第2回	
12	Part 1 Key Concepts and Research Issues セクション3 講読第3回	
13	各自の研究テーマの発表と検討1	
14	各自の研究テーマの発表と検討2	
15	まとめとカウンセリング	

履修者：8人

<秋学期>

■多言語・多文化社会論 (理論と視角)

木曜日 2限 109 教室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス—人の移動はなぜ起こるのか?	長谷部美佳 (本学)
2	世界的な人の移動、国際移動の分類	
3	人の国際移動に関する理論 (1) ネオリベラル、世界システム論など	
4	人の国際移動に関する理論 (2) 世界戦略論、ネットワーク論など	
5	移民の女性化はなぜ起こるのか?—国際分業と移民	
6	移民の女性化はなぜ起こるのか?—再生産労働の国際分業	
7	移民を引き起こす要因としての移民政策	
8	アクティブラーニング 1 (資料の読み方)	
9	同化政策とは	
10	多文化主義とは	
11	移民の統合とは何か?	
12	移民コミュニティの役割	
13	授業内最終総括	
14	アクティブラーニング 1 (ワークショップ 1)	
15	アクティブラーニング 2 (ワークショップ 2)	

履修者実績：124人

■多言語・多文化社会論研究 B

木曜日 4限 213 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	外国人が日本で守られるには①—憲法、国際人権法	
3	外国人が日本で守られるには②—少子高齢化と外国人	
4	国籍と永住権	
5	非正規労働者はどうやって守られるのか	
6	移民の社会統合とは何か?	

7	ワークショップ)	長谷部美佳 (本学)
8	外国人の日本語学習	
9	外国人の子どもの教育	
10	外国人と医療、社会保障	
11	集住地域と散在地域 (国際結婚)	
12	集住地域と散在地域 (オールドカマーの集住地域大阪、川崎)	
13	集住地域と散在地域 (ニューカマーの集住地域、浜松など)	
14	映像資料を見る	
15	ワークショップによる総括	

履修者：54人

■多文化社会コーディネーション概論

火曜日 3限 308 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	「コーディネーション論」とは何か?	
3	積極的傾聴 (Active Listening)	
4	異文化コミュニケーションの障害 (ステレオタイプ、自民族中心主義)	
5	異文化間能力とは何か?	
6	インターパーソナルコミュニケーションとは?	
7	モチベーションと説得	
8	コミットメントとは?	
9	ソーシャルキャピタルとは?	
10	協働するとは?	
11	問題を発見しよう	
12	グループ発表	
13	グループ発表	
14	アクティブラーニング 1 (ワークショップ)	
15	アクティブラーニング 2 (フィールドワーク)	

履修者：12人

■多文化社会コーディネーション演習

火曜日 4限 222 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化①)	
3	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化②)	
4	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化③)	
5	多文化社会論関係文献購読 (日本の多文化④)	
6	多文化社会論関係文献購読 (フィールドについて①)	
7	フィールドワーク	
8	多文化社会論関係文献購読 (フィールドについて②)	
9	多文化社会論ワークショップ (フィールドについて③)	
10	多文化社会論関係文献購読(方法論①)	
11	多文化社会論ワークショップ(海外事例②)	
12	多文化社会論関係文献購読(海外事例③)	
13	個人発表 (1)	
14	個人発表 (2)	
15	フィールドワーク	

履修者：18人

■多文化社会コーディネーション インターンシップ

金曜日 3限 322 教室

回	テーマ	講師
1	オリエンテーション	長谷部美佳 (本学)
2	インターンシップについて	
3	インターンシップ実習①	
4	インターンシップ実習②	
5	インターンシップ実習③	
6	インターンシップ実習④	
7	インターンシップ実習⑤	
8	アクティブラーニング 1 (ワークショップ)	
9	インターンシップ実習⑥	
10	インターンシップ実習⑦	
11	インターンシップ実習⑧	
12	インターンシップ実習⑨	
13	インターンシップ実習⑩	
14	最終発表	
15	アクティブラーニング 2 (フィールドワーク)	

履修者：9人

■卒業論文研究

火曜日 5限 222 教室

回	テーマ	講師
1	イントロダクション	長谷部美佳 (本学)
2	論文の書き方	
3	論文の書き方	
4	文献の探し方	
5	文献の探し方	
6	個人発表	
7	個人発表	
8	ワークショップ	
9	個別論文指導	
10	個別論文指導	
11	個別論文指導	
12	個人発表	
13	個人発表	
14	個人発表	
15	ワークショップによる総括	

履修者：11人

■コミュニティ通訳概論

月曜日 3限 103 教室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	通訳の歴史	
3	通訳の理論と技術	
4	相談通訳の仕組み	
5	医療通訳における課題と現状	
6	司法通訳と法廷通訳	
7	アクティブラーニング 1	
8	外国につながる子どもたちと教育	

9	行政・自治体における通訳の現状	内藤 稔 (本学)
10	アクティブラーニング 2	
11	ユーザーの立場についての考察	
12	通訳訓練法	
13	グループによる通訳プレゼンテーション①	
14	グループによる通訳プレゼンテーション②	
15	まとめーコミュニティ通訳における専門性	

履修者：38人

■コミュニティ通訳の実践 B

金曜日 2限 204 同時通訳室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	オーラリゼーションとは	
3	日英サイトトランスレーション①	
4	日英サイトトランスレーション②	
5	アクティブラーニング 1	
6	日英逐次通訳①	
7	日英逐次通訳②	
8	英日サイトトランスレーション①	
9	英日サイトトランスレーション②	
10	英日逐次通訳①	
11	英日逐次通訳②	
12	アクティブラーニング 2	
13	ウィスパリング通訳の方略	
14	ウィスパリング通訳の実践	
15	最終課題の発表	

履修者：11人

■コミュニティ通訳 インターンシップ B

金曜日 3限 204 同時通訳室

回	テーマ	講師
1	オリエンテーション	内藤 稔 (本学)
2	インターンシップを再考する	
3	インターンシップ実習①	
4	インターンシップ実習②	
5	アクティブラーニング 1	
6	インターンシップ実習③	
7	インターンシップ実習④	
8	アクティブラーニング 2	
9	インターンシップ実習⑤	
10	インターンシップ実習⑥	
11	インターンシップ実習⑦	
12	インターンシップ実習⑧	
13	インターンシップ実習⑨	
14	最終発表①	
15	最終発表②	

履修者：5人

■コミュニティ通訳研究 2

月曜日 4限 830 教室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	医療通訳の役割	
3	医療通訳の専門性	
4	医療通訳の展望	
5	アクティブラーニング 1	
6	医療通訳の調査	
7	医療通訳の調査の発表	
8	カウンセリング	
9	教育・行政通訳の役割	
10	教育・行政通訳の専門性	
11	教育・行政通訳の展望	
12	アクティブラーニング 2	
13	教育・行政通訳の調査	
14	教育・行政通訳の調査の発表	
15	まとめ	

履修者：10人

■コミュニティ通訳研究卒論演習 2

月曜日 5限 研究室

回	テーマ	講師
1	ガイダンス	内藤 稔 (本学)
2	卒業論文進捗報告とそれに対する指導 1	
3	Part 2 Practical Applications 講読第 1 回	
4	Part 2 Practical Applications 講読第 2 回	
5	Part 2 Practical Applications 講読第 3 回	
6	アクティブラーニング 1	
7	Part 3 Research into Community Interpreting 購読第 1 回	
8	Part 3 Research into Community Interpreting 購読第 2 回	
9	Part 3 Research into Community Interpreting 購読第 3 回	
10	アクティブラーニング 2	
11	卒業論文進捗報告とそれに対する指導 2	
12	卒業論文進捗報告とそれに対する指導 3	
13	卒業論文発表 1	
14	卒業論文発表 2	
15	まとめとカウンセリング	

履修者：6人

VI-3. 履修登録者数

科目名		2011	2012	2013	2014	2015	合計
1 学 期	多言語・多文化社会論 入門Ⅰ	89	222	257			568
	多言語・多文化社会論 入門				330	317	647
	多言語・多文化社会論 実習1	4			9	3	16
	多言語・多文化社会論 実践		4	10			14
	多言語・多文化社会論 歴史と現在	121	159	261	136	120	797
	多言語・多文化社会論 研究				35	42	77
	多言語・多文化社会論 理論と視角		79				79
	多文化社会コーディネーション論				60	61	121
	多文化社会コーディネーション演習				20	13	33
	多文化社会コーディネーション インターンシップ				12	7	19
	卒業論文研究					11	11
	コミュニティ通訳の基礎知識・マナー	125	49				174
	コミュニティ通訳の実践A				14	15	29
	コミュニティ通訳研究1				13	11	24
	コミュニティ通訳 インターンシップA				8	9	17
	コミュニティ通訳研究卒論演習1					8	8
2 学 期	多言語・多文化社会論 入門Ⅱ	50	248	118			416
	多言語・多文化社会論 言語技能入門Ⅱ	93 ※1	53 ※2				146
	多言語・多文化社会論 社会・文化	16					16
	多言語・多文化社会論 政策と法	193	17				210
	多言語・多文化社会論 理論と視角			75	266	124	465
	多言語・多文化社会論 研究B				22	54	76
	多言語・多文化社会実践概論			39			39
	多文化社会コーディネーション概論				17	12	29
	多文化社会コーディネーション演習				10	18	28
	多文化社会コーディネーション インターンシップ				7	9	16
	卒業論文研究					11	11
	コミュニティ通訳概論				30	38	68
	コミュニティ通訳の実践B			3	8	11	22
	コミュニティ通訳研究2				10	10	20
	コミュニティ通訳 インターンシップB				6	5	11
	コミュニティ通訳研究卒論演習2					6	6
合 計		598	778	763	1013	915	4213

※1：8言語で実施
 ※2：7言語で実施

【Ⅶ. 研究】

協働実践型研究プログラム

Ⅶ-1. 研究会構成

多文化社会コーディネーター研究会

	研究テーマ
2011	地域日本語教育をめぐる多文化社会コーディネーターの役割と専門性 —多様な立場のコーディネーター実践から
2012	多文化共生政策の実施者に求められる役割 —多文化社会コーディネーターの必要性とあり方
2013*	多文化社会における専門職の知と専門性評価に関する研究
2014*	
2015*	

*2013-15年度は科学研究費助成事業として実施

コミュニティ通訳研究会

	研究テーマ
2011	「相談通訳」におけるコミュニティ通訳の役割と専門性
2012	
2013	コミュニティ通訳の役割の新たな定義づけおよび通訳者の質の向上に関する知見の共有
2014	
2015	相談通訳における倫理綱領の策定

遠隔通訳研究会 ※関東弁護士会連合会（以下関弁連・注1参照）との協働実践研究

	研究テーマ
2013	法律相談における遠隔通訳と多言語通訳システムの開発に関する実践的研究
2014	

注1：東京高等裁判所管内の13の弁護士会で構成。

基礎研究会

	研究テーマ
2011	多言語・多文化社会専門人材養成における大学の役割
2012	大学における専門職教育および認定制度等のあり方
2013	多文化社会人材養成に関する理解を促進するための教材に関する研究
2014	多言語・多文化総合プログラムの「多言語・多文化社会論（歴史と現在）」における授業内容をまとめた本の出版準備および書籍に掲載予定の座談会の実施
2015	「多文化社会読本—多様な世界、多様な日本」（東京外国語大学出版会）発行

VII-2. 研究活動

		多文化コーディネーター研究会		コミュニティ通訳研究会	基礎研究会
2011	4月				
	5月				
	6月				
	7月	23日/第1回		9日/第1回	9日/第1回
	8月				
	9月	16日/第2回			28日/第2回
	10月			29日/第2回	
	11月	14日/第3回			16日/第3回
	12月	10日/第4回			5日/第4回
	1月				10日/第5回 17日/第6回
2月	27日/第5回		11日/第3回		
2010	4月	9日/第1回			13日/第1回
	5月	21日/第2回		12日/第1回	18日/第2回
	6月			30日/第2回	15日/第3回
	7月	2日/第3回			19日/第4回
	8月				
	9月			1日/第3回	26日/第5回
	10月	1日/第4回			19日/第6回
	11月	19日/第5回		17日/第4回	16日/第7回
	12月				
	1月	21日/第6回			
2月					
3月	23日第7回			14日/第8回	
		多文化社会コーディネーター研究会		コミュニティ通訳研究会	遠隔通訳研究会
		基礎・制度研究会	事例研究会		
2013	4月	22日/準備会			26日/準備会
	5月	13日/第1回 28日/第2回		11日/第1回	
	6月				
	7月	1日/第3回	8日/第1回		
	8月	10日/第4回			30日/第1回
	9月				
	10月	21日/第5回	21日/第2回	12日/第2回	25日/第2回
	11月				
	12月				
	1月	20日/第6回	20日/第3回		
2月				24日/第3回	
3月			15日/第3回		
2014	4月	21日/第1回	21日/第1回		18日/ガイダンス
	5月			31日/第1回	
	6月	24日/第2回	24日/第2回		13日/第1回
	7月				17日/ガイダンス

2014	8月			30日/第2回	
	9月	15日,16日 /第3回	15日,16日 /第3回		
	10月				20日/第2回
	11月				
	12月	14日/第4回	14日/第4回		
	1月				16日/第3回
	2月	23日/第5回	23日/第5回		
	3月			14日/第3回	
		多文化社会コーディネーター研究会			コミュニティ通訳研究会
		制度研究会	事例研究論文 検討会	認定試験試行	
2015	4月			27日/意見交換会 30日/協力者募集開始	
	5月		24日/第1回		
	6月				13日/第1回
	7月			6日/募集締切り 8日/書類審査 27日/論文審査 28日/一次選考結果発表	
	8月				
	9月			28日/プレゼン・面接審査	
	10月	26日/第1回		2日/基準合格者(5名)発表 26日/振り返りの会	
	11月				
	12月		12日/第2回		
	1月				
	2月				
3月			25日/意見交換会		

VII-3. 研究会メンバー

多文化社会コーディネーター研究会

※所属・肩書きは当時のもの

チーフ(研究代表)	杉澤経子(本センタープロジェクトコーディネーター)	
特任研究員	山西優二(早稲田大学文学学術院教授)	
研究 協力者	2011	石川秀樹(清瀬市議会議員) 亀井鈴子(栃木県産業労働観光部国際課交流・協力担当主査) 菊池哲佳(財団法人仙台国際交流協会企画事業課企画係主任) 齊藤由実子(横浜市南区役所戸籍課長)
	2012	高柳香代(財団法人宮崎県国際交流協会) 崔英善(バイリンガル人材ネットワーク代表) 奈良雅美(関西学院大学総合政策学部非常勤講師、社会福祉法人大阪ボランティア協会) 松岡真理恵(公益財団法人浜松国際交流協会多文化共生コーディネーター)

研究 協力者	2013	菊池哲佳（公益財団法人仙台国際交流協会企画事業課企画係主任） 北村祐人（名古屋大学とよた日本語学習支援システムシステムコーディネーター） 小山紳一郎（公益財団法人ラボ国際交流センター常勤理事） 高柳香代（特定非営利活動法人宮崎文化本舗コーディネーター）
	2014	奈良雅美（関西学院大学非常勤講師） 新居みどり（特定非営利活動法人国際活動市民中心コーディネーター） 松岡真理恵（公益財団法人浜松国際交流協会多文化共生コーディネーター） 宮澤千澄（横浜市教育委員会主任指導主事）
	2015	小山紳一郎（《公財》ラボ国際交流センター常勤理事）

コミュニティ通訳研究会

チーフ（研究代表）	内藤 稔（本学大学院総合国際学研究院講師）	
推進会議 メンバー	杉澤経子（本センタープロジェクトコーディネーター）	
コミュニティ通訳 コース修了者	2011	【1期】 浅野良子（英語） 西崎典子（スペイン語） 佐藤エバートン文雄（ポルトガル語） 晏晴 三木紅虹 山浦育子（中国語） 早田恭子（インドネシア語） 鷺頭小弓（ベトナム語） 山本ゆみ（ベンガル語）
	2012	【1期】 浅野良子 宮城京子（英語） 西崎典子（スペイン語） 佐藤エバートン文雄（ポルトガル語） 三木紅虹 山浦育子（中国語） 早田恭子（インドネシア語） 鷺頭小弓（ベトナム語） 山本ゆみ（ベンガル語） 【2期】 大西秀雄 高口真由美 刀美佳 根本芳津恵（英語） 岩田久美 名倉貴之（スペイン語） 江口佳子（ポルトガル語） 河内誠 兒玉富久美（中国語）
	2013	【1期】 浅野良子 下島泰子 宮城京子（英語） 西崎典子（スペイン語） 佐藤エバートン文雄（ポルトガル語） 山浦育子 三木紅虹（中国語） 鷺頭小弓（ベトナム語） 【2期】 大西秀雄 刀 美佳 高口真由美（英語） 岩田久美 名倉貴之（スペイン語） 【3期】 相田純子 泉川知子 ヒョン・ジョンスン 横幕美矢子（英語） 野口京香（スペイン語） 北岡幹子（ロシア語） 境 潤子（中国語）
	2014	【1期】 宮城京子（英語） 佐藤エバートン文雄（ポルトガル語） 山浦育子 三木紅虹（中国語） 鷺頭小弓（ベトナム語） 【2期】 大西秀雄 刀 美佳 高口真由美（英語） 岩田久美 名倉貴之（スペイン語） 【3期】 相田純子 泉川知子 ヒョン・ジョンスン 横幕美矢子（英語） 北岡幹子（ロシア語） 境 潤子（中国語） 【4期】 亀井玲子（スペイン語） 季芳萍（中国語） 李銀淑（朝鮮語）

	2015	<p>【1期】 宮城京子（英語） 佐藤エバートン文雄（ポルトガル語） 山浦育子 三木紅虹（中国語） 鷺頭小弓（ベトナム語）</p> <p>【2期】 高口真由美（英語） 岩田久美 名倉貴之（スペイン語）</p> <p>【3期】 相田純子 泉川知子 ヒョン・ジョンスン 横幕美矢子（英語） 境 潤子（中国語）</p> <p>【4期】 亀井玲子（スペイン語） 李銀淑（朝鮮語）</p>
--	------	---

遠隔通訳研究会

※所属・肩書きは当時のもの

チーフ	杉澤経子（本センタープロジェクトコーディネーター）
推進会議メンバー	青山 亨（本センター長） 内藤 稔（本学大学院総合国際学研究院講師）
コミュニティ通訳 コース修了者	相田純子 高口真由美（英語） 岩田久美 名倉貴之（スペイン語） 山浦育子 三木紅虹（中国語） 佐藤エバートン文雄（ポルトガル語） 原 美雪（インドネシア語） 鷺頭小弓（ベトナム語） 渡辺一弘（ベンガル語） 北岡幹子（ロシア語） 青木隆浩（モンゴル語） モンコンチャイ・アッカラチャイ※2014年のみ（タイ語）
弁護士	指宿昭一（関弁連外国人の人権救済委員会委員長／第二東京弁護士会） 高貝 亮（関弁連外国人の人権救済委員会副委員長／静岡県弁護士会） 関 聡介（東京弁護士会） 高橋ひろみ（第一東京弁護士会） 水内麻起子（埼玉弁護士会） 中村 亮（千葉県弁護士会） 尾家康介（横浜弁護士会） 小嶋一慶※2014年9月まで 辻 智之※2014年10月以降（群馬弁護士会） 中澤浩平（栃木県弁護士会） 伊藤しのぶ（茨城県弁護士会） 清田路子（山梨県弁護士会） 出井博文（長野県弁護士会） 篠田陽一郎※2014年6月まで 上野 祐※2014年7月以降（新潟県弁護士会）

基礎研究会

※所属・肩書きは当時のもの

チーフ	受田宏之（本学大学院総合国際学研究院准教授）※2013年度まで
推進会議メンバー	青山 亨（本センター長） 武田千香（本副センター長） 杉澤経子（本センタープロジェクトコーディネーター） 内藤 稔（本学大学院総合国際学研究院講師） 長谷部美佳（本センター特任講師） 伊東祐郎（留学生日本語教育センター長） 藤井 毅（本学大学院総合国際学研究院教授）

VII-4. 研究成果の発信

多文化社会コーディネーター研究会

1. 「シリーズ 多言語・多文化協働実践研究」の発行
 - ・ vol.15 「地域日本語教育をめぐる多文化社会コーディネーターの役割と専門性—多様な立場のコーディネーター実践から」 (2012年12月1日)
 - ・ vol.17 「多文化共生政策の実施者に求められる役割 —多文化社会コーディネーターの必要性和あり方」 (2013年11月30日)
2. 「多文化社会コーディネーター倫理綱領」の策定 (2015年7月)
3. 科学研究費助成事業(基盤C)研究「多文化社会における専門職の知と専門性評価に関する研究」報告書「多文化社会コーディネーターの専門職の知と専門性評価—認定制度の構築にむけて」発行 (2016年3月22日)

コミュニティ通訳研究会

1. 「シリーズ 多言語・多文化協働実践研究」の発行
 - vol.16 「「相談通訳」におけるコミュニティ通訳の役割と専門性」 (2013年3月20日)
2. 「相談通訳の倫理綱領」の策定 (2015年7月)
3. 研究誌「多言語多文化—実践と研究」vol.7 研究報告掲載
 - ・ 外国人のリーガルアクセスを保障する遠隔通訳のあり方—関東弁護士会連合会と東京外国語大学による協働実践研究を中心に
 - ・ 「相談通訳・倫理綱領」策定に関する協働実践研究 (2015年12月10日)
4. 科学研究費助成事業若手研究(B)「多文化社会に対応した実践型コミュニティ通訳養成教材の研究と開発」相談通訳のニーズ調査及びそれにもとづく多言語教材(英語、中国語、インドネシア語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語)の作成・HPでの公開 (2016年3月)

基礎研究会

1. 「多文化社会読本—多様な世界、多様な日本」(東京外国語大学出版会)発行 (2016年3月)

多文化社会実践研究・全国フォーラム

VII-5. 多文化社会実践研究・全国フォーラム

<2011 年度（第 5 回）>

テーマ：多文化社会に求められる専門人材像—東日本大震災から学ぶ— 会場：東京外国語大学 研究講義棟 参加者数：300 人		
11 月 26 日	基調講演&パネルトーク	基調講演 グローバル化時代の人材育成と多文化社会的想像力 パネルトーク 多文化社会と専門職教育～本学だからこそその専門職教育のあり方を探る
	ランチタイムセッション	発題者/グループ 4 組
	パネルディスカッション I	東日本大震災—その時、現場で何が起こったか～「多文化共生」の行方
	懇親会	
11 月 27 日	パネルディスカッション II	多言語対応の必要性和コミュニティ通訳の役割 ～司法通訳および東日本大震災における翻訳・通訳の実践事例から
	発表セッション	個人発表 11 人・グループ発表 5 組
	パネルディスカッション III	「多様性」への対応 ～「協働」を創り出す人材の必要性和そのあり方

<2012 年度（第 6 回）>

テーマ：社会参加のあり方を問う —言語・文化の差異を超えて— 会場：東京外国語大学 研究講義棟 参加者数：250 人		
12 月 1 日	パネルディスカッション I	何が社会参加を可能にするのか？ 多文化社会と専門職教育～本学だからこそその専門職教育のあり方を探る
	発表セッション	個人発表 10 人、グループ発表 4 組
	パネルディスカッション II	多分野の実践から学ぶ —「場づくり」の観点から—
	懇親会	

<2013 年度（第 7 回）>

テーマ：多文化社会人材の専門職化 —人材養成の取り組みから可能性を探る— 会場：東京外国語大学 研究講義棟 参加者数：200 人		
11 月 30 日	パネルディスカッション I	司法分野における遠隔通訳の実験的取り組みとコミュニティ通訳の役割 —13 の弁護士会との協働研究から
	ランチタイムセッション	遠隔通訳デモンストレーション・意見交換
	発表セッション	個人発表 7 組、グループ発表 1 組
	特定課題セッション	多文化社会における専門人材に関する研究 —養成の取り組みを専門性の観点から分析する ～パネルディスカッション II の議論の理解のために

	パネルディスカッションⅡ	「多文化」をめぐる専門人材の養成と専門職化への可能性 —制度化に向けての論点整理
	懇親会	

<2014 年度（第 8 回）>

テーマ：多様性があたりまえの社会をめざして 会場：東京外国語大学 研究講義棟 参加者数：200人		
12月 13日	基調講演	スペインにおける多文化共生とは
	発表セッション	個人発表 8 組、グループ発表 1 組
	特定課題セッション	コミュニティ通訳研究報告 ・倫理綱領策定に向けて ・遠隔通訳技能と認定制度 多文化社会コーディネーター研究報告 認定制度実施に向けて—専門職の知と専門性評価の方法
	パネルディスカッション	多様性があたりまえとなる社会とは？
	懇親会	

<2015 年度（第 9 回）>

テーマ：これが多文化社会専門人材だ！—国内のグローバル化と大学の役割 会場：東京外国語大学 研究講義棟 参加者数：250人		
12月 12日	基調講演	多文化社会の課題解決に大学はどう貢献できるのか
	発表セッション	個人発表 4 人、グループ発表 3 組
	特定課題セッション	多文化社会専門人材の専門性をどう評価するのか —認定研究の成果と課題 1. コミュニティ通訳研究報告 ・相談通訳の倫理綱領策定の試み ・相談通訳認定試験の試行 2. 多文化社会コーディネーター研究報告 ・多文化社会コーディネーターの倫理綱領 ・多文化社会コーディネーター認定制度の確立に向けて
	パネルディスカッション	外国人受け入れの新たな展開と専門人材養成のあり方
	懇親会	

新進研究者・実践者支援／センターフェロー制度

VII-6. センターフェロー

	氏名	所属	任期
第 7 期	晏 晴		
	江原美恵子	早稲田大学日本語教育研究センターインストラクター、聖学院大学基礎総合学部非常勤講師	
	菊池哲佳	財団法人仙台国際交流協会	
	北村祐人	国立大学法人名古屋大学留学生センター	
	武田里子	放送大学非常勤講師、明星大学非常勤講師	2011年
	田室寿見子	劇団 Sin Titulo 代表、可児市文化創造センター「多文化共生プロジェクト」ディレクター	4月1日 }
	崔 英善	慶應義塾大学SFC研究所上席所員、外国人親たちの学習教室代表	2012年
	奈良雅美	社会福祉法人大阪ボランティア協会	3月31日
	白村直也	東京ビジネス外語カレッジ非常勤講師	
	宮崎妙子	特定非営利活動法人国際活動市民中心、公益財団法人武蔵野市国際交流協会	
	吉田聖子	あけぼの会日本語教室常勤ボランティア	
	柳 蓮淑	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院、法政大学非常勤講師	
第 8 期	石川秀樹	清瀬市議会議員／清瀬国際交流会	
	亀井鈴子	栃木県産業労働観光部国際課	
	菊池哲佳	財団法人仙台国際交流協会	
	倉八順子	和洋女子大学非常勤講師／たちかわ多文化共生センター理事	
	齊藤由実子	横浜市南区役所戸籍課	
	高柳香代	公益財団法人宮崎県国際交流協会	2012年
	田室寿見子	劇団 Sin Titulo 代表、可児市文化創造センター「多文化共生プロジェクト」ディレクター	4月1日 }
	崔 英善	外国人親たちの学習教室代表	2013年
	曹 慶鎬	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了	3月31日
	奈良雅美	関西学院大学総合政策学部／認定NPO法人市民活動センター神戸	
	白村直也	中部学院大学非常勤講師 他	
	日置陽子	愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター助教	
松岡真理恵	公益財団法人浜松国際交流協会		

※所属先は委嘱時のもの

※2013年度以降募集中止

研究成果の発信／研究誌「多言語多文化—実践と研究」

VII-7. 研究誌『多言語多文化—実践と研究』

<投稿状況>

号	投稿論文数	受理論文数	査読者数 (延べ)	査読(1回目) 合格論文数	再投稿論文数	掲載論文数	刊行日
4	21	21	22	5	4	9 (実践型 4、研究 5)	2012 年 12 月 1 日
5	13	13	10	6	4	5 (実践型 3、研究 2)	2013 年 11 月 30 日
6	15	13	9	4	2	2 (実践型 1、研究 1)	2014 年 12 月 10 日
7	13	13	18	2	4	8 (実践型 4、研究論文 1、 研究ノート 1、研究報告 2)	2015 年 12 月 10 日

<内容>

4 号	<p>【実践型研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「移住者と貧困」をめぐるアドボカシー—移住連貧困プロジェクトの取り組みから— (大曲由起子・高谷 幸・樋口直人・鍛冶 致・稲葉奈々子) ・地域日本語教育におけるシステム・コーディネーターの役割 —とよた日本語学習支援システムでの事例を参考に— (北村祐人) ・地域日本語教育分野における多文化社会コーディネーターのあり方 —仙台市における「外国につながる子ども」の支援をめぐる— (菊池哲佳) ・日本語コースから始まった被災地支援活動—地域日本語教室の社会参加への試み— (宮崎妙子) <p>【研究ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェルノブイリ原発事故後の民間医療支援活動をめぐって —支援ニーズ把握のための情報収集と支援のあり方を中心に— (白村直也) <p>【研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立小学校における母語教室の存在意義に関する研究—神戸市ベトナム語母語教室の事例から— (落合知子) ・言語少数派の母親の教育参加における領域の拡大—日本人支援者との協働の下で— (小田珠生) ・国際教室における担当教員の意識変容 —「生徒の母語を用いた授業」に対する PAC 分析調査から— (高梨宏子) ・持続可能な多言語多文化共生社会を築く「共生日本語教育」の可能性 —日本語母語話者と日本語非母語話者の言語的共生化の過程に着目して— (半原芳子・佐藤真紀・三輪 充子)
--------	--

5 号	<p>【実践型研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間支援組織としてのAIAの役割と事業について —国際交流協会職員及び行政職員としての二つの視点から— (佐々木留美) ・授業の成立が困難な学校で多文化共生を語る—ゲストティーチャーとしての関わりから— (孫 美幸) ・私立高等学校における多言語多文化共生教育への挑戦 —明德義塾高等学校における事例を通してコーディネーターの役割を探る (和田利一) <p>【研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導が必要な外国人生徒を対象とした「取り出し指導」をめぐる同僚性と専門性 —一定時制高校の非常勤講師に焦点を当てて— (高松美紀) ・在日朝鮮人のエスニック・アイデンティティの多様性に関する調査研究 —日本学校在學生と朝鮮学校在學生の比較を中心に— (曹 慶鎬)
6 号	<p>【実践型研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域国際化交流協会における日本語研修実施の社会的意義とコーディネーターの役割 (黒田 類) <p>【研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複言語サポーターはどのように複数の言語を使用しているのか —語りからみえてくるもの— (徳井 厚子) <p>* 【講演録】 研究フォーラム「シリーズ多文化社会で働くということ」(7月25日開催) <講演会> 難民支援最前線 —日本の場合— (石川美絵子)</p>
7 号	<p>【実践型研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前子育ての場における多文化社会コーディネーターの必要性と役割 (安藤陽子) ・「参加」者から「創造」者へ—外国人住民の社会参画を促すためのコーディネーターの役割 (猪狩英美) ・多言語情報提供における多文化社会コーディネーターの必要性 —多言語防災ビデオ制作の省察から (菊池哲佳) ・ボランティア研修の実践からみる日本語教育コーディネーターの役割 —「聴くこと」でつなぐ2つのことばの教育 (萬浪絵理) <p>【研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多文化社会型居場所感尺度」の開発と活用 —多文化共生を目的とする地域日本語教室の活動改善に向けて (石塚昌保、杉澤経子、阿部 裕、山西優二、河北祐子、山辺真理子) <p>【研究ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューカマー外国人の子どもたちをめぐる環境の変遷—経済危機後の変動期に焦点化して (山野上麻衣) <p>【協働実践型研究報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人のリーガルアクセスを保障する遠隔通訳のあり方 —関東弁護士会連合会と東京外国語大学による協働実践研究を中心に (杉澤経子、指宿昭一) ・「相談通訳・倫理綱領」策定に関する協働実践研究 (内藤 稔、杉澤経子、岩田久美、三木紅虹、亀井玲子、宮城京子、名倉 貴之)

学内連携の推進

VII-8. 研究フォーラム 「シリーズ 多文化社会で働くということ」

対象：本学学生・教職員・一般

定員：30名程度

共催：東京外国語大学 総合文化研究所

内 容	日時	: 2014年7月25日(金) 16:00-17:30
	会場	: 研究講義棟 422 教室
	タイトル	: 難民支援最前線—日本の場合
	講演者	: 石川 美絵子 ((社福) 日本国際社会事業団 難民担当ワーカー/ (特活) なんみんフォーラム事務局)
	参加人数	: 21名

【Ⅷ. 社会連携】

多言語・多文化社会専門人材養成講座

Ⅷ-1. 講座概要

<多文化社会コーディネーターコース>

場所	東京外国語大学 府中キャンパス
日程	【共通必修科目】 4日間 ※2 コース合同で実施 【専門別科目】 秋期：3日間 個別実践研究： 10月～翌年1月 冬期： 2日間
対象者	行政、国際交流協会、公益団体、企業、地域日本語教室等、多言語・多文化に関する業務や活動を行っている組織の中堅スタッフの方
定員	10名
受講料	35,000円

<コミュニティ通訳コース>

場所	東京外国語大学 府中キャンパス
日程	【共通必修科目】 4日間 ※2 コース合同で実施 【専門別科目】 秋期：3日間
対象者	外国語の語学力があり、自治体、学校、国際交流協会、NPOなどの外国語相談や通訳など、現場の実戦経験（ボランティアも可）がある方
定員	20名
受講料	25,000円

<多文化社会論基礎>

場所	東京外国語大学 府中キャンパス
日程	【基礎科目】 4日間 ※2014年度は多文化社会コーディネーターコースと合同で実施
対象者	多文化に関する業務や活動を行っている方
定員	20名（2014年度）、40名（2015年度）
受講料	20,000円

VIII-2. 応募状況

<多文化社会コーディネーターコース>

(単位：人)

	2011	2012	2013	2014	2015	計
定員	10	10	10	10	開講なし	—
応募者数	18	20	22	14		74
合格者数	10	12	11	10		43
受講者数	10	12	11	10		43
修了者数	10	12	11	10		43

<コミュニティ通訳コース>

(単位：人)

	2011	2012	2013	2014	2015	計
定員	20	20	20	開講なし		—
応募者数	16	22	21			59
合格者数	15	18	14			47
受講者数	15	18	14			47
修了者数	15	18	13			46

<多文化社会論基礎>

(単位：人)

	2011	2012	2013	2014	2015	計
定員	開講なし			20	40	—
応募者数				46	63	109
合格者数				25	45	70
受講者数				25	43	68
修了者数				25	41	66

Ⅷ-3. 講座日程・時間割

■2011年度

<共通必修科目> 2011年8月26日(金)～29日(月)

8月	9:00-10:40	11:00-12:40	13:40-15:20	15:40-17:30
26日 (金)	(10:00-12:00) ・開講あいさつ 武田千香 ・オリエンテーション ・多言語・多文化社会における 専門人材とは 杉澤経子	(13:00-14:40) 言語と文化1 多文化社会における文化とは 栗田博之	(15:00-) ワークショップ1 応募時の小論文をベースに 自己紹介 振り返り	
27日 (土)	言語と文化2 多文化社会における 宗教とは 青山亨	言語と文化3 多文化社会における 言語とは 藤井毅	多言語・ 多文化社会論1 多文化社会と 国際理解教育 山西優二	ワークショップ2 実践を語り聴く 三輪建二
28日 (日)	多言語・ 多文化社会論2 異文化ストレスと日本の 医療システム 阿部裕	多言語・ 多文化社会論3 韓国から見た日本の多文化 共生政策 宣元錫	多言語・多文化社会 実践論1 在留資格制度とその実務 近江愛子	ワークショップ3 レポートの書き方 青山亨 振り返り
29日 (月)	言語と文化4 日本語教育と年少者教育 小林幸江	多言語・多文化社会 実践論2 福祉・ソーシャルワーク 妻鹿ふみ子	多言語・多文化社会 実践論3 ボランティア・協働・ ネットワーク 後藤麻里子	全体振り返りと まとめ 杉澤経子

<専門別科目>

多文化社会コーディネーターコース

秋期 2011年9月23日(金・祝)～25日(日)

9月	10:00	10:30	15:30	16:00-17:00	-17:30
23日 (金・祝)	オリエンテ ーション	プレゼンテーション (レポート発表を中心に) 【15分発表+10分質疑】		講評・論文の 書き方 青山亨	振り 返し
24日 (土)	9:00-12:00		13:00-14:00	-17:00	-17:30
	コーディネーター論 基礎的実践・中核的実践		震災時の コーディネーション 菊池哲佳	ワークショップ 協働の事業づくり～シミュレーション	振り 返し
25日 (日)	9:00-11:40		12:40-16:00		16:15-17:30
	アクションプランづくり		アクションプラン発表 個別実践研究に向けて【発表5分・質疑応答10分】		全体 振り返り

冬期 2012年2月19日(日)・20日(月)

2月	10:00-	10:10	16:40	17:00-	
19日 (土)	オリエ ンテ ーション	プレゼンテーション (小論文の発表を中心に)		振り 返し	
20日 (日)	9:00-		13:00	14:00-15:40	16:00-
	プレゼンテーション (小論文の発表を中心に)		コーディネーター論 まとめ 杉澤経子	全体講評 藤井毅	全体振り返り 杉澤経子 修了証授与 武田千香

コミュニティ通訳コース

2011年10月8日(土)～10日(月・祝)

10月	9:00-10:30	10:50-12:20	13:10-14:40	15:00-16:30	-17:30
8日(土)	10:00 オリエンテーション	災害時における多言語情報とコミュニティ通訳・翻訳の必要性 須藤伸子	コミュニティ通訳概論 内藤稔	課題・レポート講評 鶴田知佳子 内藤稔	振り返り
9日(日)	通訳概論 鶴田知佳子	基礎知識①医療分野 押味貴之	通訳のマナーと通訳技法の基礎 内藤稔		
10日(月・祝)	基礎知識② 行政・教育分野 山野上麻衣	基礎知識③ 司法分野 依田公一	演習 (ロールプレイング・ピアレビュー他) 内藤稔	15:00～ 振り返り	16:00～到達度チェック 17:00～講評・まとめ 修了証授与 武田千香

■2012年度

<共通必修科目> 2012年8月24日(金)～27日(月)

8月	9:00-10:40	11:00-12:40	13:40-15:20	15:40-17:30
26日(金)	(10:00-12:00) ・開講あいさつ 青山 亨 ・オリエンテーション ・多言語・多文化社会における 専門人材とは 杉澤経子	(13:00-14:40) 言語と文化1 多文化社会における文化とは 栗田博之	(15:00-) ワークショップ1 応募時の小論文をベース に自己紹介 振り返り	
27日(土)	言語と文化2 多文化社会における 言語とは 藤井 毅	多言語・多文化社会論1 国・自治体における 外国人の社会統合政策 渡戸一郎	多言語・多文化社会実践論1 在留資格制度とその実務 近江愛子	ワークショップ2 実践を語り聴く 三輪建二
28日(日)	言語と文化3 多文化社会における 宗教とは 青山 亨	多言語・多文化社会論2 異文化ストレスと 日本の医療システム 阿部 裕	多言語・多文化社会論3 国際理解教育と 地域日本語教育 杉澤経子	ワークショップ3 レポートの書き方 長谷部美佳 振り返り
29日(月)	言語と文化4 日本語教育と 年少者教育 小林幸江	多言語・多文化社会実践論2 福祉・ソーシャルワーク 妻鹿ふみ子	多言語・多文化社会実践論3 ボランティア・協働・ ネットワーク 後藤麻理子	全体振り返りと まとめ 杉澤経子

<専門別科目>

多文化社会コーディネーターコース

秋期 2012年9月15日(土)～17日(月・祝)

9月	10:00	10:30	16:30	16:40-17:00	-17:30
15日(土)	オリエンテーション	プレゼンテーション (レポート発表を中心に)		講評 青山 亨・杉澤経子 長谷部美佳	振り返り
16日(日)	9:00-12:30 コーディネーター論 基礎的実践・中核的実践 杉澤経子・北村祐人	13:30-17:00 ワークショップ 協働の事業づくり～シミュレーション 杉澤経子			振り返り
17日(月・祝)	9:00-11:40 アクションプランづくり 杉澤経子	12:40-15:30 アクションプラン発表 個別実践研究に向けて	16:15-17:30 論文の書き方 長谷部美佳		全体振り返り 杉澤経子

冬期 2013年2月23日(土)・24日(日)

2月	10:00-	10:10-	16:40	17:00-
23日(土)	オリエンテーション	プレゼンテーション(小論文の発表を中心に)		振り返り
24日(日)	9:00- プレゼンテーション (小論文の発表を中心に) プレゼンの振り返り	13:50 全体講評 青山 亨 長谷部美佳	14:40-15:40 コーディネーター論 まとめ 杉澤経子	15:50- 全体振り返り 杉澤経子 修了証授与 武田千香

コミュニティ通訳コース

2012年9月21日(金)～23日(日)

9月	9:00-10:30	10:50-12:20	13:10-14:40	15:00-16:00	-17:30
21日(金)	10:00 オリエンテーション	コミュニティ通訳概論 内藤 稔	通訳概論 鶴田知佳子	課題・レポート講評 鶴田知佳子 内藤 稔	専門家相談 基礎知識 杉澤経子
22日(土)	基礎知識① 行政・教育分野 山野上麻衣	基礎知識② 司法分野 金 秀玄	コミュニティ通訳 活動の実際 大西秀雄・山浦育子	通訳のマナーと通訳技法の基礎 内藤稔	
23日(日)	基礎知識③ 医療分野 押味貴之	コミュニティ通訳演習 (ロールプレイング・ピアレビュー など) 内藤 稔ピアレビュー(他) 内藤稔		15:00～ 振り返り 杉澤経子	16:00～到達度チェック 17:00～ 講評・まとめ 修了証授与 武田千香

■2013年度

<共通必修科目> 2013年8月23日(金)～26日(月)

8月	9:00-10:40	11:00-12:40	13:40-15:20	15:40-17:30
23日(金)	(10:00-12:00) ・開講あいさつ 青山 亨 ・オリエンテーション ・多言語・多文化社会における 専門人材とは 杉澤経子	(13:00-14:40) 言語と文化1 多文化社会における文化とは 栗田博之	(15:00-) ワークショップ1 応募時の小論文をベースに 自己紹介 振り返り	
24日(土)	言語と文化2 多文化社会における 言語とは 藤井 毅	言語と文化3 日本語教育と年少者教育 小林幸江	多言語・多文化社会実践論1 在留資格制度とその実務 近江愛子	ワークショップ2 実践を語り聴く 三輪建二
25日(日)	言語と文化4 多文化社会における 宗教とは 青山 亨	多言語・多文化社会論1 異文化ストレスと 日本の医療システム 村内重夫	多言語・多文化社会実践論2 福祉・ソーシャルワーク 妻鹿ふみ子	ワークショップ3 レポートの書き方 長谷部美佳 振り返り
26日(月)	多言語・多文化社会論2 国・自治体における外国 人住民との共生政策 植村 哲	多言語・多文化社会論3 国際理解教育と 地域日本語教育 杉澤経子	多言語・多文化社会実践論3 ボランティア・協働・ ネットワーク 後藤麻理子	全体振り返りとまとめ 杉澤経子

<専門別科目>

多文化社会コーディネーターコース

秋期 2013年9月21日(土)～23日(月・祝)

9月	10:00	10:30	15:50	16:00-16:20	-17:30
21日(土)	オリエンテーション	プレゼンテーション (レポート発表を中心に)		講評 青山 亨 長谷部美佳	振り返り
22日(日)	9:00-12:30 コーディネーター論 基礎的实践・中核的实践 杉澤経子		13:30-17:00 ワークショップ 協働の事業づくり～シミュレーション 杉澤経子		振り返り
	9:00-11:40 アクションプランづくり 杉澤経子		12:40-15:30 アクションプラン発表 個別実践研究に向けて	15:45-16:30 論文の書き方 長谷部美佳	全体振り返り 杉澤経子
23日(月・祝)	9:00-11:40 アクションプランづくり 杉澤経子		12:40-15:30 アクションプラン発表 個別実践研究に向けて	15:45-16:30 論文の書き方 長谷部美佳	全体振り返り 杉澤経子

冬期 2014年2月22日(土)・23日(日)

2月		10:00-	10:10-		16:40	17:00-
22日 (土)		オリエンテーション	プレゼンテーション (小論文の発表を中心に)			振り返り
23日 (日)	9:00-12:10		13:10-13:40	13:40-14:00	14:20-15:50	16:00-
	プレゼンテーション (小論文の発表を中心に)		プレゼンの 振り返り	講評 長谷部美佳 杉澤経子	コーディネーター論 まとめ 杉澤経子	全体振り返り 杉澤経子 修了証授与 佐野 洋

コミュニティ通訳コース

2013年9月27日(金)～29日(日)

9月	9:00-10:30	10:50-12:20	13:10-14:40	15:00-16:30	-17:30
27日 (金)	10:00 オリエンテーション	通訳概論 鶴田知佳子	課題・レポート講評 鶴田知佳子 内藤 稔	コミュニティ通訳 概論 内藤 稔	専門家相談 基礎知識 杉澤経子
28日 (土)	基礎知識① 行政・教育分野 山野上麻衣	基礎知識② 司法分野 指宿昭一	コミュニティ通訳活動の 実際 岩田久美・高口真由美	コミュニティ翻訳、 通訳のマナーと通訳技法の基礎 内藤 稔	
29日 (日)	基礎知識③ 医療分野 押味貴之	コミュニティ通訳演習 (ロールプレイング・ピアレビュー など) 内藤 稔		15:00～ 振り返り 杉澤経子	16:00～到達度チェック 17:00～講評・まとめ 修了証授与 佐野 洋

■2014年度

<基礎科目> 2014年8月7日(木)～10日(日)

8月	9:00-10:40	11:00-12:40	13:40-15:20	15:40-17:30	
7日 (金)	(10:00-) ・開講あいさつ青山 亨 ・オリエンテーション ・多言語・多文化社会における専門人材とは ・自己紹介 杉澤経子	(12:40-14:20) 言語と文化1 多文化社会における文化とは 栗田博之	(14:40-) ワークショップ1 異文化理解とは 杉澤経子		
8日 (土)	言語と文化2 多文化社会における 言語とは 藤井 毅	多言語・多文化社会論1 国・自治体における 外国人住民との共生政策 植村 哲	多言語・多文化社会 実践論1 在留管理制度と 外国人の人権 指宿昭一	ワークショップ2 実践を語り聴く 杉澤経子	
9日 (日)	言語と文化3 多文化社会における 宗教とは 青山 亨	多言語・多文化社会論2 地域日本語教育 伊東祐郎	多言語・多文化社会 実践論2 福祉・ソーシャルワーク 妻鹿ふみ子	レポートの 書き方 長谷部美佳	ワーク ショップ3 振り返り
10日 (月)	言語と文化4 外国につながる 子どもの教育 小林幸江	多言語・多文化社会論3 異文化ストレスと 日本の医療システム 村内重夫	多言語・多文化社会 実践論3 ボランティア・協働・ ネットワーク 後藤麻理子	ワークショップ4 全体振り返りとまとめ 杉澤経子	

<専門科目>

多文化社会コーディネーター養成講座

秋期 2014年9月26日(金)～28日(日)

9月		10:00	10:10	15:50	16:00-17:00	-17:30
26日(金)		オリエンテーション	プレゼンテーション (レポート発表を中心に)		講評・補足説明 青山 亨 長谷部美佳	振り返り
27日(土)	9:00-12:30		13:30-17:00			-17:30
	コーディネーター論 基礎的实践・中核的实践 杉澤経子		ワークショップ 協働の事業づくり～シミュレーション 杉澤経子			振り返り
28日(日)	9:00-11:40		12:40-15:30	15:45-16:30		-17:30
	アクションプランづくり 杉澤経子		アクションプラン発表 個別実践研究に向けて	実践研究論文の 書き方 杉澤経子	全体振り返り	

冬期 2014年2月21日(土)・22日(日)

2月		10:00-		16:20	-17:30	
21日(土)		オリエンテーション	プレゼンテーション (小論文の発表を中心に)			振り返り
22日(日)	9:00-12:30		13:30-14:20	14:30-15:50	16:00-17:30	
	プレゼンテーション (小論文の発表を中心に)		講評 青山 亨・杉澤経子 長谷部美佳	コーディネーター論 まとめ 杉澤経子	全体振り返り 杉澤経子 修了証授与 佐野 洋	

■2015年度

<多文化社会論基礎> 2015年7月23日(木)～26日(日)

7月	9:00-10:40	11:00-12:40	13:40-15:20	15:40-17:30
23日(木)	(10:00-) ・開講あいさつ青山 亨 ・オリエンテーション ・多文化社会専門人材論1 多文化社会における専門人材とは 青山 亨	(12:40-14:20) 言語と文化1 多文化社会における文化とは 栗田博之	(14:40-) 多文化社会専門人材論2 異文化理解とは 自己紹介 ほか	
24日(金)	言語と文化2 多文化社会における 言語とは 藤井 毅	多言語・多文化社会論1 国・自治体における 外国人住民との共生政策 植村 哲	多言語・多文化社会 実践論1 在留管理制度と外国人の 人権 駒井知会	多文化社会専門人材論3 コミュニティ通訳とは 振り返り 内藤 稔
25日(土)	言語と文化3 多文化社会における 宗教とは 青山 亨	多言語・多文化社会論2 地域日本語教育 伊東祐郎	多言語・多文化社会 実践論2 ボランティア・協働・ ネットワーク 後藤麻理子	多文化社会専門人材論4 多文化社会コーディネーターとは 振り返り 杉澤経子
26日(日)	言語と文化4 外国につながる 子どもの教育 小林幸江	多言語・多文化社会論3 異文化ストレスと 日本の医療システム 村内重夫	多言語・多文化社会 実践論3 福祉・ソーシャルワーク 高田友佳子	多文化社会専門人材論5 まとめ・全体振り返り 杉澤経子 修了証授与

VIII-4. 運営

専門人材養成会議開催状況

	実施日		実施日
2011	※2011年 7月 18日	2014	2014年 4月 1日
	10月 17日		6月 18日
	2012年 2月 9日		※ 7月 2日
	3月 9日		9月 11日
2012	7月 5日	2015	2015年 6月 2日
	※7月 19日		※ 6月 12日
	10月 3日		※は選考会議
	2013年 3月 6日		
2013	7月 3日		
	※7月 18日		
	10月 9日		

VIII-5. 受講者

多文化社会コーディネーターコース

(単位：人)

		2011	2012	2013	2014	計
属性	自治体	4	2	1	1	8
	国際交流協会	1	5	5	4	15
	学校教育	1	3		1	5
	大学	1	2	3	1	7
	NPO/NGO	1		1	3	5
	その他	2		1		3
	計	10	12	11	10	43

*属性は受講当時のもの

コミュニティ通訳コース

(単位：人)

		2011	2012	2013	計
属性	自治体	2	2		4
	国際交流協会	3	1	7	11
	学校教育		4	2	6
	大学	1	1	2	4
	NPO/NGO	2	2	1	5
	企業	2	2		4
	フリーランス通訳・翻訳	3			3
	その他	2	6	2	10
	計	15	18	14	47

*属性は受講当時のもの

		2011	2012	2013	計
言語	英語	6	7	5	18
	スペイン語	2	3	2	7
	ポルトガル語	2	2	1	5
	ロシア語		1		1
	モンゴル語		2		2
	中国語	3	2	2	7
	朝鮮語	1		3	4
	インドネシア語		1		1
	ベトナム語	1			1
	ベンガル語			1	1
	計	15	18	14	47

多文化社会論基礎講座

(単位：人)

		2014	2015	計
属性	自治体	7	10	17
	国際交流協会	6	11	17
	学校教育	4	5	9
	大学	3	6	9
	NPO/NGO	1		1
	国・外郭団体	2	6	8
	ボランティア	1	3	4
	その他	1	2	3
	計	25	43	68

*属性は受講当時のもの

コミュニティ通訳活動

Ⅷ-6. 活動実績 (2016年1月31日現在)

依頼件数と参加人数

		2010	2011	2012	2013	2014	2015	総計
通訳	件数	16	33	53	106	127	110	445件
	人数	24	40	88	109	123	107	491人
翻訳	件数	1	12	12	23	40	31	119件
	人数	1	16	33	27	54	43	174人
計	件数	17	45	65	129	167	141	564件
	人数	25	56	121	136	177	150	665人

依頼者内訳

1. 通訳

(単位：件)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	計
弁護士会	16	33	51	106	126	103	435
行政	—	—	1	—	—	1	2
児童相談所	—	—	—	—	—	2	2
精神医療	—	—	—	—	1	2	3
NPO	—	—	1	—	—	1	2
国の機関	—	—	—	—	—	1	1
計	16	33	53	106	127	110	445

2. 翻訳

(単位：件)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	計
弁護士会	1	11	11	23	40	31	117
行政	—	1	—	—	—	—	1
本学	—	—	1	—	—	—	1
計	1	12	12	23	40	31	119

言語別参加人数

1. 通訳

(単位：人、延べ)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	総計
英語	2	8	14	27	45	17	113
イタリア語	0	0	0	0	1	1	2
スペイン語	2	3	11	19	18	15	68
ポルトガル語	4	1	4	1	2	2	14

ロシア語	0	0	1	1	1	2	5
モンゴル語	0	1	4	1	0	0	6
中国語	9	21	37	39	40	51	197
朝鮮語	0	0	7	5	4	4	20
インドネシア語	2	0	1	1	2	1	7
フィリピン語	1	0	2	2	4	5	14
タイ語	0	1	5	2	3	1	12
ベトナム語	1	0	4	3	1	4	13
ベンガル語	2	3	4	4	1	1	15
ネパール語*	1	0	0	0	1	1	3
ヒンディ語*	1	0	0	0	0	0	1
ペルシア語*	0	1	0	1	1	1	4
タミル語*	0	1	0	0	0	0	1
トルコ語*	0	0	0	2	2	0	4
ルーマニア語*	0	0	0	0	0	1	1
計	25	40	94	108	126	107	500人

複数言語担当者あり
*本学関係者が担当

2. 翻訳

(単位：人、延べ)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	総計
英語	0	3	2	10	31	16	62
フランス語	0	0	1	0	0	1	2
イタリア語	0	0	0	0	1	1	2
スペイン語	1	2	5	8	3	9	28
ポルトガル語	0	2	6	1	2	1	12
ロシア語	0	0	1	0	1	1	3
モンゴル語	0	0	3	0	0	0	3
中国語	0	5	2	4	4	3	18
朝鮮語	0	1	3	1	1	3	9
インドネシア語	0	0	2	0	1	1	4
フィリピン語	0	0	0	0	2	1	3
タイ語	0	2	3	0	2	2	9
ベトナム語	0	0	3	1	2	1	7
ベンガル語	0	1	2	2	1	2	8
トルコ語	0	0	0	0	1	0	1
ペルシア語*	0	0	0	0	1	1	2
ネパール語*	0	0	0	0	0	0	0
ルーマニア語*	0	0	0	0	1	0	1
計	1	16	33	27	54	43	174人

複数言語担当者あり
*本学関係者が担当

VIII-7. 登録者数 (2016年1月31日現在)

登録者総数： 13言語 80人 (コミュニティ通訳コース修了者 64人、言語ボランティア有志 16人)

言語内訳：

英語	26	ロシア語	2	韓国・朝鮮語	4	ベトナム語	2
イタリア語	1	モンゴル語	3	インドネシア語	2	ベンガル語	2
スペイン語	11	中国語	15	フィリピン語	1		
ポルトガル語	11	※台湾語含む		タイ語	3	合計(延べ)	83人

VIII-8. 研修会の実施

※対象：コミュニティ通訳登録者、言語ボランティア登録者、外国人支援ネットワーク加盟団体登録者

実施日時	場所	内容	参加人数
※ 2012年 2月24日(土)	本郷サテライト セミナールーム	在留管理制度に関する研修会 講師：福本卓也氏(東京入国管理局総務課広報担当係長) 面本修作氏(東京入国管理局総務課入国警備専門官)	20
※ 2012年 12月16日 (日)	本郷サテライト セミナールーム	児童相談所・一時預り所におけるコミュニティ通訳に求められる役割・知識・技能 講師：木全玲子氏(東京都児童相談センター保護第一課長)	25
2013年 10月25日 (金)	東京都児童相談セン ター7階中会議室	児童相談における頻出用語の内容説明および施設見学 講師：木全玲子氏(東京都児童相談センター保護第一課長)	24

*所属・肩書きは実施当時のもの

言語ボランティア活動

Ⅷ-9. リレー専門家相談会 参加実績

参加人数：延べ 154 人

言語数：16 言語

年度	実施日	主催団体	参加人数	言語
2011	6月19日(日)	文京多言語サポートネットワーク	4	スペイン語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語
	9月10日(土)	(財)板橋区文化・国際交流財団	3	英語、タイ語
	9月11日(日)	東村山地球市民クラブ	3	スペイン語、中国語
	10月2日(日)	国分寺市国際協会	2	中国語、タイ語
	10月22日(土)	関東弁護士会連合会	12	英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、台湾語、タイ語、ベンガル語
	11月6日(日)	荒川区国際交流協会	4	フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、タイ語
	11月27日(日)	調布市国際交流協会	2	スペイン語、タイ語
	2012年 3月17日(土)	墨田区区民活動推進部文化振興課 文化・国際担当／墨田区国際化推進クラブ	2	フランス語、タイ語
2012	6月16日(土)	(公財)板橋区文化・国際交流財団	1	英語
	6月30日(土)	文京多言語サポートネットワーク	2	スペイン語、タイ語
	9月9日(日)	東村山地球市民クラブ	5	英語、スペイン語、中国語
	9月23日(日)	NPO COMPASS／荒川区国際交流協会	3	朝鮮語、タイ語、ベトナム語
	10月14日(日)	国分寺市国際協会	1	タイ語
	10月27日(土)	関東弁護士会連合会	9	英語、スペイン語、ロシア語、中国語(台湾語)、朝鮮語、タイ語
	11月25日(日)	調布市国際交流協会	4	英語、中国語(台湾語)、タイ語
	2013年 2月24日(日)	(公財)品川区国際友好協会／(特活)国際活動市民中心(CINGA)	15	英語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、タイ語、ベトナム語、トルコ語、ベンガル語
2013	9月22日(日)	東村山地球市民クラブ	5	英語、ドイツ語、中国語、スペイン語、インドネシア語
	10月5日(土)	関東弁護士会連合会	9	英語、ドイツ語、スペイン語、中国語(台湾語)、トルコ語、ベトナム語、タイ語
	10月20日(日)	国分寺市国際協会	1	タイ語
	10月26日(土)	(公財)品川区国際友好協／(特活)国際活動市民中心(CINGA)	8	英語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語
	2014年 2月16日(日)	(特活)国際活動市民中心(CINGA)	1	フィリピン語
	3月2日(日)	調布市国際交流協会	2	中国語(台湾語)、スペイン語
2014	4月20日(日)	(特活)国際活動市民中心(CINGA)	1	朝鮮語
	6月7日(土)	墨田区区民活動推進部文化振興課・墨田区国際化推進クラブ	1	中国語

年度	実施日	主催団体	参加人数	言語
2014	9月28日(日)	東村山地球市民クラブ／東村山市	4	英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語
	10月4日(土)	関東弁護士会連合会	10	英語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ベトナム語、トルコ語
	12月7日(日)	調布市国際交流協会／調布市	1	スペイン語
	12月21日(日)	(特活)国際活動市民中心(CINGA)	1	朝鮮語
	2015年 3月8日(日)	(公財)品川区国際友好協会	12	英語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、フィリピン語、ベトナム語
2015	4月12日(日)	NPO法人国際活動市民中心	1	ロシア語
	6月6日(土)	墨田区、墨田区国際化推進クラブ	1	フィリピン語
	6月7日(日)	東村山地球市民クラブ	6	英語、スペイン語、タガログ語、中国語
	10月3日(土)	関東弁護士会連合会・東京三弁護士会	8	英語、イタリア語、スペイン語、タガログ語、中国語
	11月15日(日)	NPO法人国際活動市民中心	1	タイ語
	12月13日(日)	品川区国際友好協会	9	英語、スペイン語、中国語、フランス語、ベトナム語

VIII-10. 翻訳協力

実施日	言語	内容	参加人数
2015年1月	トルコ語	市立病院に掲示するポスターの翻訳チェック	1

VIII-11. 研修会の実施

※対象：コミュニティ通訳登録者、言語ボランティア登録者、外国人支援ネットワーク加盟団体登録者

実施日時	場所	内容	参加人数
2012年 2月24日 (土)	本郷サテライト セミナールーム	在留管理制度に関する研修会 講師：福本卓也氏(東京入国管理局総務課広報担当係長) 面本修作氏(東京入国管理局総務課入国警備専門官)	20
2012年 12月16日 (日)	本郷サテライト セミナールーム	児童相談所・一時預り所におけるコミュニティ通訳に求められる役割・知識・技能 講師：木全玲子氏(東京都児童相談センター保護第一課長)	25
2014年 5月24日 (土) 10:30-16:30	本郷サテライト 3階セミナー室	コミュニティ通訳の役割と専門家相談基礎知識 講師：杉澤経子(本センタープロジェクトコーディネーター) コミュニティ通訳に求められる通訳技法の基礎 講師：内藤 稔(本学大学院総合国際学研究院講師)	17

*所属・肩書きは実施当時のもの

VIII-12. 登録者 (2016年1月31日現在)

登録者総数： 24言語 183人

<言語別>

(単位：人)

	言語	2011	2012	2013	2014	2015
1	英語	44	48	50	55	59
2	ドイツ語	8	8	9	10	10
3	フランス語	8	8	8	9	10
4	イタリア語	2	2	2	3	3
5	スペイン語	19	20	21	22	25
6	ポルトガル語	10	11	12	12	12
7	ロシア語	2	3	3	3	4
8	チェコ語	1	0	0	0	0
9	中国語	26	30	31	31	33
10	朝鮮語	9	9	10	11	11
11	モンゴル語	2	2	2	3	3
12	インドネシア語	9	9	9	9	9
13	マレー語	3	3	3	3	3
14	フィリピン語	5	5	5	5	5
15	タイ語	5	5	5	5	6
16	ラオス語	2	3	3	3	3
17	ベトナム語	5	5	5	5	5
18	カンボジア語	1	1	1	1	1
19	ビルマ語	2	3	4	4	4
20	ヒンディー語	2	2	2	2	2
21	ペルシア語	1	1	2	3	5
22	トルコ語	5	6	7	7	7
23	ルーマニア語	1	1	1	1	1
24	ネパール語	1	1	2	3	3
25	ベンガル語	1	1	1	1	1
計		25言語 /174人	24言語 /187人	24言語 /198人	24言語 /211人	24言語 /225人

※複数言語の登録を含む

<属性別>

	属性	2011	2012	2013	2014	2015
1	教員	11	11	11	11	11
2	職員	3	3	2	2	2
3	大学院生	34	35	40	44	42
4	卒業生	87	98	103	109	124
5	その他(元職員)	3	3	4	4	4
	計	138	150	160	170	183人

※属性は登録時のもの

後援・共催

VIII-13. 後援・共催事業

		事業の名称	実施団体	開催日時	開催場所
2012	後援	MIA 夏期教員ワークショップ	(公財) 武蔵野市国際交流協会	2012年 8月1日(水)・2日 (木)	スイング 11F
	共催	グローバルコミュニケーション コース設立記念シンポジウム-人 と人をつなぐ専門職	東京外国語大学言語文化学 部グローバルコミュニケー ションコース	2012年 10月12日(金)	アゴラグロー バル プロメ テウスホール
2013	後援	MIA 夏期教員ワークショップ	(公財) 武蔵野市国際交流協会	2013年 7月31日(水)・ 8月1日(木)	スイング 11F
	後援	「多文化共生」の地域づくりワー クショップ —地域日本語教室における「居場 所感」調査と日本語事業の企画立 案に向けて—	(特活) 国際活動市民中心	2013年8月7日(水) 2014年2月28日 (金)	早稲田大学外 山キャンパス 33号棟16階第 10会議室
2014	後援	MIA 夏期教員ワークショップ	(公財) 武蔵野市国際交流協会	2014年 7月30日(水)・ 31日(木)	スイング 11F レインボーサ ロン
	共催	難民の定着支援に関する施策の 検討	東京外国語大学 国際関係研究所	2014年 6月18日(水)	事務管理棟 2F 中会議室
	共催	ポルトガル語劇 ブラジル人コミュニティ公演	東京外国語大学 ポルトガル語専攻	2014年 12月6日(土)	群馬県大泉町 文化むら
2015	後援	MIA 夏期教員ワークショップ	(公財) 武蔵野市国際交流協会	2015年 7月29日(水)・ 30日(木)	スイング 11F レインボーサ ロン
	共催	外国人コミュニティ全国会議	一般財団法人自治体国際化 協会	2015年12月12日 (土)	研究講義棟 2階 226 教室
	共催	ポルトガル語劇 ブラジル人コミュニティ公演	東京外国語大学 ポルトガル語専攻	2015年12月23日 (祝・水)	太田市藪塚本 町文化ホール カルトピア

外国につながる子どもたちのための教材開発

Ⅷ-14. 開発教材

ベトナム出身児童のための漢字教材（プロジェクト・コンコ）

	教材名	公開日
1	『Chữ Hán là bạn (チュウ ハン ラバン) 80kanji 1年生担当漢字』	2011年12月1日
2	『Chữ Hán là bạn (チュウ ハン ラバン) 160kanji 2年生担当漢字』	2012年8月3日
3	『Chữ Hán là bạn (チュウ ハン ラバン) 200kanji 3年生担当漢字』	2012年8月3日

在日タイ語圏児童のための漢字教材（プロジェクト・ノックトーン）

	教材名	公開日
1	『คันฉิ่งเพื่อนรัก (カンチ プアン ラック) 80kanji 1年生担当漢字』	2013年3月28日
2	『คันฉิ่งเพื่อนรัก (カンチ プアン ラック) 160kanji 2年生担当漢字』	2013年7月31日
3	『คันฉิ่งเพื่อนรัก (カンチ プアン ラック) 200kanji 3年生担当漢字』	2013年7月31日

Ⅷ-15. 各教材ダウンロード数

期間：2011年4月1日から2016年1月末日まで

		2007年度		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	合計
		07年4月20日～ 5月31日	07年6月1日～ 08年3月31日	08年4月1日～ 09年3月31日	09年4月1日～ 10年3月31日	10年4月1日～ 11年3月31日	11年4月1日～ 12年3月31日	12年4月1日～ 13年3月31日	13年4月1日～ 14年3月31日	14年4月1日～ 15年3月31日	15年4月1日～ 16年1月31日	
在日ブラジル人児童のための教材	漢字	9,989	52,885	110,013	97,940	69,466	56,431	38,238	37,946	36,840	31,653	541,401
	算数		21,924	71,887	64,671	60,897	43,089	10,417	10,273	8,578	7,961	299,697
	小計	84,798	181,900	162,611	130,363	99,520	48,655	48,219	45,418	39,614	841,098	
在日フィリピン人児童のための教材	漢字				1,344	30,715	31,897	22,729	22,187	25,443	24,947	159,262
	算数				12,795	21,654	29,415	8,008	7,229	8,395	7,673	121,470
	小計				12,795	22,998	60,130	58,198	30,737	29,416	33,838	280,732
南米スペイン語圏出身児童のための教材	漢字				1,845	29,131	27,541	16,859	25,669	39,140	36,430	176,615
	算数					10,116	27,249	4,403	5,545	5,028	3,648	55,989
	小計				1,845	39,247	54,790	21,262	31,214	44,168	40,078	232,604
ベトナム出身児童のための教材	漢字 **						557	4,952	15,020	25,003	23,504	69,036
在日タイ語圏児童のための教材	漢字								33,876	60,955	55,451	150,282
ブラジル人向け 自習用漢字教材	漢字						8,724	7,425	10,393	19,817	18,894	65,253
合計		84,798	194,695	187,454	229,740	221,789	113,031	168,138	229,199	210,161	1,639,005	

*2007年4月、5月分は教材毎の区別がされていない。

**2011年12月公開のため、2011年12月からの集計となっている。

VIII-16. 教材見本の作成・配布

発行	教材名	印刷 部数	配付先
2012年3月	ベトナム出身児童のための漢字教材 「1年生担当漢字（チュウハンラバン 80kanjis）」	500	・フォーラム参加者 ・NPO 団体、図書館、一般希望者
2012年10月	ベトナム出身児童のための漢字教材 「2年生担当漢字（チュウハンラバン 160kanjis）」	500	・フォーラム参加者 ・ベトナム人集住都市教育委員会、 国際交流協会、公立小中学校希望者 ・一般希望者
2012年10月	ベトナム出身児童のための漢字教材 「3年生担当漢字（チュウハンラバン 200kanjis）」	500	・フォーラム参加者 ・ベトナム人集住都市教育委員会、 国際交流協会、公立小中学校希望者 ・一般希望者
2013年11月	在日タイ語圏児童のための漢字教材 「1年生担当漢字（カンチプアンラック 80kanjis）」	300	・フォーラム参加者 ・NPO 団体、図書館、一般希望者
2014年10月	在日タイ語圏児童のための漢字教材 「2年生担当漢字（カンチプアンラック 160kanjis）」	300	・フォーラム参加者 ・NPO 団体、図書館、一般希望者
2014年10月	在日タイ語圏児童のための漢字教材 「3年生担当漢字（カンチプアンラック 200kanjis）」	300	・フォーラム参加者 ・NPO 団体、図書館、一般希望者

佐賀県受託協働実践研究

VIII-17. 佐賀県多文化共生施策推進のための調査研究

調査研究メンバー

全体統括	杉澤経子（本センタープロジェクトコーディネーター）
佐賀市住民意識調査チーム	
研究員（リーダー） 研究員 アドバイザー	奈良雅美（《特活》アジア女性自立プロジェクト代表理事/関西学院大学非常勤講師） 高柳香代（多文化共生ネット・九州主宰） 小山紳一郎（《公財》ラボ国際交流センター常勤理事/明治大学大学院兼任講師）
留学生実態調査チーム	
研究員（リーダー） 研究員 アドバイザー	菊池哲佳（《公財》仙台観光国際協会 国際化事業部国際化推進課企画係主任） 北村祐人（名古屋大学とよた日本語学習支援システムシステムコーディネーター） 伊東祐郎（東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授）
技能実習生調査チーム	
研究員（リーダー） 研究員 アドバイザー	大久保和夫（毎日新聞記者/《特活》国際活動市民中心副代表） 指宿昭一（関東弁護士会連合会外国人の人権救済委員会委員/弁護士） 杉澤経子（本センタープロジェクトコーディネーター）

委託内容

佐賀市における多文化共生に関する住民意識調査
県内で一番多く外国人が在住する佐賀市を中心に各種調査を実施し、その結果から具体的施策を導き出す
佐賀県内における留学生の生活実態および意識調査
佐賀大学を中心にアンケートを実施し、その結果から具体的施策を導き出す
佐賀県内における技能実習生に関する生活実態調査および雇用者側の意識調査
県内に在住する外国人人口の中で多い技能実習生および実習生制度を活用している企業にヒアリング調査を行い、その結果から具体的施策を導き出す

上記調査のうえ、報告書提出

多文化コミュニティ教育支援室／ボランティア活動スペース (VOLAS)

「多文化コミュニティ教育支援室」は2004年度に現代GPとして設置され、現代GP終了にともなって2007年に本センターに統合された。さらに2012年度に活動内容の見直しとともに「ボランティア活動スペース (VOLAS)」に名称変更されたが、2014年度からは学生課に移行した。

VIII-18. 登録学生数

属性		2011	2012	2013※
学部生	外国語学部	508	406	260
	言語文化学部	—	34	90
	国際社会学部	—	41	115
大学院生		45	39	33
留学生		5	11	2
研究生・特別聴講生				7
その他				30
計		558	531	537

※登録制度廃止のため、「メール配信サービス登録学生数」

VIII-19. 外国につながる子どもへの学習支援活動

	形態	地域	参加学生数 (延べ)
2011	学校内学習支援	府中市	19
		武蔵野市	1
		川崎市	3
		足立区	1
		文京区	3
	日本語教室	府中市	16
		調布市	13
		武蔵野市	3
2012	日本語学習支援	府中市	42
		調布市	13
		武蔵野市	1
		2013	府中市
計			161人

VIII-20. 国際理解教育活動

	地域	小/中/高	対象	参加学生
2011	川崎市	小/中	小5 (3クラス)	7
			小6 (3クラス)	6
			中1 (3クラス)	12
		高	1年生×1クラス	2
			2年生×1クラス	1
	町田市	中	2年生 約25名	6
計				34人

Ⅷ-21. 講座・研修の実施

ボランティア入門講座

	実施日	時間	場所	内容	講師	参加人数
2011	4月29日 (金)	10:10 -17:30	アゴラグローバル プロジェクトスペース	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ体験 (参加型学習の手法) ワークショップ「ピンクんに何が起きたのか？」 講師：木下理仁 (国際理解教育専門員) 		27
	5月21日 (土)			<ul style="list-style-type: none"> 学習支援って何?～支援者に求められること 子どもの状況を知る「ネットワーク図」 学習支援の可能性～異文化理解の観点から 日本の学校に通うということ「学校からの連絡」 講師：奈良部年子 (学習支援専門員) 青山 亨 (本センター長) 		21
2012	4月26日 (木)	16:00 -19:00	111 教室	VOLAS 新歓講座「世界一大きい授業」	VOLAS 学生コーディネーター	7
	5月12日 (土)	13:00 -16:00	113 教室	VOLAS 開設記念ワークショップ「外大生ボランティア活動を語る」	木下理仁 (かながわ開発教育センター事務局長)	23
	5月24日 (木)	11:40 -12:40	VOLAS	VOLAS ボランティア入門講座「地域のボランティア活動に参加しよう」	村田敦史 (武蔵野市国際交流協会)	8
	6月18日 (月)	17:40 -19:00	218 教室	VOLAS 学習支援講座「外国につながる子どもの学習支援～私たちができること～」	西原明子 (VOLAS)	15
	6月19日 (火)	11:40 -12:40	VOLAS			10
2013	4月1日 (月)	11:40 -12:40	VOLAS	ボランティアきっかけづくり講座	VOLAS 職員	23
	5月8日 (水)	11:40 -12:40	VOLAS	「世界一大きな授業」外大版	学生有志	24
計						158 人

難民問題入門講座

	実施日	時間	内容	講師	参加人数
2011	6月15日 (水)	14:20 -15:50	① 難民の立場を理解するためのワークショップ ② 難民問題の基礎知識	鹿島美穂子 (《特活》難民支援協会 広報部長)	21
		16:00 -17:30	① NGO (難民支援協会) の活動紹介 ② ボランティア希望者への説明		12
計					33 人

学生コーディネーター研修

	実施回数	参加学生数	修了者
2011	16	6	3
2012	45	3	1
計		9 人	4 人

学習支援座談会・学習会

	内容	実施回数	参加学生数
2012	座談会	1	4
	学習会	1	5
2013	ランチタイム学習会	12	170
	外国につながる子どもへの学習支援ガイダンス	毎月	52
	フォローアップ講座	1	13
	座談会	7	17
計			261 人

VIII-22. 高校生のための国際理解セミナー

	実施日	対象	学生参加人数
2011	12月24日(土)～25日(日)	高校生 38 人	11
2012	12月22日(土)～23日(日)	高校生 40 人	17
計		78 人	28 人

VIII-23. オープンキャンパスにおける活動紹介

	実施日	内容	参加学生数
2011	7月23日	日本語・学習支援活動の紹介	6
		国際理解教育活動の紹介	4
	11月20日	日本語・学習支援と国際理解教育活動の紹介	10
2012	7月28日	「真剣10代しゃべり場！外大生と学生生活について語ろう」	47
	11月23日	「外大生と語ろう！～ワールドカフェ @ボランティア活動スペース～」	42
計			109 人

VIII-24. その他

	実施日	内容	場所	対象	参加学生数
2012	2013年1月26日 (土)	府中市・外大連携講座「言語・文化の違う人々と共に暮らすこととは？」	府中市役所 第2庁舎6階	府中市民 60 人	11

VIII-25. 「東日本大震災 多言語翻訳・情報提供」活動報告

2011年6月30日

未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」。本センターでは、有志で「災害多言語翻訳支援チーム」を立ち上げて、仙台市の災害情報、放射線被曝に関する基礎知識、入管情報を、日本語を含めて最多で22言語に翻訳しました。また、センターのウェブサイト「多言語災害情報支援サイト」を立ち上げてインターネットでの情報提供も行いました。以下、活動の概略を報告します。

1. 災害情報の多言語翻訳支援活動

【経緯】3月11日（金）コミュニティ通訳登録者（9言語、23人）に、12日に外大OB・OG・教職員・大学院生が登録している語学ボランティア（26言語、121人）に呼びかけ、翻訳支援チームを立ち上げる。

【活動期間】3月12日～4月3日（3週間）

【活動参加者】126人

男女：男28 女98

外国人：18人／インドネシア、タイ、中国、ブラジル、ロシア、韓国、インド？）

居住国：イギリス、イタリア、オーストラリア、韓国、スペイン、タイ、ドイツ、フランス、ベトナム、ロシア（把握している分のみ）

【翻訳言語】21言語（日本語以外）／イタリア語、インドネシア語、英語、韓国語、カンボジア語、スペイン語、タイ語、中国語、ドイツ語、ヒンディー語、ビルマ語、フィリピン語、フランス語、ベトナム語、ベンガル語、ペルシア語、ポルトガル語、ポーランド語、マレーシア語、ルーマニア語、ロシア語

【翻訳内容】

●仙台市からの災害情報（仙台市災害対策本部発信）

ライフライン、病院、交通、給水・ごみ・下水道・ガス、火災予防、市役所手続き、児童施設、災害ダイヤル、ボランティアセンター立ち上げ、ごみの収集、がれき置き場、長距離バス、高速バス、り災証明申請書、建物被害認定調査

13日／ライフライン情報、病院情報

14日／交通情報、給水・ごみ・下水道・ガス、火災予防、市役所手続き、児童施設

14日／災害ダイヤル、ボランティアセンター、

15日／ごみの収集、がれき置き場、

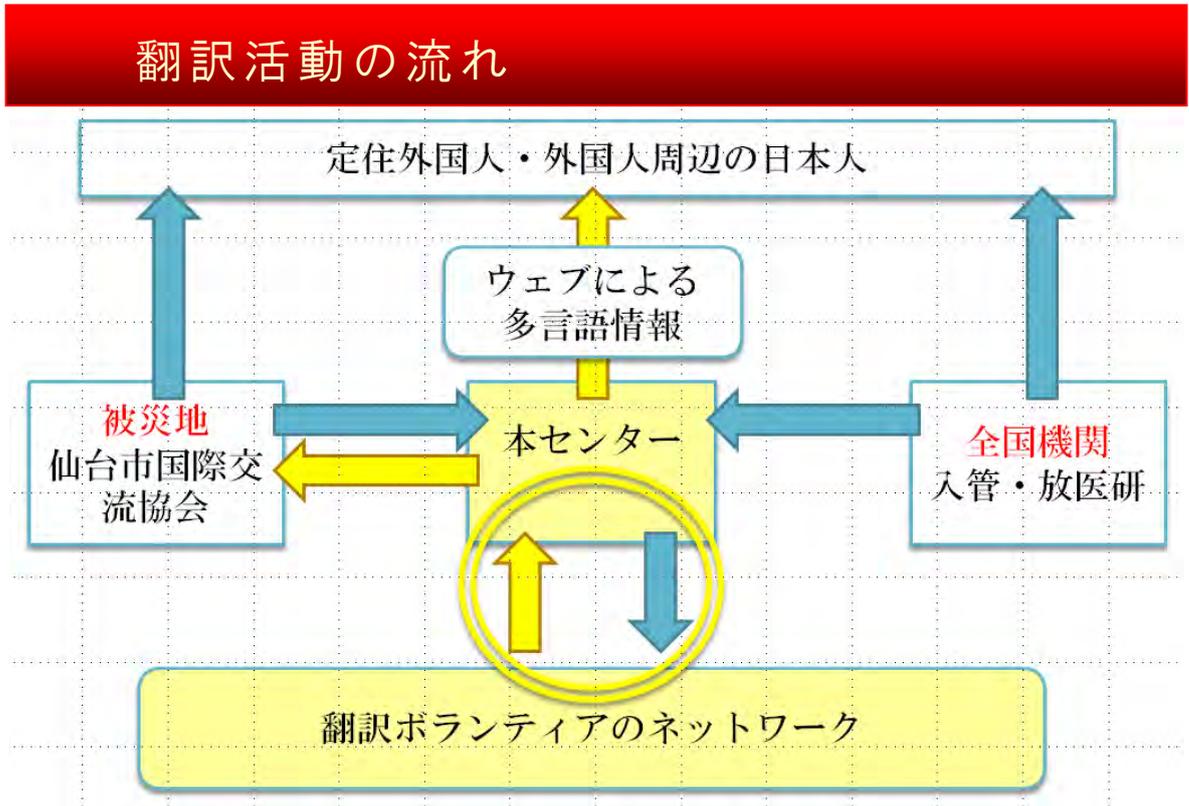
16日／長距離バス、高速バス

り災証明申請書

27日／建物被害認定調査

- 放射線被曝に関する基礎知識 I～V (放射線医学総合研究所・情報)
- 入国管理局からのお知らせ 1～3
- 日弁連・被災外国人のための電話法律相談チラシ

【翻訳活動の流れ】



2. 「多言語災害情報支援サイト」での情報提供

当初は本センターホームページ上で、さらに3月25日からは災害情報専用の「多言語災害情報支援サイト」を立ち上げて、上記1で翻訳したものを掲載し情報提供を行った。

【情報提供期間】 3月15日～6月30日

【多言語情報サイトの周知】

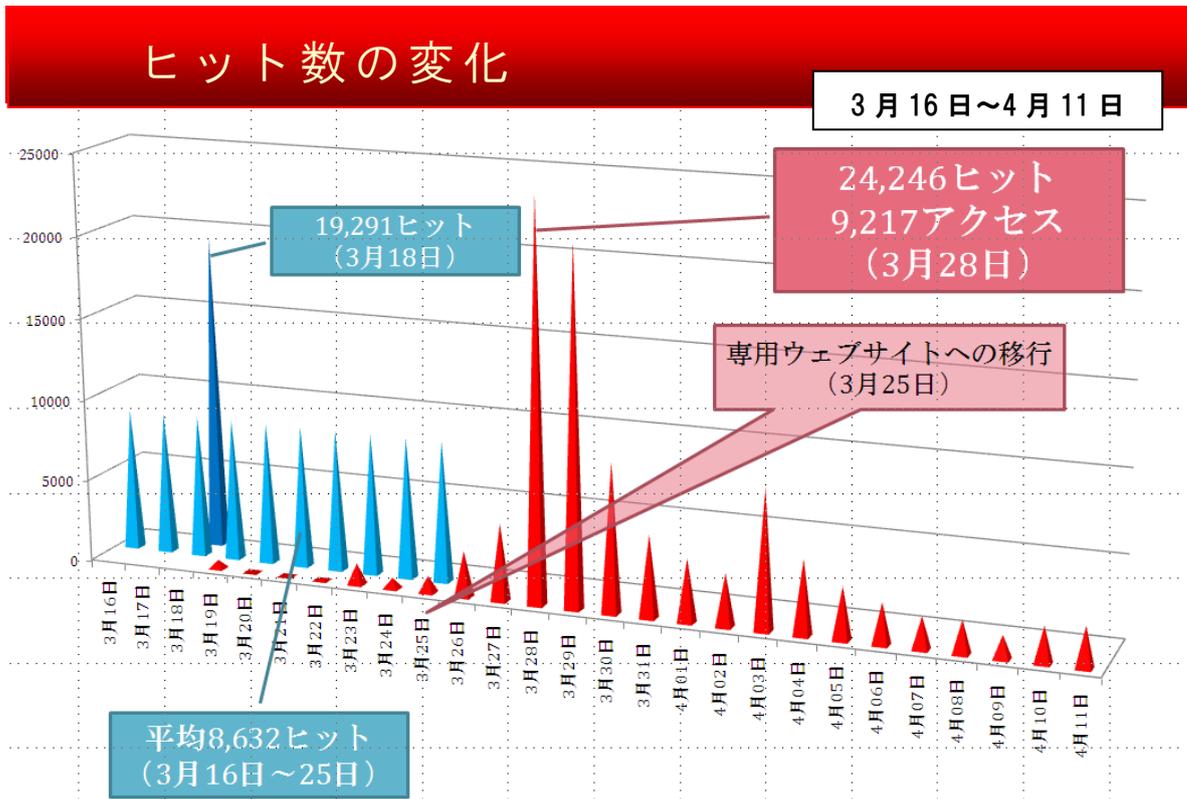
●センターのメールマガジン配信（3回） <号外> 3月16日、18日、23日

●マスコミ等

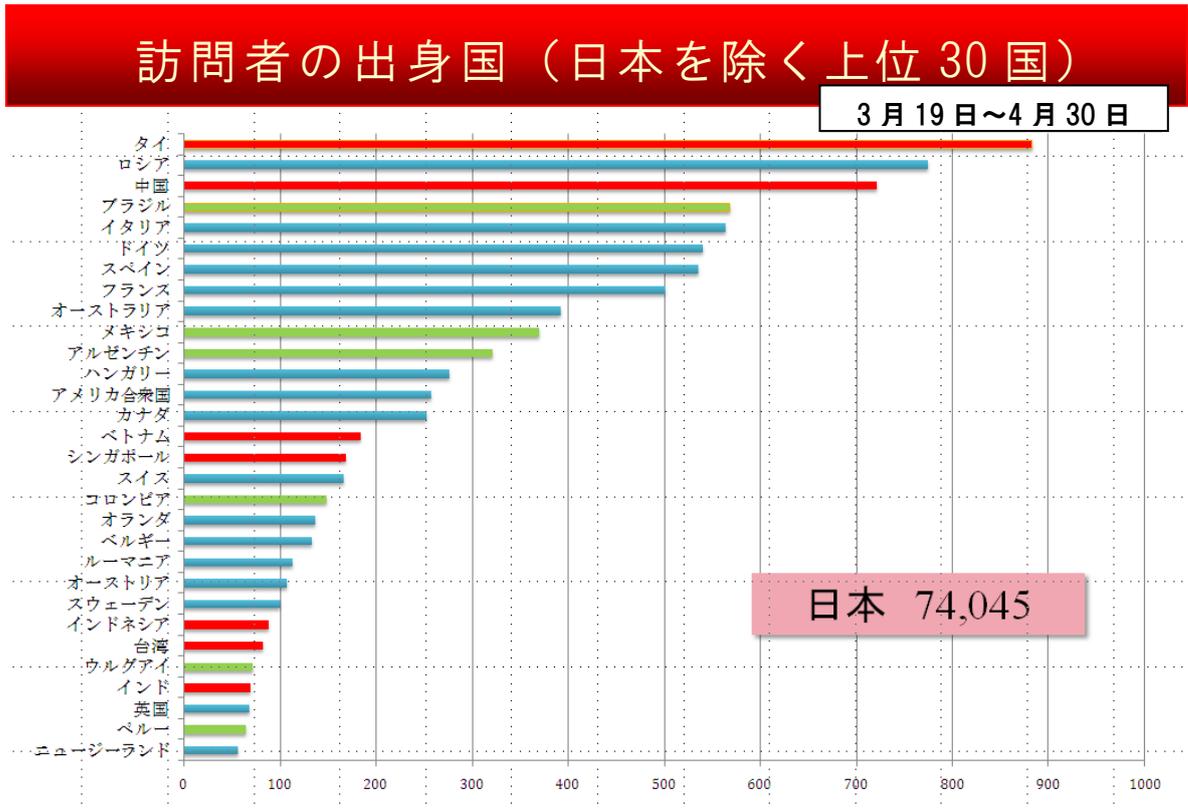
Japan Times	3月19日
日本経済新聞（社説）	3月22日掲載
毎日新聞	3月25日掲載
NHK 昼のニュース	3月28日（インタビュー映像）、29日（文字テロップ）放映
週刊ST	4月1日掲載
朝日新聞	5月25日掲載
国際人流	7月号掲載
その他、時事通信、電気新聞、科学新聞の取材あり	

【アクセス数】 3月16日～25日の10日間／合計86,322件（最多 18日（金）19,291件）
3月末日までの最多ヒット24,246件。
4月3日の翻訳活動終了とともにアクセス数は減少。

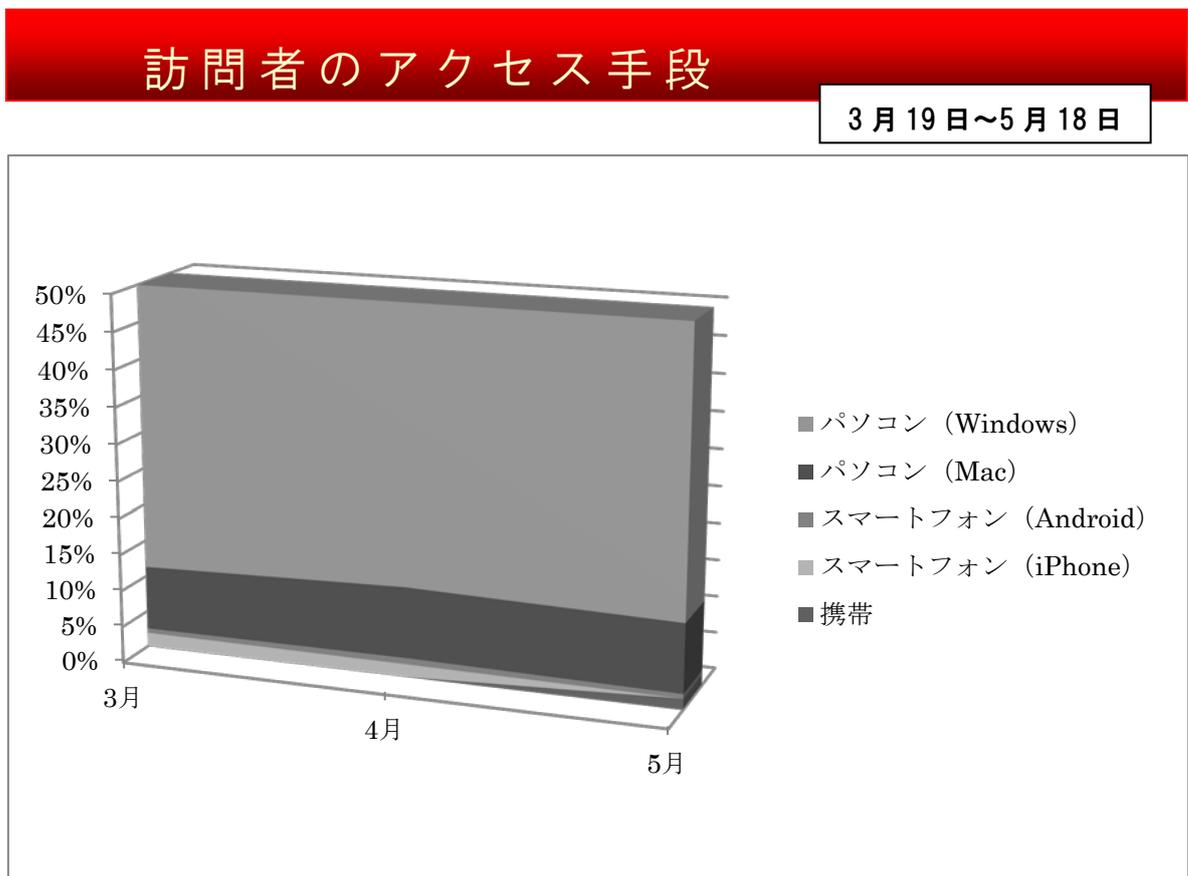
●ヒット数の変化



●訪問者の出身国



●訪問者のアクセス手段



3. 利用者からのフィードバック

外国人の身近にいる日本人数人からお礼のメールをいただきました。以下、お二人からご本人の了解を得られたものを紹介します。

- インドネシアの国営放送では『放射能は 10 時間で東京上空に到着する。人体に影響のある量である』と報じたらしく国の親御さんたちがパニックになっています。こんなとき、少しでも母語の情報が安心材料だと思います。(東京都在住)
- 両親がベトナムの方と一緒に仕事をしているのですが、今回の震災についてベトナム人の方々が大変不安を持っておりました。日本人でも難しい今回の原発他の情報は、いくら報道を見ても安心できず、本国からは帰って来いと急かされ、本人たちも帰りたいたいと泣くばかりでした。ベトナム語の翻訳はなかなか見つからず、ほとんど困っているときに、こちらのサイトを見つけ大変助けられました。多少余裕も出来たようで、コピーして友人同士で読んだりしていたようです。(栃木県在住)

4. 被災外国人のための電話法律相談・トリオフォン通訳

本センターでは、日常的に外国人のための専門家相談会などに参加し、生活者としての外国人への支援活動を行っています。こうした活動で連携関係のある弁護士会からの依頼でトリオフォンを使っての被災者向け法律相談に通訳の協力をしました。

主催：日本弁護士連合会・関東弁護士会連合会・東京弁護士会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会

協力：東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター

【活動期間】 3月29日～7月29日（4ヶ月）

【活動者実数】 29人（内外国人8人）

4月4日（月）に大学院生向け説明会（10人参加）

【待機言語】 15言語（英語、中国語、韓国語、フランス語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、フィリピン語、ベトナム語、ベンガル語、ビルマ語、ルーマニア語、ヒンディー語、ポーランド語）

【相談件数*】 全体で129件

【相談者国籍等*】 多い順に、ブラジル、中国、フィリピン、ペルー、米国、韓国など21カ国、ほか帰化者、無回答者

【相談内容*】 相談件数の多い順に、震災以外、労働問題、在留資格、帰国、離婚・親族、不動産賃貸借（借家）など

(*＝2011年11月27日東京外大「多文化社会実践研究全国フォーラム」
関聡介弁護士配布資料による)

5. 活動から見えてきたこと

(1) 顔の見えるネットワーク構築の重要性

平常時にそれぞれの組織のコーディネーター間に顔の見える関係が築かれていたことにより、作業の効率化が図れた。

(2) 海外居住者とのネットワークの可能性

インターネットの普及によって国内のみならず多くの海外居住者が参加した。そのため、地域によっては計画停電が行われ作業が頻繁に滞る中、日本で作業ができない時には海外居住者が翻訳を行うという役割分担ができた。

(3) 「地域の(ローカルな)情報」と「国レベルの情報」の翻訳の必要性

東日本大震災では原発事故により、国レベルの情報の翻訳ニーズが高まった。

(4) 「正確性」と「迅速性」を担保する仕組みづくりの必要性

ボランティア活動の場合、あくまでも自発的な活動であり翻訳力が担保されているわけではない。本学での活動では、言語別にチームを作りネイティブチェックを含め相互にチェックし合う仕組みで翻訳が行われた。正確性が担保できないと思われる内容については、翻訳しないという選択を行うチームもあった。一方、少人数の言語チームでは翻訳に時間がかかり迅速性には課題が残った。

(5) 日常活動の重要性

震災で初めて参加するという人は多数いたが、活動の中心的役割を担ったのは日常の活動を行っているメンバーであった。緊急時に即応体制を作るためには平常時の経験の蓄積があってこそスムーズな活動ができる。

(6) 専門的人材の必要性

- ・災害時には正確で迅速な翻訳が求められるが故に、高い語学力(翻訳力)を有する人材群が求められた。
- ・災害時には組織をコーディネートできる立場と力量、ボランティアを募り協働での即応体制をつくり、さらに通常業務を抱えながら参加しているボランティアがボランティアマインドを維持しつつ活動を継続できるようにコーディネートする力量が求められた。

VIII-26. 学生震災ボランティア活動の推進

(地震緊急対策本部委託／学生後援会助成)

1. 震災ボランティア講習会の開催

	日程	参加人数
第1回	2011年4月28日(水)	62人
第2回	5月19日(木)	29人
第3回	6月29日(水)	58人

*5月24日～26日：

プロジェクトコーディネーターによる現地調査（石巻市における学生ボランティア受け入れの可能性調査）

2. 学生震災ボランティア送り出し

	送り出し期間	参加人数	報告会・オリエンテーション	参加人数
1	2011年7月25日(月)～28日(木)	6	2011年10月12日(水)	24
2	10月21日(金)～24日(月)	4	10月27日(木)	13
3	11月4日(金)～7日(月)	7	11月10日(火)	20
4	11月20日(日)～23日(水)	5	11月25日(金)	14
5	12月2日(金)～5日(月)	6	12月9日(金)	14
6	12月16日(金)～19日(月)	7	2012年2月14日(火)	10
7	12月23日(金)～26日(月)	5		
8	2012年1月13日(金)～16日(月)	4		
	計	44人	計	95人

*2011年10月に学生震災ボランティアチーム「tufsteam-for-3.11」が立ち上がり、11月以降は「tufsteam-for-3.11」の自主的活動として支援

3. 多文化社会実践研究・全国フォーラム（第5回）ランチタイムセッションにおける活動発表

発表者：学生6人

4. 留学生日本語教育センター・震災プロジェクトへの参加

留日センターが実施している「留学生のための震災プロジェクト」に、震災ボランティアとして活動した学生が参加

活動日：2011年11月16日、11月30日、12月13日、12月20日、2012年1月17日

参加人数：9人（延べ）

5. 学生自主企画「震災ボランティア活動パネル展示」

2011年12月～2012年3月（ギャラリー）

6. 学生自主企画「子どもとの活動におけるリスクマネジメント講演会」

実施日：2011年12月21日（水）

参加人数：12人

VIII-27. 新しい在留管理制度に関する情報の翻訳

2012年7月9日に新しい在留管理制度の施行に伴い、本学では法務省からの依頼を受けてリーフレットの翻訳を26言語で行い、本センターHP、および法務省入国管理局HP http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/にて公開した。

公開日：2012年5月17日（5月31日更新）

翻訳言語：英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、モンゴル語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ウルドゥー語、ヒンディー語、ベンガル語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、チベット語、ウズベク語、日本語

翻訳者：29人（本学教員11、大学院生14、学部生2、その他2）

校閲者：25人（本学教員21、大学院生3、その他1）

【Ⅸ. 広報活動】

Ⅸ-1. メールマガジン発行状況

(2016年1月末日現在)

No	発行日	No	発行日	No	発行日
1	2011年4月8日	22	2012年8月7日	48	2014年5月30日
2	4月15日	23	9月13日	49	6月25日
3	4月28日	24	10月4日	50	7月22日
4	5月16日	25	10月19日	51	8月26日
臨時	6月9日	26	10月30日	52	9月24日
5	6月13日	27	11月22日	53	10月24日
6	7月4日	28	12月14日	54	11月12日
臨時	7月20日	29	12月28日	55	12月3日
7	9月20日	30	2013年1月31日	56	12月18日
8	9月28日	31	2月25日	57	2015年1月21日
9	10月17日	32	3月29日	58	2月19日
10	11月4日	33	4月19日	59	3月20日
号外	11月18日	34	5月20日	60	4月24日
11	12月2日	35	6月19日	61	5月22日
12	12月14日	36	7月4日	62	7月2日
13	2012年1月17日	37	8月7日	63	8月27日
臨時	2月3日	38	9月18日	64	9月24日
臨時	2月9日	39	10月1日	65	10月20日
14	3月2日	40	10月23日	66	11月13日
15	4月6日	特集	11月8日	67	12月1日
16	4月23日	41	11月15日	臨時	12月22日
17	5月8日	42	11月22日	68	12月28日
18	5月17日	43	12月12日		
19	6月1日	44	2014年1月31日		
20	6月22日	45	2月28日		
臨時	7月12日	46	3月27日		
21	7月24日	47	4月28日		

IX-2. 新聞・雑誌等掲載関連記事一覧

	掲載日	媒体名	見出し
1	2011年4月1日	週間ST	東日本大震災 多言語情報提供
2	5月13日	信濃毎日新聞	多文化共生、4年間の研究記録
3	5月25日	朝日新聞	被災外国人を翻訳・通訳で支援
4	6月1日	月刊ニック・ニュース	平時のつながりを災害時に生かす
5	7月1日	国際人流7月号	日常の活動やネットワークを活かして災害情報を多言語で提供
6	8月20日	通訳・翻訳キャリアガイド2012	多言語の情報提供を可能にした外国語大学ならではの人的ネットワーク
7	10月1日	ボランティア情報 No.413	外国人住民と地域で「共に暮らす」ために
8	12月9日	河北新報	被災外国人の支援充実を
9	2012年7月1日	月刊We learn 7月号	「多文化共生」の地域づくり—多文化社会コーディネーターの必要性
10	7月1日	法律のひろば7月号	新しい在留管理制度と外国人住民施策—多文化共生の観点から
11	7月7日	毎日新聞(夕刊)	新在留制度 25言語に翻訳
12	8月7日	読売新聞	新在留管理制度1か月 有能な外国人の就労促す
13	10月1日	多摩交流センターだより No.110	コミュニティ通訳 外国人住民の強い味方
14	11月26日	多文化共生ポータルサイト	『縦割り』の壁をどう崩すか!～多文化共生社会の実現に向けて
15	11月28日	毎日新聞	第三国定住難民、希望者ゼロの衝撃
16	2013年3月1日	週刊法律新聞	外国人のリーガルアクセスとコミュニティ通訳
17	5月1日	月刊社会教育 5月号	第6回多文化社会実践研究・全国フォーラム
18	6月1日	多摩交流センターだより No.114	学生ボランティア団体紹介～学生による多摩のまちづくり～
19	6月7日	宇都宮大学 HANDS プロジェクト だいじょうぶnet.	はじめての日本語指導テキスト
20	7月14日	NHK 静岡ニュース	災害時の対応学ぶ研修会
21	7月24日	富士ニュース	災害時通訳伝え
22	2014年2月22日	ボランティアコーディネーター白書 2014年度版	多文化共生におけるボランティアコーディネーション
23	3月10日	留学交流 vol.36	地域社会で留学生が活動することの意義—日本の多文化共生社会との関連で—
24	3月15日	自治体国際化フォーラム 293号	多文化と人材養成
25	8月4日	東京新聞群馬版 ほか	医療現場に「言葉の壁」 通訳の専門職化求める
26	9月1日	東京外国語大学 HP TUFUS TODAY	多文化社会の問題解決へ、東京外国語大学の取組み
27	10月8日	すぎなみ交流ニュース	「通訳ボランティア・スキルアップ講座」開催
28	2015年3月5日	みすず書房 web	コミュニティ通訳 多文化共生社会のコミュニケーション
29	4月1日	「むさしの FRIENDs」102号	創造的な活動をどうコーディネーションするか

30	2015年5月7日	東京外国語大学 HP TUFUS TODAY	地方自治体でのインターンシップ
31	5月17日	日本経済新聞	多言語への意識希薄な日本社会
32	6月15日	松柏社	これだけは知っておきたい!外国人相談の基礎知識
33	8月26日	文教速報	東京外大で多文化社会専門人材養成講座
34	2016年1月27日	文教速報	東京外大が多文化社会実践研究・全国フォーラム

IX-3. テレビ・ラジオ出演

	出演日	放送局・番組名	番組名
1	2012年3月1日	NHK ラジオ第1放送 「私も一言!夕方ニュース」	「災害発生!外国人をどう支えるか?」
2	2012年11月29日	NHK ニュース 「おはよう日本」	「12の言語に対応。法律相談会」
3	2013年12月9日	NHK ラジオ第1放送	多様性があたりまえの社会を作る

【X. センターの運営】

X-1. 多言語・多文化教育研究センター運営メンバー

*肩書きは在任時のもの

● 運営委員会

<2011 年度>

宮崎 恒二	理事
青山 亨	センター長
村尾 誠一	大学院総合国際学研究院長
藤井 守男	外国語学部長
武田 千香	副センター長
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
佐伯 季之	教務課長
伊東 祐郎	留学生日本語教育センター長
鈴木 義一	外国語学部副学部長

<2012 年度>

宮崎 恒二	理事
青山 亨	センター長
村尾 誠一	大学院総合国際学研究院長
川口 裕司	言語文化学部長
岩崎 稔	国際社会学部長
武田 千香	副センター長
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
富田 章	教務課長
伊東 祐郎	留学生日本語教育センター長
水野 善文	言語文化学部副学部長

<2013 年度>

宮崎 恒二	理事
青山 亨	センター長
岩崎 務	大学院総合国際学研究院長
川口 裕司	言語文化学部長
岩崎 稔	国際社会学部長
小林 幸江	学長特別補佐
武田 千香	副センター長
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
富田 章	教務課長
水野 善文	言語文化学部副学部長
吉田 ゆり子	国際社会学部副学部長
土佐 桂子	大学院総合国際学研究院教授

<2014 年度>

宮崎 恒二	理事
青山 亨	センター長
岩崎 務	大学院総合国際学研究院長
川口 裕司	言語文化学部長
岩崎 稔	国際社会学部長
小林 幸江	学長特別補佐
武田 千香	副センター長
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
富田 章	教務課長
水野 善文	言語文化学部副学部長
吉田 ゆり子	国際社会学部副学部長
岡野 賢二	大学院総合国際学研究院准教授

<2015 年度>

岩崎 稔	理事
青山 亨	センター長
岩崎 務	大学院総合国際学研究所長
武田 千香	言語文化学部長／副センター長
吉田 ゆり子	国際社会学部長
佐野 洋	学長特別補佐
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
池田 三喜男	学務部長
米谷 匡史	大学院総合国際学研究院教授
吉富 朝子	言語文化学部副学部長
金井 光太郎	国際社会学部副学部長

● センター会議

青山 亨	センター長
武田 千香	副センター長
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
長谷部美佳	世界言語社会教育センター特任講師
内藤 稔	大学院総合国際学研究院講師

● プログラム別推進会議

研究会議

青山 亨	センター長
武田 千香	副センター長
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
内藤 稔	大学院総合国際学研究院講師
長谷部美佳	世界言語社会教育センター特任講師
受田 宏之	大学院総合国際学研究院准教授（～2013 年度）
伊東 祐郎	留学生日本語教育センター長教授
鶴田 知佳子	大学院総合国際学研究院教授
藤井 毅	大学院総合国際学研究院教授

専門人材養成会議

青山 亨	センター長
武田 千香	副センター長
杉澤 経子	プロジェクトコーディネーター
内藤 稔	大学院総合国際学研究院講師
長谷部美佳	世界言語社会教育センター特任講師
鶴田 知佳子	大学院総合国際学研究院教授
藤井 毅	大学院総合国際学研究院教授

教育会議（2011-12 年度）

青山 亨	センター長
武田 千香	副センター長
長谷部美佳	世界言語社会教育センター特任講師
内藤 稔	大学院総合国際学研究院講師
受田 宏之	大学院総合国際学研究院准教授
大川 正彦	大学院総合国際学研究院教授
篠原 琢	大学院総合国際学研究院教授

刊行物一覧

タイトル		体裁	発行日
シリーズ 多言語・多文化協働実践研究			
15	地域日本語教育をめぐる多文化社会コーディネーターの役割と専門性—多様な立場のコーディネーター実践から	A5判 128 ページ	2012年12月1日
16	「相談通訳」におけるコミュニティ通訳の役割と専門性	A5判 133 ページ	2013年3月20日
17	多文化共生政策の実施者に求められる役割 —多文化社会コーディネーターの必要性とあり方	A5判 155 ページ	2013年11月30日
科学研究費助成事業（基盤C）研究「多文化社会における専門職の知と専門性評価に関する研究」報告書			
多文化社会コーディネーターの専門職の知と専門性評価—認定制度の構築に向けて		A5判 160 ページ	2016年3月22日
研究誌「多言語多文化—実践と研究」			
Vol. 4	投稿論文計9本掲載	A5判 200 ページ	2012年12月1日
Vol. 5	投稿論文計5本掲載	A5判 128 ページ	2013年11月30日
Vol. 6	投稿論文2本、講演録1本掲載	A5判 78 ページ	2014年12月10日
Vol. 7	投稿論文6本、研究報告2本掲載	A5判 224 ページ	2015年12月10日
ベトナム出身児童のための漢字教材 印刷見本版			
Chữ Hán là bạn (チュウハンラバン) 80kanji 1年生 担当漢字		A4判 128 ページ	2012年3月29日
Chữ Hán là bạn (チュウハンラバン) 160kanji 2年生 担当漢字		A4判 225 ページ	2012年10月31日
Chữ Hán là bạn (チュウハンラバン) 200kanji 3年生 担当漢字		A4判 239 ページ	2012年10月31日
在日タイ語圏児童のための漢字教材 印刷見本版			
คันฉืเพื่อนรัก (カンチプアンラック) 80kanji 1年生担当 漢字		A4判 128 ページ	2013年11月30日
คันฉืเพื่อนรัก (カンチプアンラック) 160kanji 2年生担当 漢字		A4判 225 ページ	2014年10月1日
คันฉืเพื่อนรัก (カンチプアンラック) 200kanji 3年生担当 漢字		A4判 239 ページ	2014年10月1日
多文化社会実践研究・全国フォーラム 抄録			
第5回抄録 多文化社会に求められる専門人材像—東日本大震災から学ぶ		A4判 80 ページ	2011年11月26日
第6回抄録 社会参加のあり方を問う—言語・文化の差異を超えて—		A4判 62 ページ	2012年12月1日
第7回抄録 多文化社会人材の専門職化—人材養成の取り組みから可能性を探る—		A4判 59 ページ	2013年11月30日
第8回抄録 多様性があたりまえの社会をめざして		A4判 55 ページ	2014年12月13日
第9回抄録 これが多文化社会専門人材だ！—国内のグローバル化と大学の役割		A4判 45 ページ	2015年12月12日
多文化社会実践研究・全国フォーラム 報告書			
第5回 報告書		A4判 110 ページ	2012年3月30日

コミュニティ通訳研究会 報告書		
2011 年度コミュニティ通訳協働実践型研究会 活動報告書	ウェブ版 9 ページ	2012 年 5 月
多言語・多文化教育研究センター 年次報告		
2011 年度	ウェブ版 32 ページ	2012 年 4 月
2012 年度	ウェブ版 26 ページ	2013 年 4 月
2013 年度	ウェブ版 35 ページ	2014 年 4 月
2014 年度	ウェブ版 31 ページ	2015 年 4 月
2011-15 年度 多文化社会人材養成プロジェクト報告書	A4 判 144 ページ	2016 年 3 月 20 日
その他		
「多文化社会読本—多様な世界、多様な日本」（東京 外国語大学出版会発行）	A5 判 232 ページ	2016 年 3 月（予定）
科学研究費助成事業若手研究（B）「多文化社会に対応し た実践型コミュニティ通訳養成教材の研究と開発」 相談通訳のニーズ調査及びそれにもとづく多言語教材	ウェブ版（英語、中国 語、インドネシア語、フ ィリピン語、ベトナム 語、ネパール語）	2016 年 3 月（予定）

資 料

規程等

1. 多言語・多文化教育研究センター規程
2. 事業共催・後援取扱要綱
3. 研究誌
4. 多文化社会コーディネーター倫理綱領
5. 相談通訳の倫理綱領

事業計画

- ・ 2011 年度
- ・ 2012 年度
- ・ 2013 年度
- ・ 2014 年度
- ・ 2015 年度

(目的)

第1条 この要綱は、多言語・多文化教育研究センター（以下「センター」という）が共催、後援をする事業の基準、または手続きについて定めることを目的とする。

(承認基準)

第2条 センターが共催または後援する事業は、次の各号に掲げる要件を有するものとする。

- (1) 事業内容が多言語・多文化社会に貢献するものであること。
- (2) 営利を目的としない事業であること。
- (3) 公益性のあるものであること。
- (4) 政治活動、または、宗教活動を目的としない事業内容であること。
- (5) 申請者は、その存在、組織等が明確で、事業遂行能力が十分であると判断される団体であること。

(申請)

第3条 申請は、事前に、共催・後援申請書に当該事業を明らかにする書類を添付し、行わなければならない。

(承認の決定)

第4条 センター長は、申請された内容を検討し、承認の可否を決定する。承認された事業については、申請者に承認通知書により通知をするものとする。ただし、必要がある場合は、センター長は承認にあたって、一定の条件をつけるものとする。

(事業の変更)

第5条 申請者は、共催または後援承認後、事業計画に変更があった場合は、直ちに届け出なければならない。

(結果の報告)

第6条 申請者は、当該事業を終了したときは、速やかに共催・後援結果報告書により報告をしなければならない。

(承認の取消等)

第7条 申請者が、次の各号の一に該当した場合は、センターは、既に共催または後援を承認した事業であっても、当該承認を取り消すことができる。また、当該承認を取り消された者は、以後新たな申請があっても、センターは、共催または後援をしないものとする。

- (1) 虚偽の申請により事業の共催または後援の承認をうけたとき。
- (2) 第4条（ただし書）による条件に違反したとき。
- (3) 過去に共催または後援の承認をうけたもので、承認の条件（報告書の提出等）を履行しなかったとき。
- (4) その他、この要綱に違反したとき。

『多言語多文化—実践と研究』の理念

『多言語多文化—実践と研究』は、既存の学問分野の枠組みを超えて多言語・多文化社会を多面的に理解する視点を提供し、研究者と実践者による研究成果の意義を広く社会に問いかけ、現場へのフィードバックをおこなうことを目的としています。

本誌は、次に掲げるような、現代日本における多言語・多文化化を直視し、さまざまな課題に向きあうあらゆる領域の執筆者による論稿を掲載することで、多言語・多文化社会研究におけるひとつの里程標となることを目指しています。

今日、ますます多くの国民国家が多言語・多文化化していくなかで、対立や摩擦、差別や偏見、格差と不平等、文化やアイデンティティをめぐる葛藤といった多くの社会的課題が指摘されています。多言語・多文化社会に関わる研究者・実践者にとって、それらの現前する課題を探求することは、ひとつの大きな使命です。

多言語・多文化社会の問題は、目の前に現れている現象だけではありません。まだ表面化していない潜在的な課題や、その背後にある社会構造やシステム、社会的意識、言説やイデオロギーをあらわにし、既存の社会のあり方そのものを批判的、理論的に問い直すことも、多言語・多文化社会研究の大きな役割であると考えます。

さらに、多言語・多文化化は全世界的なグローバリゼーションの拡大・深化の一環として起こっています。それゆえ日本と諸外国の様相を比較することで、多言語・多文化化という社会・文化変動の全容を明らかにすることも重要です。

本誌の特徴は、従来のいわゆる「研究論文」に加え、「実践型研究論文」を新たに位置づけている点にあります。「実践型研究論文」とは、従来の「研究論文」における方法論や分析枠組みではとらえきれない、刻一刻と変化する現場での実践を対象とし、以下に述べる条件に合致したものとします。

- ・ 研究対象の実践活動が論文執筆者自身の経験によるものであること。
- ・ 先行する研究や実践について必要な言及または引用をしながら、現場の状況を客観的に分析し、問題意識と課題が明確に導き出されていること。
- ・ 実践のプロセスが問題にのっとなって記述されていること。
- ・ データ・事例の単なる提示ではなく、意味づけがなされていること。
- ・ 実践活動にともなう変容が記述されていること。
- ・ 課題の解決もしくは改善点にむけて分析がなされていること。

以上のような理念にもとづいて、本誌は、研究者と実践者がひとつに集い、現代日本および世界における多言語・多文化化と切り結ぶあらゆる試みを発信する「フォーラム」になることを願っています。

(2009年10月20日改訂)

『多言語多文化—実践と研究』 投稿論文の募集

『多言語多文化—実践と研究』は、東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターが発刊している研究誌です。本センターでは2015年の次号刊行にむけて、多言語・多文化化にかかわるさまざまな課題に取り組む研究者および実践者による投稿論文を広く募集します。投稿論文は、対象とする地域にかかわらず、現代日本における多言語・多文化化の考察に貢献しうるものとしします。

本誌の特徴は、従来のいわゆる「研究論文」に加え、「実践型研究論文」を新たに位置づけている点にあります。「実践型研究論文」とは、従来の「研究論文」における方法論や分析枠組みではとらえきれない、刻一刻と変化する現場での実践を対象とし、以下に述べる条件に合致したものとします。

- ・ 研究対象の実践活動が論文執筆者自身の経験によるものであること。
- ・ 先行する研究や実践について必要な言及または引用をしながら、現場の状況を客観的に分析し、問題意識と課題が明確に導き出されていること。
- ・ 実践のプロセスが問題にのっとなって記述されていること。
- ・ データ・事例の単なる提示ではなく、意味づけがなされていること。
- ・ 実践活動にともなう変容が記述されていること。
- ・ 課題の解決もしくは改善点にむけて分析がなされていること。

本誌は、研究者と実践者がひとつに集い、現代日本および世界における多言語・多文化化と切り結ぶあらゆる試みを発信する「フォーラム」になることを願っています。どうぞふるってご応募ください。

■ 字数

原稿の字数は25,000字以内（見出し、小見出し、図表等、注、文献リストを含む）とする。図表および写真などについては、4分の1ページに相当する大きさを400字相当、2分の1ページに相当する大きさを800字相当として換算する。

■ 投稿カテゴリーについて

投稿の際には、論文が「実践型研究論文」「研究論文」のいずれであるか、メール本文に明記のこと。

■ 投稿締め切り

2015年3月末日

■ 原稿提出先

研究誌投稿係 tc-ronbun@tufs.ac.jp

■ 研究誌の理念 (PDF)

■ 投稿規定 (PDF)

■ 執筆要領 (PDF)

『多言語多文化—実践と研究』投稿規定

多言語・多文化教育研究センター

本誌は、東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター（以下、本センター）の研究誌であり、年 1 回発行する。本誌は、別に定める研究誌の理念に合致した投稿論文を広く公募する。

1. 投稿資格

原稿の投稿は、誰でも行うことができる。

2. 使用言語

(1) 原稿の執筆は原則として日本語で行う。日本語以外の言語での執筆を希望する場合は、日本語訳（全訳）を同時に提出することとする。

(2) 母語以外の言語で論文を執筆する場合、使用言語のネイティブ話者によるチェックを受けること。

3. 字数

原稿の字数は 25,000 字以内（見出し、小見出し、図表等、注、文献リストを含む）とする。図表および写真等については、本誌の 4 分の 1 ページに相当する大きさを 400 字、2 分の 1 ページに相当する大きさを 800 字として換算する。

4. 投稿方法

本誌への投稿を希望する者は、以下の 2 つの文書を MS Word もしくはそれと互換性のある形式で作成し、電子メールの添付ファイルで提出すること。

(1) 投稿原稿（別紙執筆要項に基づいて横書きで作成すること）

(2) 執筆者情報

①氏名（日本語表記およびアルファベット表記）

②住所・電話番号・電子メールアドレス

③所属・職名（大学院生の場合は修士・博士の別、日本語表記および英語表記、）

④論稿の題目（和文）

⑤母語以外で執筆した原稿の場合、本文のネイティブチェック者の氏名・連絡先

<原稿提出先>

東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター

電子メールアドレス：tc-ronbun@tufs.ac.jp

※投稿後 1 週間経っても受領の連絡がない場合は、メールで問い合わせてください。

5. 応募期限

原稿の投稿締め切りは、毎年3月末日とする。

6. 査読

- (1) 投稿原稿は、レフェリーによる査読の後、本センターが査読結果にもとづき掲載可否、修正の要不要を決定し、投稿者に通知する。
- (2) 査読の結果、原稿の修正を求められた投稿者は、指定された期日までに指示された修正を行い、原稿を再提出すること。

7. 英文要旨

掲載が決定した論文については、投稿者は以下英文要旨を提出すること。

- ①論稿の題目（英文）
- ②200-300 words の英文要旨

8. その他

- (1) 論稿の掲載順序は、本センターが決定する。
- (2) 本誌に投稿される論稿は未発表のものに限る。ただし、学会・シンポジウム等において口頭で発表したものについてはその限りではない。また、ブックレット・報告書等に未査読で掲載されたものについては改訂した上で投稿してもよい。その場合は、必ず初出の掲載誌を投稿原稿末に明記すること。
- (3) 本誌に掲載される論稿に関しては、著作者が著作権を有するが、著作権法で規定する複製権および公衆送信権等については、著作者は国立大学法人東京外国語大学にその使用を許諾するものとする。

(2014年11月19日改訂)

『多言語多文化—実践と研究』執筆要領

1. ページ設定・文字

- (1) A4判の用紙にワープロソフトを使用して、横書き 40 字×40 行で作成する。
- (2) フォントは、日本語および全角の数字・ローマ字は MS 明朝など、半角の数字・ローマ字は Century などの標準的なフォントを使用する。

2. 全体の構成

原稿の構成は以下の通りとする。

- (1) 和文題目（副題も可）
- (2) 執筆者氏名
- (3) 本文
- (4) 注
- (5) 文献リスト

3. 見出し、小見出し、項

本文中の見出し、小見出し、項の表記は、以下の通りとする。

- [見出し] 1. 2. 3. ~ (数字・ピリオドは全角)
[小見出し] 1-1. 1-2. 1-3. ~ (数字・ハイフンは半角、ピリオドは全角)
[項] (1) (2) (3) ~ (数字は半角、括弧は全角)

4. 説明注

説明注は後注とする。本文中該当箇所の文字の右肩に注番号を 1 2 3・・・のように付し、注は本文末尾に 1 行空けて、[注] の見出しの下に一括して記載する。

5. 文献注

- ①本文や注で引用した文献を示す注（文献注）は、本文中の該当箇所に [著者の姓+西暦発行年: (半角空欄) 該当ページ] というかたちで記す（例：[石井 2003: 35]）。外国語文献の場合は、著者名と発行年のあいだに半角空欄を挿入する（例：[Anderson 1991: 105]）。
- ②同じ著者の同じ出版年の文献を引用する場合は、出版年の後に a, b... と小文字のアルファベットを順につけて区別する。（例：[Anderson 1991a] [Anderson 1991b]）
- ③ふたりの共著の場合は、外国語文献であれば [Weber and Marx 1890]、邦文文献であれば [高橋・青山 2005] などとする。3 人以上の共著の場合は、[Mills et al. 1965]、[伊東ほか 2001] などとする。
- ④編著の場合は、[梶田編 2002]、[有末・関根編 2005]、[Morris-Suzuki ed. 2001]、[Gellner and Hobsbawm eds. 1982] などとする。
- ⑤邦訳書の場合は、[原著者氏名+原著刊行年=訳書刊行年: 訳書の引用ページ]、すなわち [Hage 1998=2003: 36] などとする。
- ⑥ひとつの文献注でふたつ以上の著書、著者を示す場合は [青山 2000, 2001]（同一著者の場合）、[青山 2000; 伊東 2001]（異なる著者の場合）などとする。

6. 文献リスト

文献注で引用した文献は注の後に1行空けて、[文献]という見出しの下に一括してアルファベット順に並べたリストを作成する。

各文献の表記は原則として

＜著書＞著者名＋発行年＋題名・副題＋出版社。

＜論文＞著者名＋発行年＋論文名・副題＋掲載雑誌・号数＋掲載ページ。

とする。なお、邦文文献の場合はカンマ、ピリオド等は全角で、題名は『』（論文は「」）で囲み、主題と副題のあいだには——（全角2倍ダッシュ）をつける。外国語文献の場合はすべて半角文字とし、ファミリーネームを先頭にし、主題と副題はイタリック体にして、あいだをコロンでつなげる。また出版社の前に出版都市名を明記する。

その他、表記法の詳細は以下の事例を参照。

（単著）

戴エイカ, 1999, 『多文化主義とディアスポラ——Voices from San Francisco』明石書店。

Castles, Stephan, 2000, *Ethnicity and Globalization: From Migrant Worker to Transnational Citizen*. London: Sage.

（雑誌論文）

保莉実, 2002, 「アンチ・マイノリティ・ヒストリー——ローカルかつグローバルな歴史に向けて」『現代思想』30(1): 20-32.

Mar, Phillip, 1998, “Just the Place is Different: Comparisons of Place and Settlement Practices of Some Hong Kong Migrants in Sydney,” *The Australian Journal of Anthropology* 9(1): 58-73.

（編著・編著論文）

宮島喬・梶田孝道編, 2002, 『マイノリティと社会構造』東京大学出版会。

関根政美, 2002, 「オーストラリアの多文化主義とマイノリティ」宮島・梶田編, 209-34.

関根政美, 2002, 「オーストラリアの多文化主義とマイノリティ」宮島・梶田編 2002a, 209-34.

←※同一編者の編著が複数ある場合

Bennett, David ed., 1998, *Multicultural States: Rethinking Difference and Identity*. London: Routledge.

Hall, Stuart, 2000, “The Multicultural Question,” Hesse ed., 209-41.

Hall, Stuart, 2000, “The Multicultural Question,” Hesse ed. 2000a, 209-41.

←※同一編者の編著が複数ある場合

（訳書）

Hage, Ghassan, 1998, *White Nation: Fantasies of White Supremacy in a Multicultural Society*. Annandale: Pluto Press. (=2003, 保莉実・塩原良和訳『ホワイト・ネイション——ネオ・ナショナリズム批判』平凡社.)

7. 図表および写真等

図表および写真等は本文中の該当箇所に挿入・添付し、それぞれ 図 - 1、表 - 1、写真 - 1 などのように通し番号をつけ、タイトルをつける。タイトルは、表の場合は表の上に、図・写真の場合は下につける。

(2009年2月4日改訂)

多文化社会コーディネーター倫理綱領

前文

私たち多文化社会コーディネーターは、多文化社会の問題を解決することによって、多文化共生社会の実現を目指す専門職である。専門職として業務を遂行するために、私たちは、個人の利益に走らず、専門職の自覚と責任を持って、この倫理綱領を順守する。

1 多文化社会コーディネーターの定義

多文化社会コーディネーターは、あらゆる組織において、多様な人々との対話、共感、実践を引き出しつつ、問題解決のために「参加」→「協働」→「創造」のプロセスをデザインしながら、言語・文化の違いを超えてすべての人が共に生きることのできる社会に向けてプログラム（活動）を構築・展開・推進する専門職である。

2 業務のあり方

2-1 目指すべき多文化共生社会

多文化社会コーディネーターは、言語・文化の違いを超えてすべての人が共に生きることのできる社会を多文化共生社会と捉え、業務にあたる。

2-2 参加・協働・創造のプロセスの循環の推進

多文化社会コーディネーターは、問題を解決するプロセスにおいて、多様な人・機関の参加の場を設定し、問題を共有することによって、協働を促し、新たな活動・事業・施策・仕組み、ネットワーク、知識、文化を創造する役割を担う。その中で発見される新たな課題を見逃さずその解決に向かうために、常に参加・協働・創造のプロセスの循環の推進を意識して業務にあたる。

3 倫理基準

3-1 個人情報

多文化社会コーディネーターは、個人情報保護法に沿って、業務上取得した個人情報を適正に管理し本人の同意の範囲でのみ活用する。

3-2 プライバシーの尊重

多文化社会コーディネーターは、個人のプライバシーを尊重する。

3-3 説明責任

多文化社会コーディネーターは、関わるすべての人に対し、必要な情報を適切な方法・わかりやすい表現により提供する説明責任を果たす。

3-4 権利の擁護

多文化社会コーディネーターは、関わるすべての人と組織の権利を十分考慮し、それを擁護することに努める。

3-5 倫理上のジレンマ

多文化社会コーディネーターは、実務において倫理的ジレンマに直面した場合、自らの役割とその倫理の根幹に立ち返り、適切な判断をする。

3-6 専門性の向上

多文化社会コーディネーターは、多文化社会に関する研さんを怠らず、かつ、自らの実践を振り返り、その暗黙知を言語化することに努める。また他のコーディネーターなどとの協働による省察の場（実践コミュニティ）を通じて、常に自らの専門性の向上につとめる。

以上

相談通訳の倫理綱領

東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター
コミュニティ通訳協働実践型研究会

前文

私たち相談通訳は、あらゆる専門家相談および外国語相談窓口の現場において、言語・文化的マイノリティが抱える諸問題の内実を読み取り、言語間の訳出行為にとどまらず、他の専門家と協働して課題の解決を目指す。

「相談通訳の倫理綱領」は、通訳実務を担う専門人材が自らの実践において順守し、振り返るための行動指針である。またこの倫理綱領は、多文化共生を目指す一専門職としての相談通訳の自覚を広く社会に示し、その業務上の責任範囲を明らかにするものである。

1 相談通訳の定義

相談通訳は、コミュニティ通訳の専門分野である司法・行政・教育・医療の分野において、言語・文化的マイノリティを通訳・翻訳面から支援し、ホスト社会につなげる「橋渡し役」を務める専門職である。

2 倫理基準

相談通訳として業務を遂行するにあたり、以下の「知識」「技術」「態度／マナー」に分類される倫理基準を順守する。

2-1 知識

・相談通訳は、日本の制度面を中心とした司法・行政・教育・医療の各分野に関する基礎知識を習得する。

・相談通訳は、日本社会の多言語・多文化化をめぐる動向を把握し、相談者の背景に関する理解を深める。

2-2 技術

・相談通訳は、情報を正確に「聞く」力、共感的に「聴く」力、質問により問題を把握するための「訊く」力からなる「きく」力を基本的技術として、的確なヒアリングを行う。

・相談通訳は、正確かつ忠実な通訳を提供するため、逐次通訳を原則とする。

・相談通訳は、専門家の発話が相談者に十分に理解できないと通訳者の立場から判断され

るとき、専門家に状況を説明する。

- ・相談通訳は、相談者の発話が言語・文化的相違により誤解を生ずるおそれがあると判断されるとき、それを専門家に適切に伝え、コミュニケーションを円滑にする。

2-3 態度／マナー

- ・相談通訳は、業務上知り得た情報について守秘義務を順守し、自らの個人情報についても厳重に管理する。

- ・相談通訳は、対象となる人たちとの信頼関係を形成するため、自ら適切な服装・表情・振る舞いを心掛け、また対象者間の立場の違いに配慮しながら、対等なコミュニケーションを成立させる。

- ・相談通訳は、社会からの理解と信頼を得るために、自己の力量を自覚して業務にあたる。

- ・相談通訳は、自らの実践を振り返り、協働による省察の場を通じて、常に専門性の向上に努める。

以上

2011(平成23)年度 多言語・多文化教育研究センター事業計画

事業名	内 容	実施日
1 教育活動	<p>学生が日本社会の多言語・多文化状況に関わる市民的素養と行動力を身につけることができるよう、正規の授業科目として多言語・多文化総合プログラムを開講するとともに、学生のボランティア活動を支援・推進する。</p>	
(1) 多言語・多文化総合プログラム	多言語・多文化社会で生ずる様々な問題に取り組むことのできる人材育成を目的にした独自の教育プログラムを展開する	
多言語・多文化社会論入門	1学期では、研究者および実践者をゲスト・スピーカーとして招き、日本社会の多言語・多文化化の現状についての背景知識を提供し、学生に現状についての認識を深めさせる。	1学期
	2学期では、1学期の授業を踏まえ、ゲスト・スピーカーによる現場の声を通して、日本社会の多言語・多文化化にかかわる個別的な問題について、学生にさらに深い理解をもたせる。	2学期
多言語・多文化社会の歴史と現在	日本と世界の多言語・多文化化の歴史と現在について学ぶ。	1学期
多言語・多文化社会の理論と視角	多言語・多文化社会にかかわる理論と視角を学ぶ。2学期。	2学期
政策と法	多言語・多文化社会をめぐる政策や法的諸問題について専門家をゲスト・スピーカーとして招いて学ぶ。2学期。	2学期
言語技能入門	「コミュニティ通訳」としての心構えと基礎を学ぶ。	1学期
	1学期の基礎をもとに、具体的な言語を通して実践的通訳の基礎を身につける。	2学期
多言語・多文化社会実習	多言語・多文化総合プログラムで学んだことを社会の現場で活かし、ボランティア活動を行う。「社会論入門Ⅰ」と「社会論入門Ⅱ」の両方の単位をすでに取得していることが履修条件。	1学期
わたしの多言語・多文化社会論（プレゼンテーション）	総合プログラムで学んだことの総括として各自テーマを設定し、内容の組み立て・進行から発表方法に至るまで、それらをプレゼンテーションとして表現するための様々な技法を学ぶ。	2学期
(2) 多文化コミュニティ教育支援室	多文化化する地域社会での活動を教育の一環として位置づけ、学生主体の活動が展開できるよう支援する。	
外国籍児童生徒への学習支援	自治体や国際交流協会など公的団体において、学生ボランティアによる外国につながる児童生徒への学習支援活動を支援・推進する。	通年
地域の小中学校における国際理解教育	国際交流協会や小中学校において、団体と学生（留学生を含む）が協働により実施する国際理解教育活動を支援・推進する。	10月～1月
2 研究活動		
(1) 協働実践型研究活動	多文化社会における専門人材として、多文化社会コーディネーター、コミュニティ通訳、子ども・地域日本語教育指導者の専門性や養成カリキュラムについて実践的・学術的に研究を進める。また、社会的通用性を担保する仕組みとして「認定制度」の確立を目指す。	
多文化社会コーディネーター研究	センターフェローのうちコーディネーター研究をテーマとする者で研究会を開催し協働で実践研究を推進する。	
コミュニティ通訳研究	移民先進国における先行研究や日本社会における問題状況から日本におけるコミュニティ通訳のあり方および専門性に関する研究を推進する。	
子ども・地域日本語教育指導者研究	日本における外国につながる児童・生徒に対する日本語学習支援および地域日本語教育における指導者に関する研究を推進する。	
(2) 多文化社会実践研究・全国フォーラム（第5回）	本センターの協働実践型研究活動の成果を共有するとともに、多文化社会の課題に取り組む全国の実践者、研究者が一堂に会し意見交換する場を提供することによって、全国的なネットワークづくりを推進する。	11月26日(土)・27日(日)の2日間
(3) 新進研究者・実践者支援／センターフェロー制度	新進研究者および実践者を対象に多言語・多文化社会に関する実践研究が行えるようセンターフェローとして身分を保障し、研究の場を提供する。	委嘱：4月～翌年3月
(4) 研究成果の発信／研究誌「多言語多文化—実践と研究」の発行	研究者および実践者に、現代日本における多言語・多文化化の考察に貢献しうる研究の成果発表の場を提供する。年1回刊行。	締切：3月末日 2012年度秋ころ発行
3 社会連携活動	多言語・多文化に関する諸問題を解決できるよう、多様な団体・機関との連携、協働を図る	
(1) 多言語・多文化社会専門人材養成講座の開講	オープンアカデミーの「多言語・多文化社会専門人材養成講座」の企画運営を行う。「コミュニティ通訳コース」（全7日間）と「多文化社会コーディネーターコース」（8月～翌年2月の全7ヶ月間）の2コースを開講する。	8月～翌年2月
(2) コミュニティ通訳紹介制度	上記「コミュニティ通訳コース」修了者を「コミュニティ通訳」として登録し、弁護士会等からの依頼を受けて適宜紹介する。	随時
(3) 語学ボランティア活動の推進	社会連携事業室と連携して本学教職員、大学院生、OB・OGの語学ボランティア登録および活動を推進し、東京外国人支援ネットワークの一員として、外国人のための専門家相談会に通訳ボランティアもしくは運営スタッフとして参加する。また、必要に応じて研修会等を開催する。	
(4) 在日外国人児童のための教材開発（ベトナム語）	これまでに開発した漢字教材および算数教材について、ポルトガル語、フィリピン語、スペイン語に引き続き、ベトナム語の翻訳版の作成に着手する。	
(5) 高校生のための国際理解セミナーの開催	高校生および同年代の青少年を対象として、世界のさまざまな課題について考え、文化や国際問題に対する感性とコミュニケーション能力を高めるためのセミナーを開催する。	12月
(6) 共催・後援	他団体が実施する多言語・多文化に関するシンポジウム、講演会、イベント等の共催もしくは後援を行う。	適宜
(7) ネットワーク拡大の推進	多文化社会に向けて起こりつつある諸課題に共に取り組んでいくため、機関、団体との連携を推進する。また、2011.3.11に起こった東日本大震災の経験から、災害時における多言語情報提供の仕組みも検討する。	随時
4 広報活動	本センターの活動を中心に、多言語・多文化関連情報を提供・発信する。	
メールマガジン	本センターのニュース、多言語・多文化関連情報をコンパクトに編集し、団体、個人の希望者に送信する。	月1～2回
ウェブサイト	本センターに関する基本情報および最新情報を発信する。	随時更新
センターパンフレット	センター活動を広く周知するため、A4判1枚三つ折りのパンフレットを作成し、イベント等で配布する。	

2012(平成24)年度 多言語・多文化教育研究センター事業計画

事業名	内 容	実施日
1 教育活動	学生が日本社会の多言語・多文化状況に関わる市民的素養と行動力を身につけることができるよう、正規の授業科目として多言語・多文化総合プログラムを開講するとともに、学生のボランティア活動を支援・推進する。	
多言語・多文化総合プログラム	多言語・多文化社会で生ずる様々な問題に取り組むことのできる人材育成を目的にした独自の教育プログラムを展開する	
多言語・多文化社会論入門	1学期は、日本社会の多言語・多文化化の現状について、実際にどのような人が暮らしているかを学ぶことを通して、その社会的背景を学ばせる。また、留学生やニューカマーの人など、学生が具体的なイメージを持ちやすいように適宜ゲストスピーカーの声を聞く。 2学期では、1学期の授業を踏まえ、より多文化社会を包括的理解を学生に持たせるようにする。具体的には、日本社会の多言語・多文化化にあたり浮かび上がる個別の問題を捉える上で、必要な概念や制度、問題解決のアクターについて、学生にさらに深い理解をもたせる。1学期と同様、学生のより実践的な理解を深めるために、適宜ゲストスピーカーの声を聞く。	1学期 2学期
多言語・多文化社会の歴史と現在	日本と世界の多言語・多文化化の歴史と現在について学ぶ。	1学期
多言語・多文化社会論	多言語・多文化社会にかかわる理論と視角を学ぶ。2学期。	2学期
政策と法	多言語・多文化社会をめぐる政策や法的諸問題について専門家とともに参加型で学ぶ。2学期。	2学期
言語技能入門	「コミュニティ通訳」としての心構えと基礎を学ぶ。 1学期の基礎をもとに、具体的な言語を通して実践的通訳の基礎を身につける。	1学期 2学期
多言語・多文化社会実践	多言語・多文化総合プログラムで学んだことを社会の現場で活かし、ボランティア活動を行う。（「社会論入門Ⅰ」と「社会論入門Ⅱ」の両方の単位をすでに取得していることが履修条件。	1学期
2 研究活動		
(1) 協働実践型研究	多文化社会における専門人材として、多文化社会コーディネーター、コミュニティ通訳、子ども・地域日本語教育指導者の専門性や養成カリキュラムについて実践的・学術的に研究を進める。また、社会的通用性を担保する仕組みとして「認定制度」の確立を目指す。	
多文化社会コーディネーター研究	センターフェローのうちコーディネーター研究をテーマとする者で研究会を開催し協働で実践研究を推進する。	通年
コミュニティ通訳研究	移民先進国における先行研究や日本社会における問題状況から日本におけるコミュニティ通訳のあり方および専門性に関する研究を推進する。	
基礎研究	大学における専門職教育および認定制度等のあり方に関する研究を行う。	
子ども・地域日本語教育指導者研究	日本における外国につながる児童・生徒に対する日本語学習支援および地域日本語教育における指導者に関する研究を推進する。	
(2) 多文化社会実践研究・全国フォーラム（第6回）	本センターの協働実践型研究活動の成果を共有するとともに、多文化社会の課題に取り組む全国の実践者、研究者が一堂に会し意見交換する場を提供することによって、全国的なネットワークづくりを推進する。	12月1日(土)・2日(日)の2日間
(3) 新進研究者・実践者支援／センターフェロー制度	新進研究者および実践者を対象に多言語・多文化社会に関する実践研究が行えるようセンターフェローとして身分を保障し、研究の場を提供する。	委嘱：4月～翌年3月
(4) 研究成果の発信／研究誌「多言語多文化—実践と研究」の発行	研究者および実践者に、現代日本における多言語・多文化化の考察に貢献しうる研究の成果発表の場を提供する。年1回刊行。	2012年度秋発行
3 社会連携活動	多言語・多文化に関する諸問題を解決できるよう、多様な団体・機関との連携、協働を図る	
(1) 多言語・多文化社会専門人材養成講座の開講	オープンアカデミーの「多言語・多文化社会専門人材養成講座」の企画運営を行う。「コミュニティ通訳コース」（全7日間）と「多文化社会コーディネーターコース」（8月～翌年2月の全7ヶ月間）の2コースを開講する。	8月～翌年2月
(2) コミュニティ通訳紹介制度	上記「コミュニティ通訳コース」修了者を「コミュニティ通訳」として登録し、弁護士会等からの依頼を受けて適宜紹介する。	随時
(3) 言語ボランティア活動の推進	社会連携事業室と連携して本学教職員、大学院生、OB・OGの言語ボランティア登録および活動を推進し、全国各地の外国人のための相談会等に通訳ボランティアもしくは運営スタッフとして参加する。また、必要に応じて自治体や国際交流協会等との連携により研修会等を開催するなど、多文化社会に向けて起こりつつある諸課題に共に取り組んでいくため、機関、団体とのネットワーク構築を推進する。特に、2011.3.11に起こった東日本大震災の経験から、災害時における多言語情報提供の仕組みを検討する。	
(4) 共催・後援	他団体が実施する多言語・多文化に関するシンポジウム、講演会、イベント等の共催もしくは後援を行う。	適宜
(5) ボランティア活動スペースの運営	日本の多文化化の問題解決の一旦として外国につながる子どもへの学習支援活動、ホスト社会側への働きかけとしての国際理解教育活動を中心に地域との連携のもと学生のボランティア活動の場を設定し推進する。また、学生の自主的活動を促進するための研修・講座を開催し、学生の企画運営による学内および地域における主体的活動を支援する。（新入生オリエンテーションやオープンキャンパスで広報活動を行う。）	
(6) 外国につながる子どものための教材開発（ベトナム語）	これまでに開発した漢字教材および算数教材について、ポルトガル語、フィリピン語、スペイン語に引き続き、ベトナム語の翻訳版の作成を行う。	
(7) 高校生のための国際理解セミナーの開催	高校生を対象に、世界のさまざまな課題について考え、文化や国際問題に対する感性とコミュニケーション能力を高めるためのセミナーを企画・運営する。オープンアカデミーの主催事業として開催する。	12月
4 広報活動	本センターの活動を中心に、多言語・多文化関連情報を提供・発信する。	
メールマガジン	本センターのニュース、多言語・多文化関連情報をコンパクトに編集し、団体の希望者に送信する。	月1～2回
ウェブサイト	本センターに関する基本情報および最新情報を発信する。	随時更新

事業名	内容	実施日
1 教育活動		
教養教育	本学の学生が教養として身に付けてほしい、「多文化共生社会」を実現するために必要な基礎的な知識を学ぶ科目群を提供する。「多言語・多文化総合プログラム」における「多言語・多文化社会論入門Ⅰ、Ⅱ」、「多言語多文化社会論：理論と視角」、「多言語多文化社会論：歴史と現在」、「多言語多文化社会論：実践」などである。またこれらの科目は、外国語学部の「総合科目」としても開講される。	通年
専門教育	外国語学部においては、「専修専門科目」「卒業論文・卒業研究演習」を開講し、言語文化学部においては、グローバルコミュニケーションコース内の授業として、「概論科目」である「多言語・多文化社会実践概論」としてコミュニティ通訳研究と多文化社会コーディネーション研究に関する授業を提供する。	通年
2 研究活動	日本の多文化化の問題解決に寄与する人材に関する研究を推進する。また、全国の実践者・研究者による協働実践研究の場として研究会等を実施する。さらに研究成果の発信として研究誌等を発行する。	
(1) 協働実践型研究	多文化社会における専門人材として、多文化社会コーディネーター、コミュニティ通訳、子ども・地域日本語教育指導者(コーディネーター)の専門性や養成カリキュラムについて実践的・学術的に研究を進める。また、社会的通用性を担保する仕組みとして「認定制度」の確立を目指す。	
多文化社会コーディネーター研究	コーディネーター研究をテーマとする者で研究会を開催し協働実践研究を推進する。今年度より専門職化に向けた仕組みづくりについて検討する。	通年
コミュニティ通訳研究	日本社会における問題状況から日本におけるコミュニティ通訳のあり方および専門性に関する研究を推進する。今年度より関東弁護士会連合会との協働で「司法における遠隔通訳」に関する実践研究を推進する。	通年
基礎研究	多文化社会人材養成に関する理解を促進するための教材に関する研究を行う。	通年
(2) 多文化社会実践研究・全国フォーラム(第7回)	本センターの協働実践型研究活動の成果を共有するとともに、多文化社会の課題に取り組む全国の実践者、研究者が一堂に会し意見交換する場を提供することによって、全国的なネットワークづくりを推進する。	11月30日(土)
(3) 研究成果の発信/研究誌「多言語多文化—実践と研究」の発行	研究者および実践者に、現代日本における多言語・多文化化の考察に貢献しうる研究の成果発表の場を提供する。年1回刊行。	2013年秋発行
3 社会連携活動	多言語・多文化に関する諸問題を解決できるよう、多様な団体・機関との連携、協働を図る	
(1) 多言語・多文化社会専門人材養成講座の開講	オープンアカデミーの「多言語・多文化社会専門人材養成講座」の企画運営を行う。「コミュニティ通訳コース」(全7日間)と「多文化社会コーディネーターコース」(8月～翌年2月の全7ヶ月間)の2コースを開講する。	8月～翌年2月
(2) コミュニティ通訳紹介制度	上記「コミュニティ通訳コース」修了者を「コミュニティ通訳」として登録し、弁護士会等からの依頼を受けて適宜紹介する。	随時
(3) 言語ボランティア活動の推進	社会連携事業室と連携して本学教職員、大学院生、OB・OGの言語ボランティア登録および活動を推進し、全国各地の外国人のための相談会等に通訳ボランティアもしくは運営スタッフとして参加する。また、必要に応じて自治体や国際交流協会等との連携により研修会等を開催するなど、多文化社会に向けて起こりつつある諸課題に共に取り組んでいくため、機関、団体とのネットワーク構築を推進する。	随時
(4) 後援	他団体が実施する多言語・多文化に関するシンポジウム、講演会、イベント等の後援を行う。	適宜
(5) ボランティア活動スペース(VOLAS)の運営	日本の多文化化の問題解決の一端として外国につながる子どもへの学習支援活動、ホスト社会側への働きかけとしての国際理解教育活動を中心に地域との連携のもと学生のボランティア活動推進の場としてVOLASの運営を行う。また、学生の自主的活動を促進するための研修・講座を開催し、学生の企画運営による学内および地域における主体的活動を支援する。	通年
(6) 在日外国人児童のための教材開発(タイ語)	これまでに開発した漢字教材および算数教材について、ポルトガル語、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語に引き続き、タイ語の翻訳版の作成を行う。	通年
4 広報活動	本センターの活動を中心に、多言語・多文化関連情報を提供・発信する。	
メールマガジン	本センターのニュース、多言語・多文化関連情報をコンパクトに編集し、団体、個人の希望者に送信する。	月1～2回
ウェブサイト	本センターに関する基本情報および最新情報を発信する。	随時更新

2014(平成26)年度 多言語・多文化教育研究センター事業計画

2014.04.01

事業名	内容	実施日
1 教育活動	学生が日本社会の多言語・多文化状況に関わる市民的素養と行動力を身につけることができるよう、正規の授業科目として多言語・多文化総合プログラムを開講する。	
教養教育	本学の学生が教養として身に付けてほしい、「多文化共生社会」を実現するために必要な基礎的な知識を学ぶ科目群を提供する。「多言語・多文化総合プログラム」における「多言語・多文化社会論入門Ⅰ、Ⅱ」、「多言語多文化社会論：理論と視角」、「多言語多文化社会論：歴史と現在」、「多言語多文化社会論：実践」などである。またこれらの科目は、外国語学部の「総合科目」としても開講される。	通年
専門教育	外国語学部においては、「専修専門科目」「卒業論文・卒業研究演習」を開講し、言語文化学部においては、グローバルコミュニケーションコース内の授業として、「概論科目」である「多言語・多文化社会実践概論」としてコミュニティ通訳研究と多文化社会コーディネーション研究に関する授業を提供する。	通年
2 研究活動	日本の多文化化の問題解決に寄与する人材に関する研究を推進する。また、全国の実践者・研究者による協働実践研究の場として研究会等を実施する。さらに研究成果の発信として研究誌等を発行する。	
(1) 協働実践型研究	多文化社会における専門人材として、多文化社会コーディネーター、コミュニティ通訳、子ども・地域日本語教育指導者(コーディネーター)の専門性や養成カリキュラムについて実践的・学術的に研究を進める。また、社会的通用性を担保する仕組みとして「認定制度」の確立を目指す。	
多文化社会コーディネーター研究	多文化社会コーディネーター研究において、昨年度に引き続き科研費による「専門職の知と専門性評価に関する研究」を協働実践研究として推進する。	通年
コミュニティ通訳研究	日本社会における問題状況から日本におけるコミュニティ通訳の専門性に関する研究を推進する。昨年度に引き続き関東弁護士会連合会との協働で「司法における遠隔通訳」に関する実践研究を推進する。	通年
(2) 多文化社会実践研究・全国フォーラム(第8回)	本センターの協働実践型研究活動の成果を共有するとともに、多文化社会の課題に取り組む全国の実践者、研究者が一堂に会し意見交換する場を提供することによって、全国的なネットワークづくりを推進する。	12月13日(土)
(3) 研究成果の発信/研究誌「多言語多文化—実践と研究」Vol. 6の発行	研究者および実践者に、現代日本における多言語・多文化化の考察に貢献しうる研究の成果発表の場を提供する。年1回刊行。	2014年秋発行
(4) 学内連携の推進	学内研究組織との共同研究を推進する。	随時
3 社会連携活動	多言語・多文化に関する諸問題を解決できるよう、多様な団体・機関との連携、協働を図る	
(1) 多文化社会専門人材養成講座の開講	オープンアカデミーにおいて開講する「多文化社会コーディネーター養成講座」(8月～翌年2月の全7ヶ月間/基礎科目と専門科目)の他、8月4日間の基礎科目を「多文化社会論基礎講座」として2つの講座の企画運営を行う。	8月～翌年2月
(2) コミュニティ通訳紹介制度	養成講座修了者を「コミュニティ通訳」として登録し、力量形成を目的に通訳実践の場として弁護士会等からの依頼を受けて適宜紹介する。	随時
(3) 言語ボランティア活動の推進	社会連携事業室と連携して本学教職員、大学院生、OB・OGの言語ボランティア登録および活動を推進し、全国各地の外国人のための相談会等に通訳ボランティアもしくは運営スタッフとして参加する。また、必要に応じて自治体や国際交流協会等との連携により研修会等を開催するなど、多文化社会に向けて起こりつつある諸課題に共に取り組んでいくため、機関、団体とのネットワーク構築を推進する。	随時
(4) 後援	他団体が実施する多言語・多文化に関するシンポジウム、講演会、イベント等の後援を行う。	適宜
(5) 外国につながる子どもたちのための教材普及の促進	これまでに開発したポルトガル語、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語、タイ語の漢字教材および算数教材について普及活動を行う。	通年
4 広報活動	本センターの活動を中心に、多言語・多文化関連情報を提供・発信する。	
メールマガジン	本センターのニュース、多言語・多文化関連情報をコンパクトに編集し、団体、個人の希望者に送信する。	月1～2回
ウェブサイト	本センターに関する基本情報および最新活動情報を発信する。	随時更新

2015(平成27)年度 多言語・多文化教育研究センター事業計画

事業名	内 容	実施日
1 教育活動	学生が日本社会の多言語・多文化状況に関わる市民的素養と行動力を身につけることができるよう、正規の授業科目として多言語・多文化総合プログラムを開講する。	
教養教育	本学の学生が教養として身に付けてほしい、「多文化共生社会」を実現するために必要な基礎的な知識を学ぶ科目群を提供する。「多言語・多文化総合プログラム」における「多言語・多文化社会論入門Ⅰ、Ⅱ」、「多言語多文化社会論：理論と視角」、「多言語多文化社会論：歴史と現在」「多言語多文化社会論：実践」などである。またこれらの科目は、外国語学部の「総合科目」としても開講される。	通年
専門教育	外国語学部においては、「専修専門科目」「卒業論文・卒業研究演習」を開講し、言語文化学部においては、グローバルコミュニケーションコース内の授業として、「概論科目」である「多言語・多文化社会実践概論」「専門選択科目」「卒業論文演習」の授業を提供する。	通年
2 研究活動	日本の多文化化の問題解決に寄与する人材に関する研究を推進する。また、全国の実践者・研究者による協働実践研究の場として研究会等を実施する。さらに研究成果の発信として研究誌等を発行する。	
(1) 協働実践型研究	多文化社会における専門人材として、多文化社会コーディネーター、コミュニティ通訳、子ども・地域日本語教育指導者(コーディネーター)の専門性や養成カリキュラムについて実践的・学術的に研究を進める。また、社会的通用性を担保する仕組みとして「認定制度」の確立を目指す。	
多文化社会コーディネーター研究	2013年度から実施している科研費による「専門職の知と専門性評価に関する研究」において、これまで多文化社会コーディネーターの実践知に関する研究および専門職として必要とされる倫理綱領の策定を行ってきた。今年度は、2年間の成果を踏まえて認定試験を試行しその検証を通して社会的に通用する認定制度の確立を目指す。	通年
コミュニティ通訳研究	コミュニティ通訳の専門領域の1つである「相談通訳」の専門職化の推進を目的に、相談通訳倫理綱領を策定する。また、日弁連法務研究財団の助成による「法律相談における通訳人の認定制度に関する研究」において「相談通訳」認定を試行しその検証を通して外国人相談における専門職としての相談通訳認定制度の確立を目指す。	通年
(2) 多文化社会実践研究・全国フォーラム(第9回)	本センターの協働実践型研究活動の成果を共有するとともに、多文化社会の課題に取り組む全国の実践者、研究者が一堂に会し意見交換する場を提供することによって、全国的なネットワークづくりを推進する。	12月12日(土)
(3) 研究成果の発信/研究誌「多言語多文化—実践と研究」Vol. 7の発行	研究者および実践者に、現代日本における多言語・多文化化の考察に貢献しうる研究の成果発表の場を提供する。年1回刊行。	2015年秋発行
(4) 学内連携の推進	学内研究組織と連携して研究を推進する。	随時
3 社会連携活動	多言語・多文化に関する諸問題を解決できるよう、多様な団体・機関との連携、協働を図る	
(1) 多文化社会専門人材養成講座の開講	オープンアカデミーにおいて「多文化社会専門人材養成講座(多文化社会論基礎)」として、7月23～26日の4日間の日程で企画運営を行う。	7月23～26日
(2) コミュニティ通訳紹介制度	養成講座修了者を「コミュニティ通訳」として登録し、力量形成を目的に通訳実践の場として弁護士会等からの依頼を受けて適宜紹介し相談通訳を行う。	随時
(3) 言語ボランティア活動の推進	社会連携事業室と連携して本学教職員、大学院生、OB・OGの言語ボランティア登録および活動を推進し、全国各地の外国人のための相談会等に通訳ボランティアもしくは運営スタッフとして参加する。また、必要に応じて自治体や国際交流協会等との連携により研修会等を開催するなど、多文化社会に向けて起こりつつある諸課題に共に取り組んでいくため、機関、団体とのネットワーク構築を推進する。	随時
(4) 後援	他団体が実施する多言語・多文化に関するシンポジウム、講演会、イベント等の後援を行う。	適宜
(5) 外国につながる子どもたちのための教材普及の促進	これまでに開発したポルトガル語、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語、タイ語の漢字教材および算数教材について普及活動を行う。	通年
(6) 佐賀県受託協働実践研究	佐賀県の多文化共生施策を推進するための協働実践研究を受託する。	通年
4 広報活動	本センターの活動を中心に、多言語・多文化関連情報を提供・発信する。	
メールマガジン	本センターのニュース、多言語・多文化関連情報をコンパクトに編集し、団体、個人の希望者に送信する。	月1～2回
ウェブサイト	本センターに関する基本情報および最新活動情報を発信する。	随時更新

2011-2015 年度
多文化社会人材養成プロジェクト報告書

発行日 2016年3月25日
編集・発行 東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 研究講義棟 319
TEL: 042-330-5441 FAX: 042-330-5448 E-mail: tc@tufs.ac.jp
URL: <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>